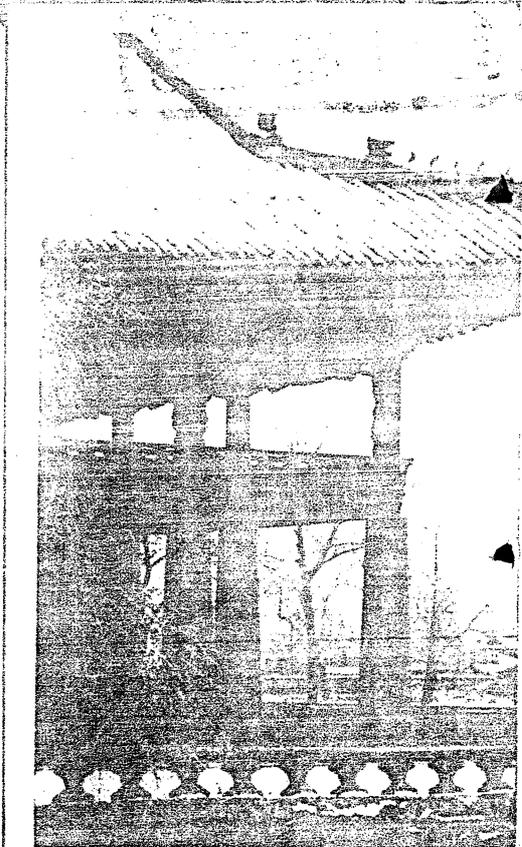


朝鮮統計時報

創刊號



氷袋の慶會樓

朝鮮統計協會

祝 創 刊

京城府太平通一丁目十九番地

朝鮮火災海上保險株式會社



總督題字

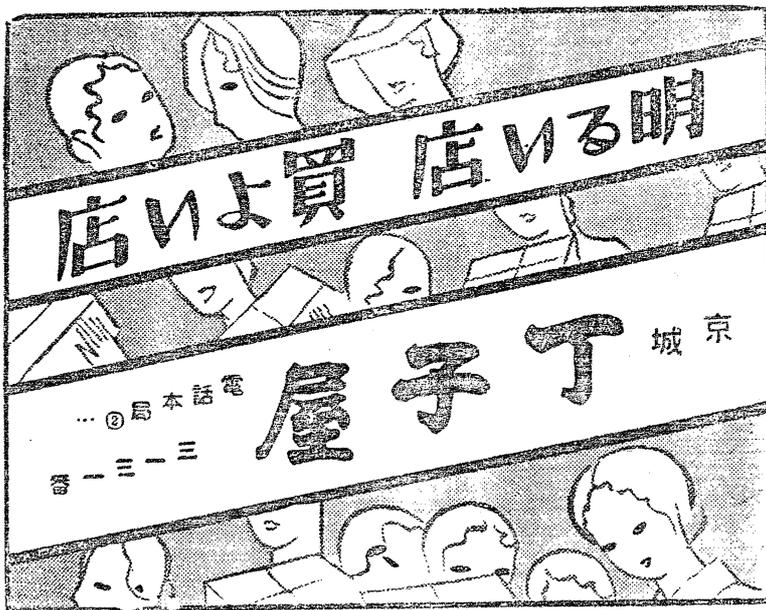
不誣
實
一年
欺



總督

祝 創 刊

京 城 電 氣 株 式 會 社



機 宣 會 優 校 萬 國
 幕 傳 旗 勝 旗 國 旗
旗 カメヤ旗店

七 五 五 五 五 五 五
 番 番 番 番 番 番 番
 四 八 三 八 三 八 三
 番 番 番 番 番 番 番
 振 替 京 城 振 替 京 城

日に一時間でよいから本どき読みなさい
 あなたの聰明さは絶対のものとなるでせう
 ・ サミュエル・スマイル・

京 城 本 町 一 丁 目

大 阪 屋 號 書 店

振替京城 2573. 電話本局 2086・0684番

朝鮮地圖各種

總督府指定販賣所

小林又七朝鮮地圖部

京城長谷川町八六

祝 創 刊

京城府鍾路一丁目三十六番地

橫濱
海上火災保險株式會社
京城支店

731100



祝 刊 發

邦文タイプライター
 複式金額タイプライター
 萬能活字鑄造機
 力ボーペンパー
 其他一式

本社工場 東京、支店 大阪、大塚、上海

出張所 名古屋、札幌、臺北、奉天、新京

最古の歴史
 最善の奉仕
 最新の設備
 最大の顧客
 は
 事務の刷新
 能率の増進
 に獨特の力
 を生みつつ
 あり!!

邦文タイプライター
 邦文モノタイプ
 萬能活字鑄造機
 製造發行會元

日本タイプライター株式會社東京出張所
 朝鮮京城南大門通り百廿四番地
 電話本圖九二二番
 電報掛一五八七五番
 受電掛七五八番

呈拜

録型

祝 創 刊

株式會社
朝鮮殖產銀行

朝鮮統計時報 創刊號 目次

羅進朝鮮と統計協會の使命

塩田正洪 二

近代的統計調査と民衆啓發の急務

長谷川赳夫 (4)

鮮滿統計の協力

向井俊郎 (5)

目標を朝鮮大衆に

柳澤保惠 (6)

朝鮮統計と關係淺からぬ余の欣び

横山雅男 (7)

使命達成への邁進を望む

富永文一 (8)

機宜の施設

金東勳 (10)

我意を得たり

高元勳 (10)

斯界の福音

近藤常尙 (11)

統計發達上の光明

鄭僑源 (12)

朝鮮進展の爲慶祝に堪えず

安武直夫 (12)

・表紙・
・口繪・

霧氷の慶會樓(景福宮)
總督題字と總督府廳舎

卷頭小言……………扉

道府郡島統計主任各位へ……………二五

朝鮮昭和十年國勢調査の人口概數……………

臨時國勢調査課……………二九

帝國の總人口……………國勢調査速報……………三

報告例に關する通牒一束……………四七

□統計漫筆……………松江……………四八

□統計常識……………西……………

筆	山岳遭難の數字	やまみ……………六七
雜	いい酒が呑みたい	江上正士……………六五
	鼠のこと	M・T・生……………六六

□話の屑籠……………(I)……………大義生……………六八

目次

阪谷芳郎 (5)
平藏士孝 (8)

朝鮮統計協會設立の經過

眞鍋半八 一四

内地在住朝鮮人の現勢

高田太一 一六

人口問答

佐藤隆一 二四

統計事務の刷新に就いて

延 肇 三

統計の民衆化

嚴 柱 完 三

實務 統計叢話

村 辻 元 三

指針 工場資源調査に就いて

加 藤 一 四〇

資

昭和九年の朝鮮貿易……………四八

昭和九年の鑛産額……………五

昭和九年末の農家戸數……………五九

昭和九年末の會社……………六一

料

目録

統計口誌……………70

朝鮮昭和十年國勢調査關係法規……………73

報告例整理の概況……………73

地方通信

木浦府に於ける人口調査準備打合せ 閔 丙 宗……………74

附 録

道・府・郡・島統計主任名簿……………75

會 報

朝鮮統計協會役員……………七〇

朝鮮統計協會設立趣意書……………七一

朝鮮統計協會會則……………七三

朝鮮統計協會議程……………七四

會員現在數……………七七

編輯後記

七九

朝鮮統計時報

創刊號

卷頭小言

茲に昭和十一年の光輝ある新春を迎へて、我が躍進朝鮮は、いよいよその本格的コースに入ることとなつた。今し全土の官民は、舉げて樂し朝鮮顯現への希望に燃え、齊しくこの目標に向つてまっしぐらに進みつつある。

さはいへ、朝鮮の眞實の姿をそのままに認識することは、凡そ其の躍進のために第一の要件といはねばなるまい。朝鮮が將來如何にあらねばならぬかの問題は、同時に朝鮮は現在如何にあるかの反省を喚び起すべきであり、そこに始めて朝鮮の正當なる發足點が見出さるべきであらう。朝鮮統計の意も全くここに在ることと思ふ。

この秋に當り、統計の民衆化とその刷新改善を圖り、統計をして躍進朝鮮への良き羅針盤たらしめんとする我が朝鮮統計協會が、茲にいよいよ機關紙「朝鮮統計時報」創刊號を世に出し得るに至つたことは、洵に喜びに堪へない。しかもこの創刊號の誕生に當つて、朝鮮内は勿論、内地及び滿洲國に於ける斯界權威の諸先輩より熱烈なる共鳴と鞭撻とを添うしたことは、本時報の最も光榮とし、我々の感激措く能はざるところである。

朝鮮統計協會の使命は、そのまま我が朝鮮統計時報の使命である。元來統計は目立たない性質のものであり、基礎工事的な働きをなす地味なものであるから、本時報がその使命を達成するに當つてはそこに幾多困難の伏起を豫想せねばならぬが、我々はその使命達成に對して異常な決心と絶えざる精進とを惜しむやうなことがあつてはならぬ。かくて統計の民衆化とその刷新改善とが完全に奏功し、所期のところに達せんことを、ひたすら念願するものである。

躍進朝鮮と統計協會の使命

—— 創刊の辭に代へて ——

朝鮮統計協會會長 塩 田 正 洪

昨秋十月總督府施政二十五年の佳辰を下し、多年懸案の朝鮮統計協會が設立されました。私は會則の定むるところによつて、初代會長たるの重責を負ふこととなりました。固より其の任ではありませんが、幸にして諸賢の御監掇と御鞭撻とを得て會務は著々として進捗し、茲に丙子の陽春に當つて機關雜誌「朝鮮統計時報」の創刊號を世に出すに至つたことは誠に欣びに堪へない次第であります。就いては此の機會に於いて聊か所懐を述べ、發刊の辭に代へたいと思ひます。

我が朝鮮は、明治四十三年日韓併合の盛事が行はれてから既に第一「四半世紀」を経過し、昨秋十月には施政二十五周年記念の式典が最も嚴かに執り行はれた。この間朝鮮は、産業・文化その他に互つて、極めて快速なる發展向上を遂げ、最早今日に於ては殆んど舊態を留めざる迄に一新し、その業績に對しては内外識者の驚嘆措く能はざるところとなつてゐる。しかしながら翻つて考ふるに、過去四半世紀に於けるそれ等の業績は、實は今後の我が總督府施政の基礎工作とも見らるべきものであつて、榮土朝鮮建設の大業は、實にこの基礎工作の上に打ち立てらるべき第二「四半世紀」の實績に依るものなることを思はねばならぬ。

この秋に當り、我々は痛切に精確清新なる統計の必要を感じるものである。功を急ぐの餘り、徒らに直觀や主觀に驅られて將來を計畫し、この第二「四半世紀」への大切な出發點を誤るやうなことがあつてはならない。計畫は須らく現在に對する正しい認識に基礎を置き、且つその趨く所を精密に觀察して慎重に考究するべきであるが、その要求を充たして呉れるものは、實に精確清新なる統計であらねばならぬ。

我が韓国に於ける統計は、併合以來種々の改善が加へられ、漸次往時の状態から蟬脱して相當信頼すべき資料を提供するに至り、總督府施政の各般に互つて、幾多の貢獻をなしたものであるが、而も尙朝鮮統計界の現状を具に顧みるときは、遺憾ながら未だ其處に多くの缺陷を認めざるを得ないのであつて、我々はこれ等の缺陷に付、全力を擧げてその除去を圖り、精確清新なる資料を提供して統計本來の使命を果し、以て統計の順調なる發達に向つて邁進するの要がある。

かくて朝鮮統計の發達向上を圖る爲には種々の考慮を要し、各方面に互つて對策を講ずる必要があるが、その最も根本的な、而も最も早急を要する問題は、實に民衆の間に統計思想を充分に普及徹底せしめることであらうと思ふ。元來統計の事は、その性質上、獨り官府當局のみに能く爲し得るところではなく、一般民衆の理解と協力とを俟つて、始めて萬全を期し得らるるものである。現在朝鮮の統計が、今尙依然として不整不備のものあるを否み得ないのは、未だこの點に充分ならざるところがあつて、動もすれば民衆の間に統計の重要性が闕却され來つたのに基因することが多いであらう。我々は先づ此處に深く思を致し、假令このことが如何に困難を伴ふとしても、能てこの根本問題の善處を必期しなければならぬ。

しかしながら、由來官廳の活動には自ら限界があり、眞に統計思想の普及、統計の民衆化を徹底せしめんが爲には、官民の間に介在して、直接民衆に働きかける遊擊的機關が極めて必要である。我が朝鮮統計協會の誕生は、實にこの要望を充たし、統計事務の刷新改善を圖り、朝鮮統計を最も快調に發達せしめ、以て第二の四半世紀を迎へた我が光輝ある躍進朝鮮に對して常に良き足場を與へ、その健全なる發展に寄與せんことを使命とするものである。

かくの如き重大なる使命を有する協會としては、今回生れたものが餘りに小さいと言はれるであらうが、これは實行の問題を考慮して、初めは地味に、健實に、そして無理をせず第一歩を踏み出したからのものであつて、今後協會の地盤が固まるを待つて、漸次その規模・活動を擴大して行くこととしたいのである。

惟ふに朝鮮統計協會の使命は重く、その達成は決して一朝一夕にして求め得られるものではない。而も行手には必ずや幾多の試練が我々を逐へてゐるであらうが、我々は萬難を排してそれ等の試練を乗り切り、我が朝鮮統計協會をして愈々意義あらしめなければならぬ。

創刊號に寄す

本會の創立と本誌の創刊を祝
うて寄せられた諸氏のお詞

四

近代的統計調査と

民衆啓發の急務

内閣統計局長 長谷川 赳 夫

客秋朝鮮始政二十五周年を楔機として朝鮮統計協會創立せられ、茲に機關雜誌「朝鮮統計時報」の發刊せらるる運に至つた事は、斯界の爲寔に欣快に堪へない。

惟ふに統計は、各般行政施設の基礎資料たるべきものであつて、其の正確なる否とは、一國政治の當否に關する所大なるものがある。而も近時社會の進運に伴ひ、統計調査の内容は愈々複雑多岐に互るに至り、之を正確迅速に調査編整し、克く統計調査本來の目的を達成せんが爲には、統計機關の整備充實を圖り、統計事務の刷新改善を期し、又調査に従

事する統計職員の養成訓練に努むることを必須條件とする。然れ共近代的統計調査の多くは、國民の申告に依つて材料を徵集するものであるから、如何に調査機關の整備を爲すも、國民にして統計に對する理解を缺くものあるときは、到底其の完璧を期する事を得ない。茲に一般國民に對する統計知識普及の急務なる事が痛感せられるのである。

斯の如きは官廳當務者に於て攻究施設すべきは勿論であるが、統計協會の如き民間團體との協力に依つて、初めて有效に其の實績を擧ぐる事が出来るのであつて、朝鮮統計協會が如上の趣旨を以て設立せられ、今や事業の遂行に邁進せらるるに至つた事は、統計の進歩改善の爲、洵に喜びに堪へない所である。

茲に本誌の刊行を祝すと共に、朝鮮統計協會の將來益々事業を擴充せられて、本邦統計事業の發達に寄與せられんことを祈る次第である。

鮮滿統計の協力

滿洲國國務院
總務廳統計處長

向井俊郎

此度統計事務の刷新改善及統計知識の普及向上を圖る目的で朝鮮統計協會が設立せられ、更に新春を期して機關雜誌「朝鮮統計時報」が創刊せらるることを聞き、同じ道を歩むものとして衷心慶祝の意を表するものであります。

設立の趣意書にも認められてあるが如く、特に近代の國家社會に於ては、統計の整備こそ唯一無二の緊要事でありませうが、此の統計の事業の完成は、決して之を官府當局の手にのみ委ねるべきでなく、全國民の協力を俟つて初めて之を期し得らるるものであつて、特に其の實際の效果を得る爲には、先づ國民一般の腦裡に統計に關する理解と關心とが培はれねばならないと存じます。此の意味に於て近來各地に統計協會が設立せられ、其の力に依つて一般國民の統計に關する理解が漸次深められつゝあるのは、寔に慶賀に堪へぬ所でありませう。

殊に朝鮮と我滿洲國とは、地を隔つる僅か江水、又其の關係は共存共榮眞に唇齒の間柄にあるものでありまして、統計の仕事の上に於ても、將來彼此相通じ相補ふものが益々多くならねばならぬと存じます。

建國日尙淺く、然も爲すべき事を多く擔ふ滿洲國に於ても、統計事業の整備を目指して貴協會と同様の目的を有つ滿洲統計協會が昨年末に設立せられ、官府當局を援けて及ぶ限りの努力をして居りますが、何れに致せ、日本と不可分の關係にある滿洲國の統計の整備の爲には、朝鮮に於ける同一事業の發達と其の協助とを必要とするものが尠くないのでありまして、切に貴協會の健全なる發達と十分なる使命の達成とを心より祈念して已まない次第であります。

祝電

東京統計協會長男爵 阪谷芳郎

「朝鮮統計時報」の創刊を祝し

併せて其の健全なる發達を祈る

目標を朝鮮大衆に

柳澤保惠

朝鮮に於ける統計の刊行は、明治四十年發行の第一次統監府統計年報を以て嚆矢とす。而かも今日より之を見れば、纒に乏しき材料を蒐集し、様に依りて菡蘆を畫きたるに過ぎざりしに、爾來二十有餘年、日進月歩改良に改良を加へ、其の内容の充實に勉め、昭和五年の國勢調査を期として優に他に向つて遜色なき統計を提供するに至り、今又新たに朝鮮統計協會創設せられて機關誌「朝鮮統計時報」の發刊を見る。慶賀の至に堪へざるなり。惟ふに統計は、決して官府吏僚の手に依りてのみ其の正確と完全とを期し得るものにあらず、公私心を併せ、一は其の正確なる材料を提供し、一は之を合法的に處理し、而して後治めて之を公に統計と稱することを得べし。公私心を一にするに道あり、要は其の意志を疎遠せしむるに存す。意志の疏通を計る、悉く言語及び文字に頼らざるべからず。然らば朝鮮の此の種雜誌は、之を内地のそれに比

して正に二重の工作を要すべし。二重の工作とは何ぞや。一は一般内地の雜誌の如く、之を日本文を以て編輯すべく、一は諺文を以てその對譯をなすべきこととなす。その然る所以のものは他なし。朝鮮人にして日本文を讀み且解し得るものありてはその要なきも、之を讀み且つ解し得ざる者に對しては、諺文を用ふるにあらざれば其の目的を達すること難し。朝鮮人にして日本文を讀み且つ解し得るもの少きことは今更言を要せず、而して我が統計事業の如きは、之が正確を期するに當りては、一般民衆の理解の下にその材料を蒐集せざるべからず。民衆の理解を得んとする、之を言語を以てして教導すべきは勿論なりと雖も、別に文書を以てその必要を知らしむべきことも亦閑却すべきにあらず。則ち我が「朝鮮統計時報」の如き、専ら意をこゝに注ぎ、高遠の學理を闡明すると共に、一面其の記事を低うして一般民衆に對し多く博く播讀せしむるが爲め、彼の諺文の對譯を掲載すべきは、最も機宜に適したるものなるべきは信じて疑はざる所なり。此の事既に事實に顯はるるやを知らずと雖も、敢て茲に一言して本誌創刊の祝辭に代ふ。

朝鮮統計と關係

淺からぬ余の欣び

統計學社
名譽社長 横山雅男

我が朝鮮は帝國の大陸政策を遂行するに極めて樞要の地である。是の故に日韓併合以來、當局者は孜孜として皇政を普及するに餘念がなかつた。此の努力は著々報いられて、邊日始政二十五周年記念の祝典を盛んに舉行された。併し朝鮮の統計に就いて夙に關係を有してゐる私としては、今回の祝賀中に未だ朝鮮統計協會が擡頭してゐなかつた一事を深く遺憾としたのであつた。

勿論私は今より十四年前、即ち大正十三年九月二十九日、朝鮮統計研究會が生れ、その機關雜誌として「朝鮮の統計」が創刊せられたことは忘れてゐない。又私はその創刊號へ「朝鮮の統計の發刊を喜びて」てふ卑稿を寄せしが、同稿には私が明治二十七八年戦役の際、征清總督府の一員として旅順にゐた時迄に同地より東京統計協會へ、戦後速に朝鮮に統計事

業を起すべきの語を述べて統計集誌へ掲げさせた事や、韓國京城幼學館承兼を東京の專修學校(專修大學の前身)で統計學を授けた事や、大正元年以來朝鮮總督府の依頼で三回も京城で地方事務講習會の統計學講師となつた事等を載せて私と朝鮮の統計との關係の深厚な點を會員に告げたことがある。

その後私は朝鮮總督府のために、大正十四年の夏鴨綠江畔の新義州を振り出しに鎮南浦・平壤・京城・仁川・元山・群山・木浦・釜山の各府及全羅北道廳で國勢調査の主旨・目的・功用・調査手續等の要項を講じて第一回國勢調査の施行に資したが、更に昭和五年の夏は河野臨時國勢調査課長と共に全州・光州・公州・春川・京城放送局等に於て朝鮮第二回國勢調査の要綱を説いた。

斯うした關係のある私としては、去る十月の良辰を下して朝鮮統計協會が設立され、又機關雜誌「朝鮮統計時報」の創刊せらるゝ吉報に接しては、人一倍否人十倍百倍の嬉しさを痛切に感じさせられるのである。

朝鮮統計協會は如何なる趣意で呱呱の聲を掲げたか、その趣意書にいへらく、

統計は各般施設計畫の基礎たり指針たるべき重大なる意義を存し、凡そ國家社會の健全なる發達ある所統計

の隠然たる功績を忘れてはならない、と

然り然り、大に然り。顧ふに今の如く政治・産業・教育等の進歩の著しき朝鮮に於ては、將來益々統計の改良進歩を謀らねばならぬ。いふまでもなく統計機關の充實、統計調査の刷新、統計思想の普及等は實に時代の要求である。是の時に方りて朝鮮統計協會の設立は、時代の要求に副ふ最も適切な事業である。私は貴會がその目的及その目的を達するための方業に向つて勇往邁進せられんことを衷心より念願し且つ前途を祝福する次第である。

昭和十年十二月四日

第二親王殿下の御命名式御舉行のいと芽出たき夕

祝

柳澤統計
研究所内 二瓶士孝

電

謹んで貴會の創立を祝す

使命達成への邁進を望む

京畿道知事 富永文一

凡そ統計は社會の縮圖として將又各般施業の羅針盤としてその役に任ずるものであらねばならぬ。而して現今の各種統計が充分に斯る機能を發揮するものであつたなら、何人も今日參考資料として見てゐる程度を超えて、一層眞劍に之を研究し活用して各種事業經營上の必須要素とし、無駄を省き能率を増進し、經濟文化の向上發展に貢獻するところ更に多大のものがあるべきであると信するのである。然るに世には統計は死物なりとか、統計は數字の羅列に過ぎないとして、全く統計そのものを閑却して顧みない者も少くないのである。之は果して統計價値の認識を缺き、統計利用の方法を知らざる頭異者流の偏見として一蹴し得るであらうかと云ふに、遺憾ながら吾人はその主要なる一因として、從來の統計が杜撰不完全なるものが有りはしなかつたかと謂ふことを考へざるを得ぬのである。公表されてゐる統計にしても、その

内實に於て是正すべき幾多の缺陷あるものが尠くない様である。斯る調査上の誤謬杜撰に依つて、統計そのものゝ重要性が著しく減殺されてゐる現状にある事は洵に遺憾に堪へぬ次第で、之を一日も早く改善して統計本來の使命たる社會の羅針盤としての機能を發揮せしむる事は識者の齊しく念願とするところである。

輓近統計の學術的研究調査も著しく發達するに至つてゐるが、絛上の如き現状にある我が朝鮮の急務は、學術としての統計研究よりも、寧ろ統計に従事する職員の教養向上に努め、統計事務の重要性を認識せしむると共に、之が民衆化を圖つて官民協力して正確なる統計の作製に當らしむるにありと信ずるものである。

従來とても官廳に在りては、統計事務の重要性に鑑み道府郡島に統計主任を配置して之が指導監督に當らしめてゐるが、何分にも廣汎なる各部門に互つてゐる爲に充分手の届かぬ嫌があり、且つは之が技術的研究工夫に充分なる手段を有せざる爲に、動もすれば數字の羅列となり、統計の權威を缺ぐに至る次第である。故に之が改善を圖るには、各統計事務に従事する者其他之に關心を持つ者が、相互に研究し批判し、且つ教導し得る機關を必要とする所以である。

今回新に設立されたる朝鮮統計協會は、絛上の見地に於て、統計事務其のものゝ改善進歩を圖り、又統計利用に就て充分なる知識と便益を與へ、以て統計其のものを益々權威づけ様とするものである。又其の事業は必ずしも高遠なる學理の研究を目的とせず、統計の民衆化を計り、統計實務者の指導教養を第一目標としてゐるのは、眞に朝鮮の現状に即したもので、全く吾人の平素念願としてゐるところに合致して欣快に堪へぬと共に、設立の任に當られたる各位に滿腔の敬意を表するものである。

今や新政第二の四半世紀初頭の新年を迎へ、半島官民奮起して、各従ふ所の業務進展の爲に新に壯快なるスタートを切らんとするに際し、茲に本會機關誌を創刊して、愈々その存在を明かにせらるゝに至つた事は誠に慶祝に堪へぬところである。然も本會の使命は極めて重要性を帯ぶるにも拘らず、一面頗る地味な立場に置かれ勝ちのものであるから、本會の前途には相當難關あるを覺悟せねばならぬと思ふ。希くは官民有力者の支援に依り益々本會の隆昌を來し、その使命たる半島文化向上の基礎工作の爲に協力して行きたいものと、只管祈念する次第である。

機宜の施設

忠清北道知事 金 東 勳

今般本府當局の御盡力に依りまして朝鮮統計協會が設立されましたことは寔に慶幸に存する處であります。統計は國家社會各般の施設計畫の基礎材料を提供するものでありまして、其の重要性たるや今更ら絮説する迄もないこと、實に國力の充實發展上至大なる役割を爲すものと謂はねばなりません。従つて統計は國家社會の進運に伴つて益々之が必要の度を加ふるものでありますが、我が朝鮮の統計が依然として尙舊態の域を脱せず、不備不整の點あることは否定し得ない所でありまして、之は未だ一般民衆の間に統計思想の普及が徹底せず、動もすれば統計の重要性を閑却する點に基因する處も尠くないものと考へらるゝのであります。

然るに今や半島の現狀は教育・産業・經濟・交通・土木・衛生・治安等各般の施設が駿足の進歩を遂げつゝあり、而も始政二十五周年を機とし、方に劃期的新機軸に向つて邁進しつゝあるのであります。之は施設計畫の進歩を遂げつゝあり、而も始政二十五周年を機とし、方に劃期的新機軸に向つて邁進しつゝある

一〇

らしく精確なる統計は各方面より要望さるゝこと切實なるものあるを思はしむるのであります。此の秋に當り、統計實務に關する研究改善の促進、統計思想の普及、官民統計機關の協調連繫等、統計の整備上極めて緊切なる使命を帯びたる朝鮮統計協會の創立を見ましたことは、寔に機宜の施設でありまして、其の機能の發揮は朝鮮統計の改善進歩に寄與する所必ずや多大なるものあるべきを信じ、關係當局の勞に對し深き敬意を表する次第であります。冀くば全會員協力一致、愈々本會の基礎を強固にして使命の達成に精進せられんことを。

聊か欣感を述べて祝辭と致します。

我意を得たり

全羅北道知事 高 元 勳

統計は國民生活、社會狀態の鏡であつて、政治・財政・經濟其他百般の施設計畫の基調となり、國政上之が重要性は今更喋々を要しない所である。

我が朝鮮は過去二十五年間に於て、實に驚くべき發達を遂

せらるゝ所である。即ち軍事國防の點よりするも、國內經濟の點よりするも、亦朝鮮の産業・經濟・交通運輸の開發、文化の向上を速進しなければならぬ情勢となり、延いて最近各般の事業勃々として興るの氣運を醸成しつゝあるは洵に喜ばしき限りである。

此の秋に當り、各種企業の計畫基礎となるべき各種統計の正確詳細を期すべく、統計實務の研究改善、統計思想の普及、官民統計機關の協調聯繫を目的として、茲に朝鮮統計協會の創立を見るに至りたるは、洵に我が意を得たる所であつて、斯界の爲慶賀措く能はざる次第である。

惟ふに統計は國政上、將又民衆生活上極めて重要缺ぐべからざるものなるに拘はらず、事務頗る地味にして當務者の興味を呼ぶ事難く、又一般民衆の關心と理解乏しく、従つて之が正鵠完璧を期することは、地方廳に於ける各種事務中最も難事とされる所で、當事者の常に之が改善を希望する所以であつた。

朝鮮統計協會は之等の缺陷を是正改善せむとするものであつて、其の活動に期待する所洵に甚大なるものがある。希くは會員一同一致團結、以て所期の目的達成に盡瘁あらむことを。茲に希望を述べて協會の將來を祝福する次第である。

斯界の福音

全羅南道知事 近藤常尙

今次朝鮮統計協會を設立せられ、且つ機關雜誌朝鮮統計時報の發刊を見るに至りしは、我朝鮮統計界の爲洵に慶祝に堪へざる所なり。

抑々統計は國家社會各般の事象を表現し、其の推移消長の跡を現はし、將來に於ける施設經營の指針と爲り、學術研究の基礎たるべきものなるを以て、官廳に在りても民間に在りても、統計の緊要なるは言を俟たざる所なるが、況して焦眉の急務たる資源の統制運用に關する計畫設定、自力更生運動の根幹を爲す農家更生計畫の擴充等、此等は總べて其の基礎資料を嶄新精確なる統計に求むること愈々切實なるものあり。然れども朝鮮に於ける實狀は、未だ統計思想幼稚にして各種の計數、正鵠を缺ぐの憾みあり、調査方法亦完備の域に達せず、其の改善進歩を要すべきもの甚だ多し。此の秋に方り、本府及道府郡島邑面の統計事務關係者を主體と爲す朝鮮統計協會を設立し、以て統計事務の刷新改善及統計思想の普及向上を圖り、統計の民衆化を強調するは極めて時宜に適せ

るの企圖たるを失はず。實に斯道に在る者の一大福音たるべし。庶幾は本協會設立の趣旨に邁進して、朝鮮統計界の爲大に貢獻せられむことを。

統計發達上の光明

黃海道知事 鄭 僑 源

統計事務の刷新改善及び統計知識の普及向上を圖り、併せて其の民衆化を強調する爲に朝鮮統計協會を設立せられ、茲に機關雜誌「朝鮮統計時報」を發刊せらるゝに至つたことは、寔に時宜に適合した施設であり、將來此の機關を通じて實務の研究改善を促進する上に裨益する所尠からざるべきを確信するものである。

惟ふに統計は、國家社會各般の現象を觀察して其の發達消長の跡を表現し、且つ將來諸般企畫の基礎指針となるのみならず、又學術研究の上にも重要な資料であることは、贅言を要せざる所であるが、更に社會の進歩發達に伴ひ益々其の重要性を有するもので、總督施政以來急激に發達した朝鮮の産業・經濟・教育其の他あらゆる文化の伸長の蔭に、諸種の統

計の貢獻せる所尠からざることは言を俟たざるところである。

今や吾國は世界の趨勢に鑑み、内外共に極めて多事多端なる秋に直面し、之が爲重要な資源の統制其の他公私の企畫更張を要するもの益々其の多きを豫想せられ、從て其の基礎指針となるべき統計資料は、最も精密なるを必要とするものである。此に於て諸種の指導連絡機關として、意義ある施政二十五周年を期し本會の結成を見たることは、朝鮮に於ける諸統計の向上發展に大なる光明を與ふるものであつて、誠に慶賀に堪へないところであると共に、將來本協會の活動に期待するもの頗る多きを感じる。冀くば益堅實なる發展を遂げ、以て統計の整備統制に寄與せられんことを。機關誌創刊に際して一言祝意を表し、旁々所懷の一端を申述ぶる次第である。

朝鮮進展の爲慶祝に堪えず

平安南道知事 安 武 直 夫

今回朝鮮に統計協會が設立せられ、其の事業として機關紙

「朝鮮統計時報」を發刊せらるゝに至つた事は、誠に同慶に堪へない次第である。

最近統計の重要性が強く一般に認められ、今日では昔日の如く單なる抽象的議論を以てしては、多くの場合充分の満足を得ることは困難であつて、統計的根據即ち實證的數字を示すことが必要である。

官公署が行政を爲すにも、私人が企業を爲すにも、確固たる方策を樹立するには、先づ其の地方の社會狀勢を計數的に闡明することが最も必要であつて、然らざる企業計畫は砂上に屋を築くが如く、然らざる行政は暗夜を行くに等しいのであつて、實に統計は現代社會百般の羅針盤であることを痛感する次第である。

統計を作るには、先づ第一に統計材料の蒐集を行はなくてはならないが、それは一般に煩雜にして困難なる仕事であり、極めて大規模の調査を必要とする場合が屢々ある。國勢調査・失業調査・勞働統計調査等は何人も良く知る所の例である。所で眞に有効にこれ等の調査を遂行し、眞に有意義精密なる材料を蒐集するには、極めて周到なる計畫を必要とし、而して調査の目的、範圍等に應じ有效且適切なる計畫を樹てるには、單なる常識を以てしては到底不充分なるを免れず、

不斷の研究を爲し平素之に關係ある人々に統計思想を普及して置くことが必要である。

尙蒐集せられたる材料を適切に整理編纂して、一般利用者に最も便利有用なる資料を提供せんとする場合に於ても、統計的數字は粗材のまゝに於ては、無味乾燥にして雜然たる數字の集塊に過ぎないが、適切なる方法を以て之に加工し彫琢すれば、深長なる含意が極めて明瞭確實なる形態に於て展開せられて來るのであつて、之が研究工夫を爲すことも亦必要である。内地に於てはこれ等の事情に鑑み、之が事務の刷新及知識の向上と其の民衆化を圖る爲殆んど各府縣に統計協會が設立せられ、著々として其の使命の達成に努めつゝあり、又友邦滿洲國に於ては、建國日未だ淺きにも拘はらず既に之が設立を見たのである。我が朝鮮に於ても漸次統計の重要性が認められ、識者之間に於て統計協會の必要が叫ばれてゐたのであるが、今回機漸く熟し、之が設立を見るに至つた事は、朝鮮各般の進展上洵に慶賀に堪へない。

希くは統計が社會萬般の進展上多大の關係を有し、其の使命益々重大を加ふるに鑑み、本協會は充分其の機能を發揮せられ、朝鮮諸般の飛躍に貢獻せられんことを期待して已まな

朝鮮統計協會設立の經過

朝鮮統計協會主事 眞 鍋 半 八

多年の懸案でありました朝鮮統計協會が其の設立を見、茲に事業の一たる機關雜誌を發刊するに至りましたことは洵に御同慶に堪へません。就いては此の機會に於て協會設立に至る迄の經過のあらましを、僭越ながら私より報告させていただきます。

朝鮮に於ける統計團體としては會つて大正十三年、當時の總督官房庶務部調査課に本據を置いて朝鮮統計研究會が誕生したるを以つて嚆矢とし、翌十四年の國勢調査に際しては、總督府當局のよき遊撃機關となつて、朝鮮統計界に淺からざる足跡を印したことは、我々の記憶に新なるところでありませう。しかるに其の後幾許もなくして、當面の對象たる國勢調査は終了し、旁々遺憾ながら同研究會は自然消滅の運命に立ち至り、爾來屢々其の復活が畫策せられたのでありますが、

遂に其の機を得なかつたのであります。

しかしながら國家、社會の情勢の推移は、一日も統計を閑却することを許さず、全國各地に亘り官民を打つて一丸とする統計團體の設立を促がすに至りました。兎角他の地に比し統計の一步立ち遅れの感ある朝鮮に於いても此の種企圖の極めて適切緊要であることは鮮内各方面に於いて眞摯に唱導論議せられ、統計團體設立の機運が次第に醸成せられるに至つたことは誠に當然の歸結であります。そこで安井前文書課長（現專賣局長）在任當時から徐々に設立の準備が進められ、次いで塩田現文書課長の就任となり、始政二十五周年記念式典を前にして設立の機運愈々熟し、先づ府邑面の統計職員を中心として組織すること、並びに目標を第一線職員及び民衆に置いて統計の民衆化を主眼とすることを大綱とし、之に基いて具體案を起草することになりました。之を前の研究會が主として上級官署の統計職員を以つて組織し、比較的高尙な研究を目的としたのに比べるときは、其の趣旨と機構に於いて著しく趣を異にしてゐることを認めなければならぬと考へられます。

右の草案は昨年五月國勢調査事務打合會の機會に道統計主任各位に諮り、且つ各位を煩はして府郡島邑面の意嚮を聽

き、更に慎重を期する爲道統計主任各位と數次書面を以つて協議を重ね案を練つた上、最後に各道知事閣下の御賛同を得て會則其の他諸案を決定し、茲に芽出度創立を見たのであります。時恰も施政第二十五年の秋十月、朝鮮統治史上記念すべき此の劃期的時期に於いて本會の設立を見ましたことは、其の誕生をして更に意義あらしめたるを信するものであります。

以上の如き経路を辿つて本協會は誕生したのであります。さて協會の誕生が世にどれだけの反響を與へるか——我々は多大の期待と共に些か危惧の念を抱かずには居られなかつたのであります。しかし幸ひに各方面から絶大の御賛同と御援

助をいただくことを得、爲に當初の危惧は全く杞憂に終り、殊に入會者數も我々の最初目標とした三千を忽ち突破し、今や六千を豫想せらるゝ状態にありますことは、固より之は各方面の御聲援御鞭撻と、各道府郡島統計主任各位が公務の傍本會地方委員として獻身的努力を拂はれた結果であります。が、他面統計に對する一般の關心が我々の豫想以上に大であつたことの證左とも見るべきであつて、斯界の爲洵に欣快に堪へないのであります。終りに臨み本會の力強き第一歩を祝福すると共に、尙將來の發展を念願して以上報告を終る次第であります。

道府郡島統計主任各位へ

協會創立の難事業が殊の外圓滑に進行し、且つ豫想外多數の會員を得て今後の會の存立及び活動を容易にすることが出来ましたのは本會地方委員たる各位の御盡力に負ふ所最も多大であります。しかし協會は各位の御盡力に對し何等報いる所なく、寧ろ通信費などに少なからざる失費を煩はしたやうな次第であります。而も各位は甘んじて本會の爲又朝鮮統計界の爲進んで犠牲的奉仕をされたのは誠に感銘に堪へません。今後共一層の御盡力を御願ひいたします。次に會員が豫定より倍加した爲、當初の計畫を全然立て直す必要が生じたので、本誌創刊號の發行も非常に遅れ、事業計畫書、會計報告書等も本誌に登載するに至らず、又寄附者の芳名も之を掲げて創刊誌上を飾りたかつたのであります。目下續々として申込がありますので、次號に於いて纏めて發表することにいたしました。以上誌上を借りて御挨拶申上げると共に、二三の事項に付き御諒解を得て置きます。

内地在留朝鮮人の現勢

内閣統計局人口課長 高 田 太 一

本年は朝鮮施政二十五周年に相當し、過般盛大なる祝典が舉行せられたことは、定に慶賀に堪へない次第である。朝鮮の施政が政治・産業・經濟・社會等萬般の方面に互り非常なる成果を収めたことは多言を要しない所で、二千數百萬の民衆は其の善政を謳歌し、其の民力は益々伸張を見んとしつつあるのである。而して年々人口増加し繁榮する民衆は、吾に鮮内のみならず、外部に向つて内地其の他我國の勢力範圍或は隣接の滿洲國其の他外國にも發展しつつあることを看逃してはならない。此の際此の外部に向つて發展しつつある狀況を顧ることは、實に意義深いものがある。仍て本稿は紙數の關係上特に内地に在留する朝鮮人の現勢を紹介することにしよう。

内地在留朝鮮人の現勢を知るには國勢調査の結果に依るの

が最も正確で且便宜である。昭和五年國勢調査（以下「昭和五年」と略す）では在留朝鮮人は四十一萬九千餘人であつて、鳥取縣の人口に近く、大正九年國勢調査（以下「大正九年」と略す）で四萬餘人であつたのが此の十年間に實に三十萬八千餘人を激増し（毎年平均三萬七千餘人の増加）凡そ十倍に達したのである。之は内地に對し驚くべき激甚なる流入であると同時に、内地に於て顯著なる發展をなすものであるといはねばならぬ。即ち大正九年には内地總人口千人中一人にも満たなかつたのが、昭和五年には七人に垂んとする勢を示し、内地人口に於ける一大勢力を形成し、其の經濟的、社會的活動は内地に於ける經濟・社會の上に至大の影響を及ぼしつつあるのである。

更に之を些細に検討し此の現勢を明かにしよう。先づ府縣

分布を見るに、大正九年には一萬人臺を計へるものなく、僅かに五千人臺を算するものに福岡・大阪の二府縣あるに過ぎなかつたが、昭和五年には約十萬人臺を計へるものに大阪府あり、一萬人臺を算するものに東京・愛知・福岡・京都・兵庫・山口・北海道・神奈川・廣島の九府縣ある盛況である。而して此の十府縣を合算すると約三十一萬五千人に達し、在留朝鮮人全體の約八割を占むるを見れば、概して大都市を中心として蟻集しつゝあることが判るが（市郡部別に見れば略同數である）尙此の反面に資本的産業や事業に朝鮮人が歡迎せられて此の方面に寄與しつゝあることを窺知するに足らう。尙増加割合から見れば従前比較的少數に過ぎなかつた府縣の方が概して激しき増加率を示して居るが、之は朝鮮人の分布の普及せることを現はすものである。

朝鮮人の府縣分布

府縣	昭和五年		大正九年	
	和	正	和	正
全國	四九,〇〇九	四〇,七五五	三七,七五五	一〇,六八八
大阪	九六,九四三	六,三〇〇	二六,三三二	三,七七〇
東京	三八,三五五	二,四八五	一五,九六八	三,〇五一
愛知	三五,五〇〇	六,六六五	一五,五六〇	三,四六三
福岡	一五,六三六	七,八五五	一五,一八一	七,八三三
		京都		
		兵庫		
		山口		
		北海道		
		神奈川		

廣島	一一,一五六	一,一七五	二,一四五	四四
三重	八,〇三一	二,四四	二,〇六七	二八三
長野	七,五三三	五,九四	一,八九〇	一六四
和歌山	七,〇〇九	一九九	一,八〇三	一八三
岐阜	六,九四八	三,八	一,七六	四〇
長崎	六,六六一	二,八〇〇	一,三三	三三九
岡山	五,六五三	七三	一,四一三	六九
静岡	五,六三九	一三	一,〇〇〇	一〇八
奈良	四,六三九	三,六	一,三〇四	一四五
福井	三,八三三	七四	一,一六四	七六
滋賀	三,六九一	一六	九四五	七四
大分	三,六五七	七六五	八七三	三六四
宮崎	三,一七	一九〇	八八	四〇
佐賀	三,〇七八	七八八	六九七	五八
山梨	三,〇六〇	一七〇	六二	四三
島根	二,七三三	七二	六七〇	九七
富山	二,五三三	四	四三三	二八
熊本	二,三六一	四三	四三	一四九
新潟	二,三五六	一七	二〇	一七
		石川		
		群馬		
		愛媛		
		福島		
		千葉		
		鳥取		
		岩手		
		高知		
		宮城		
		埼玉		
		茨城		
		鹿兒島		
		徳島		
		香川		
		青森		
		栃木		
		山形		
		秋田		
		沖繩		

次に體性及年齢を見るに、總數四十一萬九千人の中男は二十九萬七千餘人、女は十二萬一千餘人であつて、大正九年に比すれば、男子の増加八倍なるに對し、女子は二十六倍の増加を來し、又男女を通じ幼老年階級は青壯年階級より著し

き増加を示して居る。蓋し大正九年には比較的少數であつた女子及幼年階級は男子及青壯年階級の後を追うて内地へ流入し來つた爲であつて、内地に於ける移住が漸次安定し生活の基礎が次第に確立強化せられたことを物語るものであらう。

朝鮮人の年齢構成

年齢	昭和五年		大正九年	
	總數	男	女	總數
總數	四一九,〇〇九	三九七,〇〇二	二二,五〇八	四〇〇,七五五
〇-一四	九四,五三一	四九,九〇〇	四四,六三一	五〇,四〇〇
一五-一九	三三,五四〇	二四,六五五	七,〇二五	三二,〇〇〇
二〇-二四	二九,九六八	一,〇七六	一,八三三	三〇,〇〇〇
二五以上				六四

最後に其の従事する職業別人口を見るに工業は十三萬八千餘人、商業は二萬六千餘人、交通業、農業は夫々二萬餘人、鑛業は一萬六千餘人である。之を大正九年に比すれば各種職業に従事する人員は何れも著増し、必らずしも或種産業に限らず全産業に普及するに至つて居る。

朝鮮人の職業

職業	昭和五年		大正九年	
	總數	男	女	總數
總數	四一九,〇〇九	三九七,〇〇二	二二,五〇八	四〇〇,七五五
農業	三〇〇,五八八	二九七,二二七	九四一	三〇〇,〇〇〇
水産業	一四,四四四	一三,二二二	一二二	一三,一〇〇
鑛業	一六,五〇〇	一五,九三三	五五七	一六,四八六
工業	一八,一四四	一三,三七三	四,七七七	一七,四三〇
商業	二六,八四八	二五,七〇四	一,一四四	二六,八四八
交通業	三〇,九六六	三〇,八二九	一三五七	三〇,九六六
公由業務	一,四七四	一,四〇〇	七四	一,四七四
家用	四,三六八	一,九五〇	一,四三六	四,三六八
使用人	三,三七三	三,〇八四	六八九	三,三七三
其他	一,三七三	一,四二四	九四九	一,三七三
無業者	一五,〇二二	一五,八七六	一,〇四五	一五,〇二二

以上を綜合するに内地在留朝鮮人は大正九年の四萬餘人より昭和五年に十倍に飛躍して四十一萬九千餘人に達した。其の後は確實な調査なきも之亦略々同様相當激甚な勢を以て増加しつゝある如く推定せられる。故に今日在留朝鮮人の現勢は昭和五年當時よりも一層充實擴大し人口は内地各地方に限なく普及し百般の業務に互り就業して社會的活動を爲し、内地に於ける或種の優勢なる地位を把握して居るが、尙將來其の地位を益々強化するであらうことは疑ない所である。

祝 創 刊

日 本 製 鐵 株 式 會 社

兼 一 浦 製 鐵 所

黃 海 道 黃 州 郡 兼 一 浦 邑

昭和二十二年

株式會社 森六商店 總店 出張所

東京總店

東京總店 黑橋驛前
電話 黑橋 四番

登錄



商標

本店 德島

支店 東京

支店 大阪

支店 神戸

森六商店 新京支店

新京支店 二一五
電話 五七五五

昭和二十二年
森六商店
東京總店
出張所

美人印

黃州林檎



會社資

森

農

場

果樹部

東京總店 黑橋驛前
電話 黑橋 四番

朝鮮
昭和十年

國勢調査の人口概數に就て

臨時國勢調査課

半島民衆の熱望して居つた朝鮮昭和十年國勢調査世帯及人口概數の發表も既に行はれ、茲に大體我朝鮮に於ける人口分布の狀態竝に其の増加の趨勢も明にされた譯であるが、更に道府別に之が若干の考察を述べて觀れば次の通りである。

今回の調査に於ける朝鮮の人口概數は二二、八九八、六九五入であつて、前回調査の結果に比し過去五年間に一、八四〇、三九〇人の増加をして居る。之を前回調査の大正十四年の調査に對する増加數一、五三五、三六〇人に比較すれば三〇・五、〇三〇人の異狀なる増加を示して居るのである、昭和五年の人口を基準とした平均幾何増加率より見れば、朝鮮の人口増加は一箇年平均約三十萬人となつて居るが、今回は一箇年平均約三十六萬人の増加である。

之を前回調査の増加數に比較すれば、一箇年約六萬人の超過となつて居る、想ふに出生、死亡の顯著なる差増に加ふる

に、北鮮開拓、早害救濟其の他土木・勸業・鑛山等各種新興事業の勃興に伴ひ朝鮮半島に來住せる者の尠からざるに起因するものであらう。

要するに之等躍進朝鮮の全貌を人口の計數を以て示したる我が總督政治の表現であつて朝鮮の僞誠に御同慶に堪へなご次第である。

次に之を各道別に觀るときは増加數に於て忠清北道を除き他は孰れも十萬以上を示し殊に京畿道は將に三十萬に達せんとする激増である。又割合に於ては咸鏡北道の一四・五%を最高とし、京畿道の一三・六%、忠清南道及平安南道の各一〇・四%は著しきものであつて、全鮮平均増加割合は八・七%を示して居る。

之を更に前回の全鮮平均増加割合七・九%に比較すれば〇・八%の高率である。

道別人口

道名	人口		五年間の増加
	昭和十年	昭和五年	
京畿道	二,四五一,六六七	二,一五七,四二五	二九四,二四二
忠清北道	九九九,四一七	九〇〇,三三六	九九,〇八一
忠清南道	一,三六六,七六三	一,三六二,八八六	三,八七七
全羅北道	一,六〇七,一五七	一,〇〇五,六九七	六〇一,四五〇
全羅南道	二,三〇八,三〇八	二,三三三,二五九	二四,九五一
慶尙北道	二,五六五,二五九	二,四六六,七六三	九八,四九六
慶尙南道	二,二四八,五〇七	二,一五五,七二六	九二,七八一
黄海道	一,六七四,二五〇	一,五三三,五三三	一四〇,七一七
平安南道	一,四六九,五五一	一,三三二,七〇五	一三六,八四六
平安北道	一,七〇〇,二九〇	一,五三三,七九二	一六六,四九八
江原道	一,九〇五,三三三	一,四七二,七二五	四三二,六一〇
咸鏡南道	一,七三一,六七八	一,五七八,四九一	一五二,八八七
咸鏡北道	八五三,八〇五	七四五,一二四	九八,六八一
全鮮	三,三八八,六九五	三,〇五八,五〇五	三三〇,一五〇

次に道別人口の密度を觀れば一方里に對する人口は京畿道の二、九五一人を最高とし、之に近きものに忠清南道の二、九〇五人、全羅北道の二、八九八人がある。尙二千人以上を算する道としては全羅南道及慶尙南北道の三道であつて、北鮮

地方に屬する江原道、平安北道、咸鏡南北道の四道が千人以下の稀薄なる状態に在るのは、主として氣候・風土・地勢・交通等の影響に依るものであらう。

道別人口密度

道名	方里に付人口	
	昭和十年	昭和五年
京畿道	二,九〇・九	二,五九六・一
忠清北道	一,九九四・八	一,八七一・五
忠清南道	二,九〇四・九	二,六三九・〇
全羅北道	二,八九八・二	二,七一九・三
全羅南道	二,七八五・八	二,五九一・三
慶尙北道	二,〇八二・〇	一,九六三・二
慶尙南道	二,八二八・三	二,六七六・三
黄海道	一,五四二・八	一,四〇四・一
平安南道	一,五二八・六	一,三七五・七
平安北道	九二七・四	八四七・五
江原道	九四二・七	八七三・六
咸鏡南道	八〇〇・四	七六一・四
咸鏡北道	六四六・五	五八四・九
全鮮	一,六〇〇・〇	一,四七二・四

更に朝鮮の總人口を體性別に觀るときは男一一、六六一、

六四〇人、女一一、二三六、〇五五人であつて男の超過四二六、五八五人を示し、女百に付男一〇三・八の割合である。之を前回調査の女百に付男一〇四・六に比較すれば男女権衡の割合に於て〇・八の接近を來たしたことになる。尙大正十四年の國勢調査に於ては女百に付男一〇五・五であつた、従つて朝鮮の男女人口増加の狀態は年々歳々男女の權衡を接近せしめつゝある事が判明するのである。

男女の權衡

年 別	男	女	女百に付男
昭和十年	一、六三三、六四〇	一、二二六、〇五五	一〇三・八
昭和五年	一、〇七三、二〇〇	一、〇二四、七五五	一〇四・六
大正十四年	一、〇二〇、九三三	九六〇、一〇〇	一〇五・五

而して之を各道別に觀るときは各道共男の超過である。其の中最も權衡に開きのあるのは咸北の女百に付男一〇九・三であつて、江原道の同一〇七・六、京畿道の同一〇六・四、咸鏡南道の同一〇五・九、忠清南道及全羅北道の各同一〇五・二等は其の差の比較的大なるものである。其の他の道は全鮮平均一〇三・八に近きものであるが、其の中全羅南道の女百に付男一〇〇・三は殆んど男女の均衡を保ち得たもので

ある。

道別男女權衡表

道 名	總 數	男	女	女百に付男
京 畿 道	二、四二一、六八七	一、三三三、八六九	一、〇八七、八一八	一〇六・四
忠 清 北 道	九五九、四一七	四九一、二二六	四六八、一九九	一〇四・九
忠 清 南 道	一、五三六、六八三	七八二、五七七	七四四、一八五	一〇四・三
全 羅 北 道	一、六〇七、一五七	八三三、九六四	七七三、一九三	一〇七・三
全 羅 南 道	二、三〇〇、〇八八	一、三三六、一七三	一、〇三三、二一六	一〇〇・五
慶 尙 北 道	二、三六三、二九六	一、二九六、九四四	一、〇六六、三五一	一〇一・四
慶 尙 南 道	二、二四八、〇七七	一、二九一、五五三	一、〇二八、七二二	一〇一・〇
黃 海 道	一、六四四、三〇〇	八五三、四八一	七八八、七二九	一〇一・〇
平 安 南 道	一、四六九、五三一	七五九、三三七	七〇〇、二二四	一〇一・三
平 安 北 道	一、七二七、〇九〇	八七〇、九九三	八五九、三九七	一〇〇・八
江 原 道	一、六〇〇、二四三	八三三、〇六六	七七三、三三六	一〇五・六
咸 鏡 南 道	一、七三二、九七六	八八五、四四〇	八四六、二六八	一〇四・九
咸 鏡 北 道	八三三、八七〇	四四四、二八四	四〇七、三三三	一〇二・三
全 鮮	三、八六八、六八五	二、〇二二、六四〇	一、八四六、〇四五	一〇三・八

終りに全鮮十七府に對する男女の權衡を觀るに郡部に比較して其の差が非常に區々である。

男の超過割合の最も高きは新義州であつて女百に付男一三

○・九である。之に亞いで清津の同一二七・六、群山の同一
 一六・八、鎮南浦の同一一一・八、木浦の同一二〇・八、仁川
 の同一一〇・四などは相當男女權衡の差の激しい處である。
 之に反して馬山、大邱、開城の三府は女超過と云ふ奇現象を
 呈し殊に開城の如きは女百に付男八七・八であつて誠に面白
 い現象と謂ふべきである。

府別男女の權衡

府	總人數	男	女	女百に 付男
京城府	2,447,099	1,310,082	1,137,016	137.5
仁川府	1,212,923	653,532	559,391	110.0
開城府	555,555	257,262	298,293	87.8
大田府	299,070	150,126	148,944	101.4
群山府	141,020	73,442	67,578	107.8
全州府	81,300	41,330	40,070	103.2
木浦府	40,702	21,917	18,785	110.2
光州府	34,000	17,598	16,402	110.3
大邱府	10,700	5,500	5,200	107.7
釜山府	12,110	6,370	5,740	110.1
馬山府	11,770	5,710	6,060	86.7
平壤府	13,110	7,000	6,110	107.0

總計	清津府	咸興府	元山府	新義州府	鎮南浦府
1,200,120	55,500	55,500	61,800	56,500	50,500
631,111	21,100	21,100	21,000	21,100	21,000
569,009	34,400	34,400	40,800	35,400	29,500
104.2	127.6	104.9	104.5	111.8	111.8

實益廣告

朝鮮の果山と茶山

趣味と實利
好評賣々

定價 每箱 共
三十五錢

京畿道林業會

振替京城三九〇四

昭和十年國勢調査速報

帝國の總人口

内閣統計局發表

昭和十年十月一日施行の帝國全版圖に於ける國勢調査の結果は内閣統計局より發表されたが、それに依ると帝國全版圖の人口は九千七百六十九萬四千六百二十八人で昭和五年の國勢調査の結果に比し七百二十九萬八千五百八十五人(八分一厘)を増加した。而して地域別の増加は

内地 四、八〇一、五〇〇 (七・四%)
朝鮮 一、八四〇、五〇〇 (八・七%)
臺灣 六、〇〇二、二二二 (三・五%)
樺太 一、七七一、七七一 (二・五%)

で内地に比して各外地は高増加率を示してゐる。この總人口を男女に分てば男は四千九百二十四萬六百五十九人女

は四千八百四十五萬三千九百六十九人で女一〇〇に付き男一〇一・六の割合に當り、昭和五年の一〇二・一に比すれば男の割合が稍減じた。男女の割合を地域別に見ると、

内地 女百に付男 一〇〇・六
朝鮮 // 一〇三・八
臺灣 // 一〇四・二
樺太 // 一二七・八

樺太は男の割合が著しく高い。尙關東州の人口は百十三萬四千七十四人、南滿洲鐵道附屬地の人口は五十二萬二千六百八十九人南洋群島の人口は十萬二千二百三十八人で、是等の地域の人口を前掲の全版圖の人口に加ふるときは九千九百四十五萬三千六百二十九人なつて殆んど一億人に達せんとしゐる。

地域	昭和五年		大正十四年	
	男	女	男	女
總計	四,801,500	4,967,297	4,801,500	4,967,297
内地	4,801,500	4,967,297	4,801,500	4,967,297
朝鮮	1,840,500	1,840,500	1,840,500	1,840,500
臺灣	6,002,222	6,002,222	6,002,222	6,002,222
樺太	1,771,771	1,771,771	1,771,771	1,771,771
關東州	134,744	134,744	134,744	134,744
南滿洲鐵道附屬地	522,689	522,689	522,689	522,689
南洋群島	102,338	102,338	102,338	102,338

人口問答

佐藤隆一

甲君は乙君の出産祝ひに出掛けて人口問題について飛んだ議論に花を咲かせてしまひました。

甲 子供さんが生れたつてね、お目出度う。

乙 有難う。御蔭様で母子共大變元氣であるよ。

甲 それは何よりだ。君の所も益々賑やかになるね。

乙 有難う。二人の子は可愛うと思つてゐる。

甲 そんなこともないだらう。併し骨折りは一通りではあるまいと想像するよ。

乙 全く一通りでないよ。何分八つを頭に五人もゐてはね。

甲 それに君はまだ若いし、尙次ぎ／＼に生れさうな形勢にあるんだから、尙更といふわけか。

乙 といつて自分の子である以上、世間並な育て方はしてやらねばならぬと思ふと、親父たるもの餘りのんびんだらりとしてはゐられないね。

甲 全くだ。大いに加餐御自重を祈るよ。

乙 昔から「子故の惱み」等いうてゐるが、子供を育て上げて社會に出してやる迄考へると一通りでないね。

甲 それに今のやうに入學難だ、就職難だといふ御時世では心配も少くないね。

乙 「子を持つて知る親の恩」等いふが僕はつくづく親の有難さを感じてゐるよ。

甲 成程ね。僕の如きは未だに親のすねを嚙つてゐるが流石に君は人の親だ、まるで考へ方が違つてゐる。感心感心。

乙 覺悟だけは十分にしている積りだ。そして「千の倉より子は寶だ」とも思つて將來に望みを囁してゐるよ。

甲 その點大いに羨しいね。僕みたいに子供が一人もないと淋しいし、一人位は欲しいと思ふが、仲々之ばかりは思ひ通りにもならないしね。

乙 「しし喰つた報ひ」だよ。まづ諦めるのだね。

甲 よく羨ばかり云ふ男だね。併し全く羨ましいよ。

乙 羨ましがられてゐるばかりでは歩に合はないよ。苦勞は並大抵ではないからね。併し我國も僕みたいなものが多いので人口増加して國運の隆盛を來たしてゐるのだから。

甲 全くね。僕みたいな者はかりだと、我國も今に佛蘭西あたりの様に心配せねばならぬからね。君は其點國家に忠なるものだよ。

乙 佛蘭西ばかりでもなく、ドイツ等も今のまゝでは國力を増進出来ないといつてヒットラーが生めよ殖せよというて大童になつてゐるし、伊太利だつてムツソリニーが「數の力」などいつて同じ様に躍起になつてゐるよ。

甲 そういへば、白色人種は増加停滞してゐるのに、日本を始め黄色人種の増加が大きいといふので、「黃禍論」等稱し大いに恐れられてゐるね。

乙 處が「滿つれば缺くる望月の」といふわけでもあるまいが、我國では人口増加が却つて、國家の重大問題になつてゐる様だね。

甲 それはおかしいね。人口増加が一國の隆盛を來すことは古來多くの歴史が證明してゐるではないか。

乙 それはね、一言にして云へば、「貧乏人の子澤山」になるのを心配してゐるわけなんだ。御存知の様に我國の領土は面積が狭いばかりでなく天然資源も乏しいと思はれてゐる、それなのに人口は昨年の國勢調査によると一億近いし、増加は一年平均百五十萬人を示してゐるのだから、將來は尙益々多くなるだらうと思はれる。今でも狭

いのに一層狭くならうとしてゐる。國土資源に一定の限界があるのに人口ばかり多くなると、例へば僕の様な貧乏人が多くの子供を持つて困る様に國家も亦困る様になりはしないかといふわけだ。

甲 そうかね。併し先程君は子供の多いのは將來に望みが多いいつて僕を羨ましがらしたではないか、國家だつて人口が多くなれば將來の發展を期待し得るわけで愉快ではないか。

乙 それはそうだ、併し個人の場合と國家の場合とは違ふと思ふね、個人としては子供が多いのは現在苦しくても子供が生長すれば樂になるだらう、國家が嚴然として頑張つて呉れ、子供等の將來も保證して呉れるだらうからさ、所が國家としてはそうは行かない、國家の人口が多くなつて困つても、其の將來を保證して呉れる者はない、國家自身で何んとか切り拓いて行かねばならぬ、其處に重大な問題があると思ふね。

甲 成程よく判つた、個人の子澤山の苦しみと、國家の人口過多の問題とは性質が違ふのだね。

乙 そうだよ、近頃國策國策といふ言葉が流行して、雜誌でも新聞でも盛んに使用してゐるね、一日も早く確固たる國策を樹立せねばならぬというてゐる、併し苟くも國

策といふ以上は、昨日や今日、明日、明後日といふやうな短時日のものであつてはならない、相當に長期間に亘る根本的のものであらねばならぬ、所で何が最も根本的な問題かといへば我一億の同胞に如何にして喰はせるかの問題だと斷言し得る「命あつての物種」だからね。「腹が減つては戦は出来ない」のだから、なんといつても之が一番根本的な問題だ、所が先程いつた様に我國は國土資源は乏しいのに人口は多い、そして國土資源に一定の限界があるのに人口の増加は著しい、だからして兩者は將來調和しないやうになるのではないかと考へられる、調和しなくなつてから騒いでも遅いでは遅い、いまの中から適當な國策を樹立する必要があるといふので之が重大問題になつてゐる。

甲 ははあ、それでは其の國策についても目安がついてゐるのかね。

乙 大體の方針は樹立されてゐると思ふ、併し萬遺漏ない對策を立てるには先づ第一に我國の人口状態をよく研究せねばならぬ、我國の人口は現在一億であるが、將來どれだけ多くなつて行くのであらうか、どれだけの人口が新たに食糧を必要とし職業を求めたる様になるだらうか、之を十分に研究し盡した上でなくては適當な對策は立て

難い、言ひ換へれば人口問題を十分に研究しなくては根本的な國策をたてることは出来ない、それで現在多くの學者達が人口問題を研究してゐる、この研究が十分に行はれば色々すばらしい計畫も出来るだらう、併し現在我國の人口が多くて國內資源の乏しいといふことは常識的に皆んな知つてゐる、そして此の常識に基いて常識的な對策として學者の考へてゐる方法に三つある。

甲 それは何と何とだい？

乙 第一は人口の増加を止めようとする産兒制限論、第二は増加する人口を他國に移さうとする移民論、第三は人口を工業で以て支へやうとする工業立國論だ。

甲 産兒制限といふと、サンガー女史の論する所だね。

乙 そうだよ、女史は最近にも印度人口問題を解決する爲め聖雄といはれるガンデーを説き産兒制限をすすめたといふことが新聞に出てゐた、所で此の産兒制限を我國の人口政策として採つてはどうだといふわけだ。

甲 産兒制限といへばいやに消極的だね。

乙 全くだ、一國人口の増加が國勢の隆盛を象徴することは君が先程いつた通りだ、之を喜ばずに削減しやうとするのだから消極的な話さ、外國では人口の増加しないことが却つて人口問題となつて盛んに増加政策を採用して

ゐる際に我國が人口増加といふ旭日昇天の勢を削減する産兒制限を國策として採用することは、正に角を矯めて半を殺す類ではないかと思はれる、恐らくこれが國策として採用されるやうなことはあるまい、が併し國策として採用されることはあるまいけれども、我國の社會事情を見ると之が一般家庭人に浸透して行く傾向があるのは否めないね。

甲 そういはれば、近頃の婦人雜誌を見ると「産兒制限の方法」等盛んに書き立ててゐるやうだね。

乙 いったい雜誌等といふジャーナリズムでは、社會人に興味をよこすこと、社會人の要求することを記事にするやうな行きがよい、だから雜誌に産兒制限方法等が主要記事の一つに数へられるに至つたことは社會人が其のことを要求し、之に關心を有するに至つた一つの證據であることは否めないと思ふ。

甲 全くなげかましい話だね。

乙 處でだ、之が實際に行はれたらどうなるか、之に依つて人口問題の解決が出来るか、どうか、といふと我國の人口状態から見ると、遠き將來少くとも四五十年も將來の話で現下の人口問題を解決する手段とは成り難いのだ。

甲 それは又どうしてだい、人口が増加して困るのなら之を増加させないやうにしたらよさそうなものではないかね。

乙 その點は今も云ふ通り、我國の人口状態を詳しく話せば判ると思ふが、統計表を出したりせねばならぬから又目を改めて話さうと思ふ、併し産兒制限の様な消極的手段で我國の人口問題が解決出来ないことは確かだ、だから君もその様に信じて間違ひない。

甲 して見れば産兒制限政策は望ましからざるのみならず之を採用しても適當な解決策とはなり難いのだね。

乙 そういふことになるね、そこで移民はどうだらうか、といへば……

甲 移民といへばブラジル移民、滿洲移民といふあれだね。

乙 そうだ、いくら我國の人口が殖えても、之を移民させる適當な土地があれば問題は生じない筈だ、過去の例を見ると十九世紀頃の英國がそれだ、丁度當時は産業革命の時代であつて、英國の人口は丁度現在の我國のやうに非常な勢ひで増加した、が其の増加した人口は宛も開拓期にあつたアメリカにどしどし移民させることが出来たので英國の人口問題は解決させることが出来た、我國

でも英國に於けるアメリカの様に適當な土地があれば問題は無いといふわけだ、所が現在世界の何處を見廻してもそんなよい土地はない。

甲 其のアメリカは現在でも人口稀薄で土地豊穡だけれども、すでに日本人排斥問題があつたし、ブラジルやオーストラリアでも移民制限があるし、成程移民は却々出来難いやうだね。

乙 統計で見れば海外移民は一年平均僅々二萬人内外だよ、之では全く燒石に水だ、百五十萬に垂んとする帝國人口増加の解決策にはなり難いと思はれる。

甲 併し最近滿洲國の獨立があつたので、我國の人口問題も大分緩和されたのではないかね。

乙 全くそうだ、滿洲國の獨立で我國も餘程明るなつたやうに思ふ、最近にも鮮滿拓殖會社が計畫され滿洲國に移民を送らうとしてゐる、國民も大いに滿洲を認識して、どしどし移つて行つて貰ひたいものだ、併し之がどの程度迄進行し得るかは研究を要する問題であつて、今の所之ばかりで人口問題の解決は出来たといふわけには行かないと思ふ、といふことになれば、移民に餘りの期待を掛けるわけには行くまい、それで次の工業立國の方はどうだらうか。

甲 廣田外相は先程の議會で、我國は工業立國、自由通商で行かねばならぬと演説してゐたね。

乙 そうだよ、我國の様な國柄ではそれが必要なのだ、工業では農業のやうに土地を必要とすることがないから、之で國を立てゝ行けば我國にでもまだ人口を收容する餘力は十分ある、それは内地の今日までの實情を見ても判る。

甲 どんな實情があるのかね。

乙 それは斯うだ、内地の人口は徳川三百年間に亘つては當時の鎖國經濟主義と専ら農業を基本とする封建制度の爲め人口は殆んど増加することが無かつた、農業では人口を増加させては之を養ふことが出来ないので「間引き」と稱する風習が行はれて、人口の増加を抑制してゐたといふことだ、それが明治の開國と共に我國國運の進展となり、人口は非常な勢ひで増加した、そして其の増加した人口は新たに勃興した工業に吸収されて人口の都市集中の傾向をとつた、統計で見ると明治時代から我國増加人口の約八割が都市に吸収されてゐるのだ。

甲 人口が都市集中の傾向を有してゐると聞いてはゐるが、その傾向がそんなに著しいとは思はなかつたね。

乙 全く豫想外多くの人口が都會に集つて商工人口となつ

てゐる、そして工業人口として吸収された爲人口は増加したにも拘らず國民の生活程度は著しく向上して來た、こんな事情だから、今後一層工業を振興させて行けばまだノ、人口に職業を與へ、生活程度を向上させることが出來さうだといふわけだ。

甲 そういふことになるね。

乙 所が工業立國を専らにするとなれば食糧とか、工業原料の供給は他國に之を仰がねばならぬし、又生産品は他國に賣捌くことにせねばならぬ、つまり食糧原料供給國と生産品販賣國との間に緊密な聯繫を必要とすることになる。

甲 他國の工業立國自由通商の趨勢といふわけだ。

乙 そうなんだ、所が最近の世界狀勢をみると經濟的恐慌と國際政治不安の爲めそんな聯繫を保ち、自由通商を維持することは甚だ困難なやうに思はれる、各國ともに關稅障壁を高くしてお互に他國の商品を排撃しようとしてゐる、先頃から問題になつてゐる英印問題とか、蘭印問題とか、加奈陀の問題だとか、日埃問題だとか、實際收擧に違ない程の事件がそれに關聯して起つて來てゐる譯だ。

甲 實際外國は随分亂暴な手前勝手なことを云つてゐる様

だね。

乙 みんな自分自分の利害關係があるからね、そして又、今いつたのは製品販路の場合だが、原料品についても同様な關係がある、今の様に不景氣不景氣と云つて諸國が農産原料品の賣捌きに大童になつてゐる場合は問題は無いが、これがいざ、一旦有事の際ともなつて見給へ、食糧や原料を専ら他國に頼つてゐたのでは其の國は忽ち困つてしまふ、いまや國家は非常時だ、何時國交斷絶といふやうなはめに陥るか計り難い、となると食糧や原料を専ら他國に依頼して安閑としてゐるわけには行かない。

甲 といふと農産販賣についても食糧原料の供給についても難點があるわけで、工業立國自由通商政策をとることも出來難いといふこととなるのかね。

乙 そうなんだ、それで各國とも自給自足といふやうな經濟政策をとらうとしてゐる。

甲 朝鮮の南棉北羊といふ政策もその一つの現れかね。

乙 そうだよ、朝鮮で棉や羊を作ることとは多くの勞費を必要とするには違ひない、併し先程のやうな國際狀勢を省みると、之が國策上其の當を得たものと云はざるを得ないと思はれる。

甲 自由通商がそんなに有望なものなら世界の政治家達が寄り集つて何とか適當な解決策は出来ないものかね。

乙 それは勿論、偉い人達でそんなことの判らぬ人はない、そして萬國經濟會議か何かを開いて何とかして解決したいとあせつてゐる、併し各國とも夫々の立場があるので仲々相談が纏らない、そして各國とも自分の方では何等の理由もないのに無暗と他國の商品を排撃しはしない、排撃するには相當な理由があるのだといつて、最近我國の商品の進出の著しいのを指して、社會的ダンピング等と稱してゐる。

甲 社會的ダンピングと云うと？。

乙 つまり社會的惡條件、即ち労働者を壓迫して極端に賃銀を低くし、それで生産費を引き下げ商品の値段を安くして以て競争しようとしてゐるのだら、自分の方では自國の労働者を壓迫せしめない爲、そんな競争品は排撃するといふのだ、この言葉は我國の關係してゐる場合には必ず持ち出されてゐる様だ。

甲 我國の労働條件はそんなに悪いのかね。

乙 そんなことはない、我國をよく視察した外國人はみんな我國の労働條件のよいのに驚いてゐる位だ、我國の商品が安いのは労働條件が悪いからではなくて、労働能率

が高いからである、世界の諸國は其の事實を目撃し乍ら、併も其の事實には目を蔽うて社會的ダンピング等稱してゐる次第だよ、これといふのも國際情勢の不安という様なバツクがあるからであつて、つまり工業立國の困難なることを物語つてゐるものと思ふ。

甲 そんなになれば産兒制限、移民、工業立國何れも效力のない事になつて、學者の考へてゐる人口問題の對策はみんな實効がないやうだね。

乙 全くだ、だから如何にして之を打開して行くかは極めて重要であると共に困難な問題だ、重大問題だ、大いに緊禪一番してかゝらねばならない。

甲 全くだね。

乙 所で我國の人口問題はそうした困難な状態にあるが、之を心配してゐる我國民ばかりでなく外國人の方でもより一層注意してゐるといふことだ。

甲 ほう、外國人にそんな同情心があるのかね、初耳だね、

乙 同情ではない、恐れて心配してゐるのだよ、我國の人口状態は今迄話した様な事情にあつて、國土資源と人口と不調和にならうとして、國民の生活が脅かれうとしてゐる、そして之が對策も今の所ではしつかりしたもの



見當らないと外國人は考へてゐるのだ。

甲 成程。

乙 君も御存知と思ふが、有名なマルサスは、一國の人口が過剰を來たして來ると、貧窮とか、癩疾とかいふ自然的勢力の爲めに人口も削減せらるゝというてゐる、が併しだ、經濟的向上心が旺盛で、而も近代制國家組織を築用してゐる國民が既得の生活程度を脅かされるに至つて尙且勢力の自然調節に甘んずるであらうとは考へられな、い、そして太平洋を圍繞する諸國の中で、或者は資源豊富で人口稀薄であるのに對し、或者は人口が有り餘つて頻りに其の捌口を求めやうとしてゐる、此の場合その後者の立場にある國民に國家的自覺がなければ問題はないが、其の國民が政治的經濟的進取の氣象に富んでゐる場合に、そんな事態に立ち至るか、或は國際紛争の根源になるやうなことがないとも斷言し難いといふのだ、そして尤も日本を以て其の後に該當するものだとし、我國を指稱して「世界に於ける人口の危険區域」と稱してゐる。

甲 つまり我國軍の威力と國民の意氣を恐れてゐるんだね、人口と資源の不調和が國際紛争の原因の一つになるといふことは先程出版された陸軍省のパンフレットに書

いてあつたのを僕も讀んだ事がある、所で人口問題がそんなに重大視されてゐるのは世界で日本ばかりかね。

乙 いや日本の他に伊太利がある。太平洋を圍る諸國の中では日本、地中海を繞る諸國の中では伊太利といふわけだ。

甲 そうかね、して見るとムツソリニーは自國の人口が有り餘つてゐるのに尙人口の増加を計畫してゐるわけだね、甚だ勇敢だね。

乙 何んといつても人口は國力増進の最大淵源だからね、伊太利のやうに大いに伸びんとする氣勢を示してゐる國では人口増加を計らざるを得ないのだらうと思ふ、そして人口が多いとか何んとかいつてもそれは要するに國土資源に對する關係で云ふに止まるのだからね、英國でもアメリカでも人口數は我國や伊太利よりも多い、唯國土資源がより一層豊富だから問題を生じない迄だよ。

甲 そう言へば我國でも濠洲あたりを持つてゐるとすると問題はないね。

乙 濠洲といへば、濠洲を日本に讓つてしまへといふ議論を唱へてゐる英國人のあること知つてゐるかね。

甲 知らないね。

乙 それは英國はロンドン聖ポール寺のインダ僧正だ、

甲 併し英國としてもおいそれと遼洲を呉れるところはあ
まいね。

乙 勿論だよ、併しそんな議論があるといふことも面白い
ね、それに「世界資源再分割論」等もあるね。

甲 米國のハウス大佐の説だらう。

乙 そうだよ、世界で人口多く資源の乏しい日本では滿洲
問題が起つたし、伊太利ではエチオピア事件があり、獨
乙は歐洲不安醸成の源になつてゐる、だからして此等の
問題を平和裡に處理するには、世界の資源を再分割して
資源乏しい國に分前を與へるに若かずといふわけだ。

甲 賛成だね、僕も日本人として、日本ほどの大國が僅か
ばかりの領土しか有つてゐないのは残念だ、それに廣大
な領土を持つてゐる國々が、其の領土を獲得するに至つ
た経緯を見ても何も高い代償を拂つたわけでもなく、ち
よつと一足先に航海に長じ、銃器を發明したといふほか
りで土民を欺したり、脅かしたりしてとつた土地なんだ
から、之を再分割するとしても不服はない筈だから
ね。

乙 そうだよ、が併し血の雨を降らすその様な議論が實
現を見ることはあるまい、併しともかく人口問題に關聯
して如何な議論があるのを見ても人口問題の重大なこと

は十分に明らかになるね。

甲 大いに人口問題を研究する必要があるね。

乙 大いにある、そして人口問題の對策を講ずるについで
も例へば醫者が患者の容態を知らずに手當をすることが
出来ないやうに、現在の人口状態を知り將來の人口状態
の豫測を研究することなくしては之をすることは出来な
い、そうしてそんな研究は凡て人口統計を基礎として
み出来ることなんだから、人口統計の完備を計ることは
極めて必要だと思ふ。

甲 大いに御尤も。

統計事務の刷新に就いて

忠北槐山郡廳 延 權

待望の朝鮮統計協會が誕生し、早くも機關誌創刊の運び
に至つたことは誠に慶祝に堪へない。此の機會に於て私が
平素抱懷してゐる一、二の愚見を述べ、先輩諸賢の御叱正
を仰ぎたいと思ふ。

一、統計職員の養成に付いて。現在一般行政中警察を
除き内務と庶務とを問はず、統計職員を養成する特殊の

機關なく、適宜の教育を終へた者を採用し、勤務の傍本人の自發的研究と古參者の經驗に依る指導に俟つ外はない状態である。しかしながら統計事務は普通の事務に比し著しく専門的であるが故に、新規採用者は當分直に用を爲さぬと言つても過言でない。加ふるに昭和九年五月郡庶務規程改正の結果、統計事務が庶務係の主管事務となつてからは、該事務に練達堪能の士が次第に減少しつゝあるやうである。此の對策として、金融組合職員に對し本府に於いて組合精神の注入に努めつゝあるが如く、統計事務の特殊性に鑑み統計職員の養成機關を設置し、統計精神の強調に努力せられんことを希望する。

二、郡庶務係權限の擴張に付いて 郡庶務係權限の狭少に過ぎることは異論のない所である。郡の事務が年と共に繁劇ならんとする時に當つて現在の如く内務主任の兼務では、時に嚴密なる監督を要する會計事務並に護中取締等に到底萬全を保し難いのみならず、徴税や統計事務に及ぼす影響も亦尠くない。尙現在庶務係には屬一名のみにて、人手も旅費も不充分の爲、監督の機能を十分發揮することは困難で、面統計事務檢閲の如きも一般檢閲の際に辛うじ

て年一回爲すが如き状態である。故に専任庶務主任を配置するは勿論、統計事務檢閲の經費をも別途配付し、統計事務監督上萬全を期せられたい。

統計の民衆化

全北南原郡廳 嚴 柱 完

統計は社會の明鏡であり、萬計の基礎材料である、即ち國家社會の現状及其の變遷消長は統計あつて初めて明瞭となり、國利民福を増進せんとするあらゆる政策は完備せる統計を基礎としてのみ初めて齟齬なきを期待し得るのである。所で統計調査の對象は社會に於ける集團的現象である、そして其の集團的現象を成立せしむるものは個々の人であつて、社會實在の個々の事象を、個々の人につき觀察蒐集し大量的に集團表象したものが即ち統計となるのである。

斯くの如く統計は個々の人々につき調査されるものであるから一般民衆の理解が乏しくは正確な統計を得ることは困難である。即ち良き統計を得るには先づ民衆の統計に

對する認識と理解が何よりの必要條件となるのである。然るに我が朝鮮の現状を見ると、時勢の進歩と過去三回の國勢調査に際して統計觀念の普及徹底に努められたこととに依り、漸次民衆の統計に對する關心が深まつて來たと云へ、尙物足らぬ點が少くない、統計調査といへば直ちに課税の爲めであるとか、犯罪捜査の爲めであるとか、其他色々な臆測をなし、相當な知識階級の人々でさへも調査を忌避し、事實を隠蔽せんとする傾向があつて、調査に従事するものが少からざる困難を見るのは遺憾に堪へない。

統計思想が普及徹底してゐないことには種々の原因があるが、第一に社會の事象を數理的に認識せんとする考へが民衆に乏しいことが一因であると考へられる。しかし民衆が努めて統計に親しみ統計に馴れて行くうちには、自然社會事象を數量的に觀察するに於いて、其の認識が具體的直截であり、効果的であることを感得するであらう。

次に統計は外形的には數字の羅列であつて、甚だ無味單調のやうであるから、多くの人は無關心になり勝ちのやうである。しかし統計は固より漫然と之を閱讀するのみでは何等の興味をも感ずるものではない。之れを比較對照し、比率を算出し、或は他の事物との關係を綜合し檢討することに依つて、過去に於いて如何なる變遷消長を辿つて來た

か、將來如何なる趨向を以つて進み行くべきかを考察するに於いて、例へ一片の統計表なりとも、其の内に如何なる浩瀚な名文章を以てしても表現することの出來ない、統計獨特の長所と味とを持つてゐることを理解することが出来るのであらう。

要は民衆をして屢々統計に接觸せしめ、之れに親しみ之れに馴れる機會を多く與へることである。しかるに統計は主として官府が調査し、其の結果は統計年報、調査月報等を以つて發表せられてゐるのであるが、之等の刊行物は主として官公署に配付せられ、一般民衆は統計に近寄り親む機會が極めて少ないことは、統計の民衆化、統計觀念の普及を阻害する最大の原因であらう。統計の目的が國家政策の方針を決定し、立法行政其の他あらゆる施設の資料となり、又國民に國家社會の現状及び其の變遷消長を正しく認識せしめ、よりよき社會を實現せんとするにある以上、特に公表を禁ぜられたものを除くの外、努めて新聞雜誌等に廣く公表して、一般民衆をして容易に之れに觸るゝことの出來る機會を與へられたいのである。此の意味に於いて今回「朝鮮統計時報」が發刊され、民衆の統計に接する機會を與へらるゝに至つたことは極めて機宜の施設なるを信ずる。

統計叢話

村 辻 元

統計の重要性が、近來一般に強く認識されて來たことは、私共のごとく長く統計の仕事にたづさはつて來た者にとつては、殊に喜ばしく思はれる。勿論從來と雖も、統計の重要を説いた識者は數多く、同時に各般のことに對して統計を基礎に計畫が樹てられ、事が進められ、若しくは判斷されて來たことは明かであるが、近來は時局の要求と、殊に朝鮮に於いては、今や官民齊しく總督施政の第二「四半世紀」初頭に當つて「樂土朝鮮」を本當に實現させんとする異常な希望に燃え、それへの眞摯な歩みを願護に運ばせようとする切なる要求あるにより、我が統計は實に重要視せられるに至つた。この際私共統計のことに關係を有するも

のとしては、唯だ單にこの喜ばしい成り行きを甘受するばかりでなく、緊禪一番、大いに統計の普及發達を圖り、統計本來の眞意義を發揮し得るやうに努力精進せねばならぬと思ふ。

統計の事務にたづさはることは、他の色んな華やかな仕事をやるのと並べて非常に地味な仕事であるから、その日の日の自分の働いた結果が目に見える譯でないから、やり映えはしないやうであるけれども、ここはどうしても辛抱して、飽く迄やり通さねばならない。その内には何時の間にか統計の本當の味といふか、妙味といふか、それが湧然と湧いて來るものである。

この際私も秃筆を奮發して、會員各位と共に研究することいふ意味で、多少統計に關することどもを認めてみることにしよう。

二

統計は何といつても諸事萬端の基礎となり指針となるも

のである。例へば建物にしても基礎工事を必ずしつかりやつて置かねばならない。一本の柱の下には必ず頑丈な基礎工事が要る。それが三階建、四階建といふやうに建物が高くなればなるほど、その地固めには層一層の慎重さと多くの努力を要する。基礎工事の不完全な建物は全く不安なもので、何時故障が来るか知れないのである。かの美麗と雄大を誇つて街々に聳え立つ大建築物には、その地下に埋もるる大きな基礎工事のあることを思はねばならぬ。

統計も全くこの基礎工事の役目を爲すもので、その良否が事柄の成否を左右するといへやう。統計の單位である府・邑・面に於いて作成せられつつある統計は、下は府・邑・面より、上は一道・全鮮・一國の行政經濟上の方針を決定する資料を提供するものであるから、その影響の大なることは、殆んど言語に絶するものがある。實に統計事務に携はる人々の責任の重大なるを痛感するのである。若しその調査が杜撰疎漏であつたならば、これに據つた諸種計畫の方針に狂ひが生じ、遂に失敗に終るといふことにもなる。唯だ上級官廳の命令であるがために、已むを得ず義務として、御役目としてのみ統計表を作成し、期限内に濟めばそれよいといふやうなやり方は嚴にこれを戒めて、自分の今やつてゐる統計資料の良否、正不正如何が、各方面に重大な影響

を及ぼすものであることを充分自覺して、満足な材料を報告しなければならぬ。つまり地下百尺に我が身を埋めて、統計のために、従つてそれはまた各般企畫の成功を助けるために、存分に努力するといふ心掛が實に望ましいのである。

三

前にも言つたやうに、統計はその人の心掛如何によつては決して無味乾燥なものではない。實際のところ統計事務は他の事務に比べて派手ではない。それがためか一般には統計を無味乾燥のもの如く考へて、他の事務に従事するよりはこの事務を嫌厭してゐる傾きがあるともいはれるが、これは大きな間違ひで、統計の眞髓を窺めると、そこに盡きせぬ趣味が湧いて來るものである。大正十一年に朝鮮で統計展覽會をやつたが、その時の當選標語に「見てはすかない數字じやけれど、嘯めば嘯む程味がある」といふのがある。また内地で古くから唱はれてゐる歌に、「色は黒ても食て見ておくれ、私や大和のつるし柿」といふのがあるが、統計の眞の面白味は熱心にやつて居れば自然に出て來るものである。眞面目にやつて見ると、大抵の仕事には趣味を有つことが出來るものと思ふが、統計も矢張り同

じことである。

統計の仕事に興味を持ち得るに至れば、知らず識らずのうち統計はよくなり、統計の改善が極めて顯著に奏功して来る。

統計の改善とか發展については、既に幾多の論議があり、意見がなされてゐる。或は調査機關の完備を要望して經費の増額を求むるもの、或は一般人士の統計思想普及の急務を高唱して印刷物の配布・講演會・講習會・展覽會の開催を希望するもの、或は統計單位調査の任に當る府邑面職員の指導訓練を重要視してこれが素質の向上を圖らんとするもの等々があり、これ等は確かに統計の改善發達のための重要な事項であつて、何れも實現し實行したいものであるが、種々の都合上、これ等を一舉にしてやり遂げることは出来ないもので、それに就いては漸を遂うて考慮し實現することとななければなるまい。そして随分困難なことではあるが、先づ何よりも現在統計事務に携はつてゐる人々が趣味を以て統計のために精進するやう仕向けて行くことが必要であらう。

四

朝鮮統計協會の目的中、統計知識の普及向上といふことが

その一着眼目として掲げられてゐるが、統計知識の普及向上の實を擧げるためには、官民の兩方面に互り、種々の留意が必要である。そしてそのうち統計の利用といふことは、統計知識の普及向上とは實に不即不離の間柄にある。言ふ迄もなく、統計はそれ自身のためといふよりは寧ろそれが他に利用されて始めてその機能を發揮するものであるから、統計は官民何れにも容易に利用し得るやう、それを考案する必要がある。統計思想の普及が急務だからといつて、唯だ統計の緊要なること、有用なることを吹聴したばかりでは、未だ充分その目的を達することは困難である。出來上つた統計はその利用を容易ならしめ、これを觀察して最も利便多き方法を選び、利用者の要求を察してこれを充すに努めねばならぬ。統計の利用に左程考へを運らさず、統計書を作成して徒らに死蔵するやうなことでは、折角の尊い努力を水泡に歸せしめることになる。そして統計の利用のためには、その内容が正確であるといふことが第一の要件たるは勿論であるが、努めてこれを利用し易くせねばならぬ。例へば統計の印刷物の如きも、絶えず利用者の立場を念頭に置いてこれを編纂し、見る者が必ず統計の利便を感得し、統計の恩恵を痛感せしめるやうにせねばならぬ。また一般の人々が統計に關して官公署に依頼して來たやう

な場合にも、進んで親切な回答を與へ、差支へのない限りは多少の手数は忍んで、要求の事項に對して出来るだけ充分な回答をなすべきであらう。

五

統計の資料蒐集は、現在各種の機關によつて行はれてゐるが、朝鮮統計の蒐集の上から見て大きな地位を占めてゐるものの一つは、實に我が朝鮮總督府報告例であらう。この報告例は、總督府施政計畫の必要上、且つまた施設結果の認知上必要な事項を總督府が所屬官署の長をして報告せしめるためにその様式並びに期限を決定したものである。報告例別冊は甲乙二種から成つて、甲號は道知事に於いて報告すべき事項を、乙號は道知事以外の所屬官署の長に於いて報告すべき事項を定め、各々事件の性質によつて即報・日報・月報・季報・半年報・年報の六種に區別してある。

その内容は、施政計畫の材料として必要なもの、官報、施政年報、統計年報等の材料として必要なもの、その他事務の参考上特に必要なもの等、機密・臨時・會計上の報告を除いた統計的調査報告の殆んど一切を網羅してゐる。

元來官府統計は、事務統計から發達したもので、その事務統計といふのは、上級官廳が下級の行政官廳の事務を監督する目的で、その取扱つた事務の梗概を數を以て表はし、

これを統計の形式で報告せしめたものであるから、本府報告例にあつても、勿論これ等の形式のものを統一收録してゐるが、その他各般の統計をも包含し、實に多方面の資料が得られることになつてゐるから、この報告例による報告表が精確に報告されるに於いては、その價値は誠に莫大なもので、國政の上にも、地方行政の上にも、將たまた府邑面行政その他の上にも、この統計が貴重なる基本資料として役立つものといはねばならぬ。

それ故統計事務擔任者は勿論、官公署にあるもの、その他一般の人に於いても、よくこの報告例を吟味研究する必要がある。私も長らく統計のことに携はつてゐる關係上、この報告例の重要性に就いては常に痛感してゐるところであるから、この研究に就いては多少申上げたいことがあり、そしてその中には御参考になることもあらうかと思はれるが、これに關しては更に機を改めて誌して見たいと思ふ。

六

統計をよくするために、何といつても統計事務擔任者の問題を重要視せねばならない。統計は地味な仕事であり、しかも相當面倒なところが、華やかな、或は人の目につき易い外部的な、表面的な仕事とは餘程違ふから、統計事務の擔任者は、矢張りそれに相應しい人であることが望ましい。つまり數字取扱ひの好きな、辛抱強い、常識の發

達した人が、統計事務を擔任するやうになることがよいと思はれる。そして擔任者が頻繁に異動することは、統計事務の整備改善には大變都合が悪い。これは外の事務の場合でも同様都合がよくないであらうが、殊に統計は特殊の技術を要するもので、相當長い間かゝつて漸く事務がのみ込めるのである。それに異動が頻繁に行はれたのでは、擔任者は事務の要領を得ないうちに、早くも移るといふことを繰り返す譯になるのである。わけても統計主任は、統計事務の整理統一をなし、且つその指導監督に任せねばならぬ重要な機關であるから、その交代は一層慎重にせねばならぬと思ふ。統計の重要性に鑑み、且つまた統計事務の性質に顧みて、統計主任は専任とする必要があるが、その已むを得ざるものは、兼掌事務を出来るだけ軽減して、本務に支障のないやうにあつて欲しいと思ふ。

七

統計協會の設立趣旨にある如く、統計が本當のお役に立つがためにはその統計が「精確」であることが最も必要である。統計が諸般施設の繩準となり、基礎となるといふのは、一に統計が精確であるといふ場合にのみ言ひ得らるることである。

それ故統計表を作る場合には、専らこの精確といふことを念とすべきである。それがためには、ある事柄を調査し

て統計を作る場合には、先づ調査の趣旨をよく理解し、それに副ふ様に慎重に取りかゝらねばならぬ。唯だ統計表を作り上げさへすればよい、表の形式になつて居ればよいといふだけでは駄目である。調査の趣旨を取りちがへたり、趣旨の範圍外に脱したり、調査の趣旨に不足な調べでは駄目である。例へば報告例による統計表を調製するにも、先づその表作製の注意事項を熟讀玩味して、よくその表を作る趣旨を體得した上で作製にとりかからねばならぬ。調査事項が明かに限定されてゐるものを度外視して、漫然と作製したのでは、統計表の精確は期し得られない。または調査事項を或る限度により截然區分すべきものを區分せずに掲記したりすることはよろしくない。それから調査の對象となる時期、即ち何年中とか、何年末とか、何年度とか、何年度末とかいふ時期も嚴格に取扱ふべきであり、調査の時を誤るときは大變な不正確を惹起することになる。規定の様式を誤つてならないことは勿論である。それからその表が、他の表と密接な關聯あるものの如きは、よく相互の比較對象をなすつゝ作製しなければならぬ。その他統計表の精確を期する上には、種々の事項があるが、今はこれ等を次の機會に譲り、また一々の細微の事柄に關しても機を新たにして述べることにしよう。同時に會員各位の貴重な御意見も拜見したいと思つてゐる。

(昭和十一年一月)

工場資源調査に就いて

總督官房文書課
加藤 一

工場資源調査規則に基いて提出せらるる工場調査票に依つて集計せられたる統計が、國家の重要資源の現状を明かにし、國家總動員計畫樹立の基本的資料として喫緊なることは既に周知の通りであります。斯の如く使命の重大にして其の演ずる役割の如何に緊要なるかを推ふとき、其の調査は益正確に且つ迅速なるべきは當然であつて、而かも此の要求に合した統計の調製は一に掛つて調査票提出義務者たる工業主は固より道府郡島廳に於ける關係者の肩に在るのであります。此の意味よりして調査關係者によりよく本調査を理解して戴きたい趣旨より左に工場資源調査に關する要領を記載した次第であります。

常時五人以上の職工を使用する工場又は十二月末日現在の職工数は五人に満たなくとも曾つて五人以上の職工を使用し其の設備を縮小しない工場、職工及家族を使用し其の數五人以上の工場等は五人以上の職工を使用する設備を有する工場として其の工業主は工場資源調査規則に依つて毎年調査票を提出することになつて居ります。即ち規則第一條に該當する工場の工業主は調査票第一號甲、第二號甲及第三號甲の各三通に該當事項を記入し翌年一月末日迄に其の工場所在地を管轄す

る府尹、該守、島司に、又第二條該當工場の工業主は調査票第一號乙、第二號乙及第三號乙の各三通を翌年一月末日迄に府尹、郡守、島司に、尙第四號、第五號、第六號及第七號の各三通を翌年二月末日迄に道知事に直接提出し、府尹、郡守、島司は工業主より提出せられたる調査票の各一通を二年間保存し残り二通を二月末日迄に道知事に、道知事は其の調査票の各一通を二年間保存し他は一括して番號を記入し四月十五日迄に總督に提出することになつて居りますから、調査漏のないやう注意せらるると共に期限は必ず履行して戴きたいのであります。

各票共通記入注意

調査票の上部に「一般工場調査期間」欄と「季節作業工場調査期間」欄とがあります。季節作業工場に該當すべきものは事業其のものが所謂一定の季節にあらざれば作業を爲し得ないもの例へば清酒醸造、寒天製造等の如きものを指すのであつて之に反し季節に支配せられない作業を行ふ工場は總て一般工場であります。季節作業工場に在りては作業期間を記載するのでありまして例へば清酒醸造業の如く其の作業が前年の秋季より其の年の春季に跨る場合は昭和十年の調査は例へば自昭和九年十一月一日至昭和十年四月十八日等の如く其の季節の作業期間を記載するのであります。

「工業主の住所」氏名又は名稱並に捺印欄の住所は簡記せず必ず何道府郡何洞何番地等の如く記載せられたい、尙工業主の氏名に何々組合或は何々會社等の如き團體名を記入しないやう必ず代表者名を記載せられたいのであります。

「工場名」欄には鏡淵紡績株式會社京城製絲工場、ト織物場等の如く

工場の稱呼を記載するのではありませんが、工場に特別の稱呼ない場合は其の工場の主たる事業及工業主の氏名又は名稱等に依つて假りに名稱を附するのであつて例へば中村レンズ工場等の如く記載するのであります。

「主要事業」欄は工場分類表の小分類に依つて記載するのであります。若し當該工場が工場分類表に掲ぐる異なる種類の事業を併せて営む場合は其の内でも最も主要と認めらるるもの即ち各々の生産額の多少、設備の大小等を参酌して事業の一種を代表して記載するのであります。

數量の單位は成るべく生産分類表に記載したる「メートル法に依ることになつて居りますが、若し「メートル法」に依らずして「噸、樽箱、束、俵等の如き實數量の一定しない單位を使用せらるゝ場合は之が内容を必ず「備考」欄に附記して載きたいのであります。

調査票第一號甲

「原料及材料使用額」欄の總消費は調査期間内に於て生産の爲使用したる原料及材料であれば、其れが直接たると間接たるとを問はず總てを購買價額に依つて計算記入するのであります。原動機及作業機械並に設備に使用したる機械油の如きものは之を除くことになつて居ります。尙加工又は修理の委託を受けたる工場では委託工場の原料及材料の價額のみを記入するのであつて例へば綿布の染色を委託せられたる工場では染料、藥品、塗料等の價額を記入し綿布の素地の價額は記入しないのであります。

「原料及材料使用額」欄には特に指定せられたる原料及材料即ち棉花、羊毛、屑毛、生絲、紡績綿絲、綿絲、毛絲、鉸鐵、銅塊及銅錠、銅

材、銅塊及銅錠、銅材、鉛、「アルミニウム」、硫酸、硝酸、苛性「ソーダ」を使用したる場合に限り各々其の品種別に數量、價額、購買價額に依るを記入するのであります。従つて其の價額の合計は總消費に必ず符合するとは限らないのであります。尙自家生産に係るものを原料及材料として使用したる場合に其のものが特に指定せられたる品種に該當するときは一行空欄を置き指定品種別に數量、價額を記入し括弧して自家生産と附記するのであります。

「燃料及動力使用額」欄には作業の爲消費したる燃料（暖房用を含む）及電力（燈用を含む）を記入するのであります。「ガス」及電力は更に自家發生に係るものと他より供給を受けるものとに區別して其の數量のみを記入するのであります。若し事務室用の燃料と分離して調査し得ない場合は之を合算記入しても妨げないのであります。石炭、「コークス」、薪、木炭の單位は噸を以て記入するのであります。千疋が一噸に相當するのであります。石油の單位は疋でありまして種類及品質の良否で比重も亦異つて來るのであります。が次の標準に依つて換算せられたい。

輕油	一罐	一六・〇五七疋
揮發油	一罐	一三・五七一疋
燈油	一罐	一三・七八一疋
機械油	一罐	一六・四七四疋
重油	一罐	一六・八〇〇疋

尙燃料の價額は購買價額に依つて計算記入するのであります。

「電力使用數量」欄に馬力數或は支拂料金等を記入せらるる向があります。必ず「キロワット時」を以て記入せられたい。發電機及電動機

の馬力数を「キロワット時」に換算する場合は次の方法に據らるべし。

$$\text{「キロワット時」} \times 3.75 \times (\text{一日の使用時間} \times \text{一箇月の労働日数}) \div 1000 = \text{「キロワット時」}$$

又燈用の電力を「キロワット時」に換算する方法は

$$\begin{aligned} & \text{「電燈使用のワット時」} \times (\text{一日の使用時間} \times \text{一箇月の労働日数}) \div \\ & 1000 = \text{「キロワット時」} \\ & \text{「電燈使用の馬力数」} \times 1.25 \times (\text{一日の使用時間} \times \text{一箇月の労働日数}) \div \\ & 1000 = \text{「キロワット時」} \end{aligned}$$

【調査票第三號甲】原動力「欄」に操業中の電動機を記載せられて本票電力使用数量の記入漏れがあります。注意して覆きたい。尚電力使用数量に付て往々誤謬があります。追記して覆きたい。尚電力使用数量に供給を受け之を原動力として直流電氣を發生する場合は兩者共即ち交流と直流の數量を各欄に記入するのであります。

【労働消費】欄は職工のみに付て調査するのであります。職員、給仕、小使、門衛等は算入してはなりません。本欄は一箇年を四期に分ち各三箇月間短の事實を記入するのであります。一箇月分を記入せらるゝ向があります。平均一日使用電力は一日當の平均を各期別に記入するのであります。即ち一月より三月に至る三箇月間に於て毎日使用する職工の累計を同じく三箇月間の作業日数で除して一日當平均數を算出する如く、四月、六月、七月、九月、十一月、十二月の計にも右同様にて算出し端數を生じた場合は之を切捨て端數で記入するのであります。平均一日労働時間は職工の實際の労働時間の一日當平均を記入するのであります。休職時間又は食事時間等の如き作業に従事しない時間は算入しないのであります。往々工場の一日常業時間を記

入せらるる向があります。例へば甲職工一日の實際作業に従事する時間は八時間で、乙職工は十時間なる場合は平均一日の労働時間は兩者の平均たる九時間であり得ます。又毎日職工百人が午前と午後とに交替して各八時間宛實際に労働に従事する場合は平均一日使用職工數は二百人で平均一日の労働時間は八時間でありまして之を各期別に計算して端數を生じた場合は小數以下一位迄記入し他は切捨てるのであります。作業日數は工場の一箇年又は季節間の作業日數を各期別に記入するのであります。即ち一日も休業しない場合は一期即ち三箇月間の作業日數は九十日乃至九十二日であります。

【貸銀支拂總額】欄には職工にのみ一年間又は季節間支拂ひたる實際貸銀の總額を記入するのであります。手當、歩増、賞與等は勿論、被服、住居等の實物給與ある場合も其の價額を見積り合算記入するのであります。

調査票第一號乙

調査票第一號甲に於て説明したる事項に注意して記入せられたい。尙本票の「電力使用額」欄の原動力の種類又は供給者名を記載せられたい向があります。自家發生に係る電力に付ては原動力の種類を「汽力」、「ガス力」、水力等の如く區分し、他より供給を受けるものは供給者名を必ず記載して載せたいのであります。

調査票第二號甲

「分類品目」欄に記載すべき生産品の名稱は必ず生産分類表に依つて夫々區別記入するのであります。例へば生絲製絲業に在りては生絲、生皮、鬚斗絲及其の他の製絲層物の如く、又製材業に在りては、板、角、丸、「ベニア」板、其の他の如く記載するのであります。往々杉材、

松材、米材、内地材等の如く記載せらるる向がありますから注意して載せたい。

「生産額欄には調査期間内に實際生産したるものの数量と價額とを記入するのであります。又副生産品の記入漏れが、副生産品は總て記入することになつて居ります。一例を挙げますと和酒醸造業には清酒の外に酒粕が、醬油醸造業には醬油の外に粕の生産がある筈でありますから漏れないやう記入して載せたい。自家生産に係るものを直に原料及材料並に燃料として消費したる場合は其のものを直に原料及燃料並に燃料として消費して挿入して自家使用と附記するのであります。價額は工場及建設に依つて計算記入するのであります。自家工場に於て原料及材料並に燃料以外に消費したる場合即ち食糧及肥料等として使用したる場合は之を記入しないことになつて居ります。委託仕事として自家工場に於ては全く製造も加工も修理もなさないものは之を記入しないのであつて、他人のものに其の委託を受け加工又は修理をなしたる場合は其の數量を一行空欄を置いて記入し挿入して委託品と附記し價額には加工賃又は修理料のみを記入するのであります。委託品が雑多の物件で數量を記入すること著しく困難であれば數量の記入は省略しても差支ないであります。

「在庫額欄には調査期末現在の實際の在庫額を調査するのであります。から前期よりの持越しをも含むのであります。價額は「生産額欄の價額の算出と異つて期末の市價に依つて計算記入するのであります。

在庫品は自家倉庫或は店頭に在るもののみとは限らないのであつて、他人の倉庫に保管委託中のもの或は他店に販賣方を委託中のもの等は之を記入するのであります。他人に賣却したるものを偶々期末に自家倉庫に保管し居る場合は之を記入しないのであります。又他人のものに付て其の委託を受け加工又は修理をなしたるものを未だ委託者に引渡さずして期末に在庫し居る場合は在庫品に準じて一行空欄を置き挿入して委託品と附記し各品目別に數量、價額(期末の市價に依る)を記入するのであります。尙原料及材料の在庫品は生産品の在庫品と區別する爲一行空欄を置き挿入して原料及材料と附記し各品目別に記入するのであります。

生産分類表に單位の記載ないものは價額のみを記入することになつて居ります。

調査票第二號乙

調査票第二號甲の説明事項に注意して記入せられたい、尙本票の分類品目は出来る限り細別して記載するのであります。即ち薬品の濃度、機械の型式又は寸度の異なる如きものは之を別品目として記載するのであります。

調査票第二號甲

「事業開始年月欄には工場の最初の事業開始の年月を記載するのであります。事業繼承又は營業組織變更の年月を記載せらるる向がありますから注意して載せたい例へば個人經營の工場を會社組織の工場に変更したる場合には變更時の年月を記載せずして個人經營の工場の

事業開始年月を記載するのであります。

「従業者數」欄には工業主及雇傭關係のない家族は記入しないのであります。職員は事務に従事するものと、技術に従事するものとに區別し、尙性別及民國籍別に記入するのであります。事務と技術とを兼務する者は其の主たる職務に依つて何れか一方にのみ記入するのであります。職工中には職工長、伍長、工長、普通職工、臨時職工、日傭職工の外工場建設等の修繕等に従事する常傭の六工、左官等をも含むのであります。之を年齢別、性別、民國籍別に區分して記入するのであります。其の年齢は數へ年に依らず滿年に依つて計算記入するのであります。其の他の従業者とは給仕、小使、門衛、掃除夫、四方、其の他運搬に従事する者等の如き職工以外の勞務者を謂ふのであります。之を性別、民國籍別に記入するのであります。精穀業に於ける紐乾人夫は従來職工として調査して來ましたが其の他の従業者として記入することになりましたから注意して載きたいのであります。

「職工一人一日當實收貨銀」欄には使用職工中十六歳以上五十歳未満の者一人一日當の實收貨銀に付て調査期間中に於ける平均額を性別、民國籍別に記入するのであります。手當、歩増、賞與等は勿論、被服、住居等の實物給與ある場合に於ても其の價額を見積り合算記入するのであります。

「兵役關係者數」欄には職員又は職工にして歸休兵役、豫備兵役、後備兵役、補充兵役に在る者を豫章、海軍別に記入するのであります。本欄記入數が内地男の職員、職工數より多いことが往々ありますから

注意して載きたいのであります。

「原動機欄」に原動機何臺と記入せらるゝ向がありますが、右は誤りで必ず指定せられたる原動機別に即ち蒸氣機關、蒸氣タービン、「ガス」機關、石油機關、「タービン」水車、「ベルト」水車、日本型水車、電動機等に區別し且つ之を實馬力數別に使用中のものゝ休止及豫備のものゝに區分して記入するのであります。發電機、汽罐は本欄に記入してはなりません。

「作業機及設備」欄には指定せられたる機械及設備を使用中のものと休止及豫備のものゝに區別して記入するのであります。尙指定せられたる事業以外の事業に指定作業機械の施設しある場合は之を記入するのであつて例へば小麦粉製造工場以外の工場に於て粉碎機のある場合は之を記入するのであります。

調査票第三號乙

「電動機及原動機以外の原動機欄」の作業場名は第一製綿場、機械工場等の如く電動機及原動機以外の原動機の所在する作業場名を記載するのであります。

「電動機欄」の電動機は先づ用途別に區分し、實馬力數別に使用中のものゝ休止及豫備のものゝに區分し更に之を直流のものゝ交流のものゝに區別して記入するのであります。發電機は記入してはなりません。

「電動機以外の原動機欄」には蒸氣機關、蒸氣タービン、「ガス」機關、石油機關、「タービン」水車、「ベルト」水車、日本型水車等の原

動機を型式別に記載し、次に用途別に区分し、更に馬力別に使用中のものと準備及休止のものに區別して記入するのであります。

「工場一日の作業時間」欄には工場一日の作業時間を記入するのであり、時期に依つて作業時間の異なる場合は時期毎に區別して記入するのであります。例へば一日労働二交替の工場にして一月一日より三月三十一日迄及十二月一日より十二月三十一日迄の作業時間が各七時間、四月一日より十一月三十日迄が各八時間とすれば、自一月一日至三月三十一日工場一日の作業時間は十四時間、自四月一日至十一月三十日は十六時間、自十二月一日至十二月三十一日は十四時間と記入するのであります。

調査票第四號

「原料及材料使用額」欄には調査期間内に於て生産の爲使用したる原料及材料であれば、其れが直接たると間接たるとを問はず總てを成るべく細別して、即ち素材の規格、薬品の濃度、鑄石の品位等を異にするものは各別品目として記入するのであります。が原動機及作業機械並に設備に使用したる機械油の如きものは之を除くのであります。加工又は修繕に委託せられたる工場に於ては委託工場長の原料及材料の記入するのであつて調査票第一號甲の「原料及材料使用額」欄に於て例示説明として書きましたから注意して書きたい。自家生産に係るものを原料及材料として使用したる場合は其の總てを成るべく細別して記入するのであります。尙本票の價額は購買價額に依つて計算記入するのであります。

調査票第五號

「職員、職工、其の他の従業者、職工一人一日當實收賃銀及職員職工兵役關係者數」欄の記入に付ては調査票第三號甲の説明事項に據られたのであります。が尙左の諸點に充分注意して戴きたいのであります。

本票に於ける職工の技能別は從來當該工場に於て實施し居る技能者に依つて記入して來ましたが、工場に依つて其の記入せらるる區分の程度が甚だしく異なつて居りました爲之を綜合して資源の統制運用計畫の資料に供すること不可能の場合が度々あつたのであります。仍て昭和九年末より機械職工を製圖工、木型工、鑄工、鍛工、鋸打工、銅工、熔接工、熱處理工、旋盤工、鑽孔工、鑽開工、轉削工、成形工、平削工、壓搾工、壓穿工、剪斷工、壓延工、研磨工、齒切工、螺立工、其の他の機械工、工具工、金屬品仕上工、機械組立工等に區別して記入することになつたのであります。尙職工が二三種の技能を兼ね居る場合は其の技能中主要と認めらるる技能者に依り記入し又區別が困難なる場合は其の旨を「備考」欄に附記して戴きたいのであります。

「職員及職工兵役關係者數」欄は調査票第三號甲の「兵役關係者數」欄に區別したるものであります。陸軍、海軍別に又既教育者、未教育者別に再分し、既教育者を更に飛行兵又は氣球兵、鐵道兵、電信兵、戰車兵、自動車手、工長、其の他に區別して記入するのであります。自動車手とは各兵科に屬する者の中自動車の運轉に關する教育を受けた者で、工長とは火工長、鞍工長、銃工長、鍛工長、木工長、機工長、

電工長、縫工長、靴工長、磨工長、篩織工長等を謂ふのであります。

調査票第六號

「作業機械及設備」欄には直接生産の爲に使用したる機械及設備を種類別に、寸度又は能力別に區分し、更に使用中のものと休止及設備のものとの區分して記入するものであります。其の他の作業機械及設備」欄には右以外の機械及設備を工場内の運搬機械及設備又は検査用機械等を記入するものであります。往々運搬用の機械たる起重機、「エレベータ」等を「作業機械及設備」欄に記入せらるる向がありますから調査票裏面の注意事項を参照して誤りないや、記入せられたるものであります。

調査票第七號

「工場敷地延坪數」欄の坪數は坪單位で記入し以下切捨てるのであります。

「作業場及倉庫の建物」欄には作業場及倉庫を種類別に即ち作業場は作業の種類に依つて原圃場、木型場、機械工場、組立工場等の如く記載し、倉庫は用途に依つて材料庫、製品庫、石炭庫、燃料油庫、物置等の如く記入するものであります。更に之を構造別に區分し其の棟數、建坪、延坪を記入するものであります。構造は建物の構材及層數に付て記載するのである例へば鐵骨鋼板張平屋建、鐵筋「コンクリート」二階建等の如く記載するものであります。作業場及倉庫の建物の一部に事務室若は住居を置いてある場合は其の坪數を除きたる坪數を作業場及倉庫の建物の坪數として記入するものであります。事務室若

は住居の坪數を算出すること困難である場合は其れを差引かず記入しても差支ないことになつて居ります。尙倉庫中には上屋をも含むのであります。

「外部との運輸聯絡狀況」欄の「聯絡する停車場、幹線道路、河川、運河又は港灣の名稱」は輸送に使用し得る最寄の停車場又は幹線道路、運河等の名稱を「聯絡に使用する機械又は設備の種類」は引込線、貨物自動車、船舶等の輸送機械及設備を、「停車場又は港灣に至る距離」は停車場又は港灣の主要埠頭より工場内の積込場所迄の距離を記入するのであります。

質義に應ず

統計に關する質義は本會に於いて研究の上誌上を以つてお答へいたします。

但し特に急を要するものは返信料三錢を送つて下されば直接お答へいたします。

報告例に關する通牒一束

昭和九年二月一日以降
官通牒及文書課長通牒

○官通牒 (政務總監)

一、朝鮮總督府報告例別冊ニ關スル件 (九、六、四 官通牒三二)

各道知事及各稅務監督局長宛

一、朝鮮總督府報告例別冊ニ關スル件 (九、二、二五 官通牒四四)

所屬官署ノ長宛

一、朝鮮總督府報告例別冊ニ關スル件 (一〇、一一、一二 官通牒三七)

新屬官署ノ長宛

一、朝鮮總督府報告例別冊ニ關スル件 (一〇、一一、二八 官通牒四四)

所屬官署ノ長宛

○文書課長通牒

一、報告例甲第八〇號交通機關ニ依ル事故表

中正誤ノ件 (九、一、一六)

各道統計主任宛

一、改正報告例乙號中正誤ノ件 (九、一、一八)

各地方法院長及各支廳判事宛

(註) 乙第一一四號 正誤

一、報告例甲號中正誤ノ件 (九、三、一七)

各道統計主任宛

(註) 甲第二〇五號、第三二五號 正誤

一、報告例甲第二六二號訂正ノ件 (九、四、五)

各道統計主任宛

一、報告例甲號中正誤ノ件 (九、五、二三)

各道知事宛

(註) 甲第二二五號、第二八三號 正誤

一、報告例甲第二七九號及第二八〇號表ニ關スル件 (九、六、二五)

各道知事宛

(註) 甲第一二五號、第二九四號、第三〇三號、第三三三號、第三三七號、第三三九號、第三四〇號、第三四一號、第三四二號、第三四三號 改正

乙第三三五號 削除

一、同 件 (九、九、一九)

各稅關長宛

(註) 乙第一八九號 改正

一、報告例中正誤ニ關スル件 (九、九、一九)

江原道統計主任宛

(註) 甲第四一號 正誤

一、昭和九年十二月官通牒第四十四號ニ關スル件 (一〇、一、二二)

各道統計主任宛

(註) 甲第三三三號 正誤

一、同 件 (一〇、一、二四)

各道知事宛

(註) 甲第一〇號 正誤

一、朝鮮總督府報告例別冊甲號ニ關スル件 (一〇、四、二五)

各道知事宛

(註) 甲第三二一號、第二九四號、第三〇三號 改正

一、朝鮮總督府報告例別冊乙號ニ關スル件 (一〇、四、二五)

各地方法院長宛

(註) 乙第一〇〇號 改正

資

料

貿易 農業 會社
總額 戶數 產額

昭和九年の朝鮮貿易

貿易總額九億八千四百萬圓

前年に比し二億一千百萬圓の激増

昭和九年中の輸移出品價額は四億六千五百三十七萬圓、輸移入品價額は五億一千九百十五萬圓で、此の總額は九億八千四百五十二萬圓に上り、而して差引五千三百七十八萬圓の輸移入超過を示して居る。之を前年に比較すると輸移出は九千六百七十四萬圓(二割七厘)、輸移入額は一億千四百九十六萬圓(二割八分四厘)、總額で二億一千七百七十萬圓(二割七分三厘)を何れも増加し、又入超額も更に五割一分、價額にして一千八百二十三萬圓を加へた。

外國貿易 輸出額は五千七百六十七萬圓、輸入額は七千九百五十三萬圓、總額一億三千七百二十萬圓で、差引二千八百八十五萬圓の輸入超過である。之を前年に比べると輸出は僅かに四百九十萬圓(九分三厘)の増加に過ぎなかつたのに

統計漫筆

松江

昨年施行された國勢調査の結果に依ると帝國全版圖の總人口は九千七百六十九萬人で、歐米列強に於ける最近の國勢調査の結果と比べて、ソフエート聯邦の一億四千七百一萬人、北米合衆國の一億二千二百七十七萬人だけが我國より多く、其の他は何れも少く獨逸は六千五百二十一萬人、英吉利は四千四百七十九萬人、佛蘭西は四千八百八十三萬人、伊太利は四千百十七萬人である。

譯つて我朝鮮の總人口は二千二百九十萬人に達し、五年前の調査と比較すると百八十四萬人を増加してゐるから、一年間の平均増加は三十六萬八千人、一日平均一千人宛殖へて行く事になる。

國調の結果に依ると内地に於ける市の數は百二十七市で、此の内人口十萬以上のものは東京市の五百八十八萬人を筆頭に三十三市、朝鮮の府の數は十七府で、此の内人口十萬人以上は京城府の四十四萬人を筆頭に僅かに四府。

對し、輸入額は一千五百十六萬圓(二割三分五厘)と云ふ相當多額の増加を見たので、入超額では一千二十六萬圓(八割八分四厘)の入超増加になつてゐる。輸出額を對手國別に見ると滿洲國に對する四千八百三十六萬圓が最も多額で輸出總額の八三・八%を占め、滿洲國成立以來の鮮滿貿易は急速な進展を示してゐる。滿洲國に次いで關東州の五百十萬圓(八・八%)、中華民國の二百一萬圓(三・五%)は多い方で、他は問題にならぬ程些額である。

輸出品の主なるものは木材で總額の一〇・七%を占め、價額にして六百十九萬である。之に次いで綿織物の五百五十八萬圓(九・七%)、鐵の四百四十九萬圓(八・七%)、精糖の二百五十二萬圓(四・四%)、銃砲船車及機械類の二百二萬圓(三・五%)は多い方である。此の外百萬圓臺に米及穀・綿織絲・鮮魚・紅蔘・護謨靴があり、九十萬圓臺に絹織物、八十萬圓臺に護謨底綿靴(地下足袋共)、七十萬圓臺に乾蝦、六十萬圓臺に小麥粉・紙・柑橘類、五十萬圓臺に鹹魚・瑠璃鐵器・肌衣(上下共)がある。以上の中前年に比べて著しく増加したものを掲げると紅蔘は五十割九分三厘、絹織物は十七割三分一厘、瑠璃鐵器は六割八分、乾蝦は六割七分一厘、鐵は四割六分五厘、綿織絲は三割六分五厘で、減少したものは銃砲船車機械類の四割七分、護謨底綿靴(地下足袋共)の三割七分五厘、等である。

輸入額の仕出國別は滿洲國の四千六百六十八萬圓が總額の五八・七%を占め、遙に降つて中華民國の七百八十萬圓(九・八%)、北米合衆國の五百八萬圓(六・四

内地人の出生を性別に觀ると女一〇〇人に對して男一〇四人、つまり四人だけ男の出生が多い。處が不可解な事には人間とは反對に家畜は牝(女)一〇〇頭の出生に對して牡(男)の出生は牛八四頭、馬八九頭、豚八四頭で何れも牡の出生が少い。此の疑問を醫學的に解決した者には文部省で博士號を授けるとはまさか。

昭和九年の主要屠畜は牛二十四萬四千頭、豚八十四萬一千頭、馬、綿羊を合せて一千頭であるが、彼等の生前死後共に人類に貢獻した點では大學で供養祭をして貰へる兎やモルモットに比較すべくもない、屠畜祭の必要はないか。

石川五右衛門のセリフ、じやいが世に盜人の絶へる事なく、警察官必死の防犯工作にもかゝわらず昭和九年には窃盜の被害は百三十一萬圓、強盜の被害は四萬圓に上つてゐるが、白晝堂々と大道を闊歩し、警察官を横目で睨んで悪事をやるヤカラ所謂智能犯に依る被害は之より遙に多く詐欺取財四百五十九萬圓、横領取財二百二十三萬圓、恐喝取財五萬圓に達してゐる。コソ泥の用心も必要だか、智能犯に對する警戒も

%)、關東州の四百十三萬圓(五二%)は多い方である。

輸入品の主なるものは粟で輸入總額の一・八%を占め、價額にして千五百七十四萬圓に上つてゐる。之に次いで石炭の六百九十七萬圓(八・八%)、柞蠶生絲の六百六十八萬圓(八・四%)、肥料の六百二十六萬圓(七・九%)は多い方である。其他遙に降つて三百萬圓臺に大豆・葉煙草・銃砲船車機械類。二百萬圓臺に鹽・原油及重油・揮發油・繰綿・木材、百萬圓臺に麻織物・鐵及鋼・燈油・砂糖・小豆がある。此の内前年に比べて著しく増加したものは葉煙草の八十八割八分六厘、鐵及鋼の三十三割六分六厘、繰綿の十二割五分四厘、銃砲船車及機械類の十八割、肥料の六割八分七厘、麻織物の五割二分二厘等で、減少したものは柞蠶生絲の二割九分一厘、砂糖の二割一分八厘等である。

内國貿易 移出額は四億七百六十九萬圓、移入額は四億三千九百六十二萬圓で差引三千九百九十三萬圓の移入超を見た。之を前年に比較すると移出は九千八百八十四萬圓(二割九分一厘)、移入額は九千九百八十一萬圓(二割九分四厘)を何れも増加し、超過額に於ては五百九十七萬圓(三割六厘)を増加した。

移出品の主なるものは移出品の大宗と謂はれる米及穀で、總額實に二億二千二百二十九萬圓、總額中五十四・五%を占めてゐる。之に次いで遙に降つて肥料の二千五百十九萬圓(六・二%)、大豆の千八百十四萬圓(四・五%)、鐵の千二百九萬圓(三・〇%)、生絲の千四百七十七萬圓(一・八%)、銅の千四百萬圓(二・七%)も多い方である。更に此に次いで八百萬圓臺に繰綿、六百萬圓臺

肝要であらう。

最近に於ける朝鮮の國債は四億九千八百八十三萬圓、道債は六千四百七十九萬圓、府債は一千九百六十一萬圓、邑面債は七百四十二萬圓、學校組合債は五十一萬圓、學校費債は二十萬圓、合計五億九千四百四十一萬圓に達し全鮮の現任人老若男女を不問頭割にすると二十八圓、尙當を不問一戸當り百四十六圓の借金を背負つてゐる事になつてゐる。此の外に尙水利組合債が一億八百八十萬圓程ある。

朝鮮人の結婚年齢は花婿さんより花嫁さんの多い事は聞いてゐるが、昭和九年中の結婚に花婿が十七歳未満で花嫁が何と四十歳以上……但し五十歳未満だが……一寸どうかと思われ。かと思ふと花嫁が十五歳未満で、花婿が五十歳以上(但し六十歳未満)と謂ふものもある。之などお半、長右衛門も顔負するだらう。

昭和九年末に於ける朝鮮の電燈需用戸数は三十六萬八千戸で、現任總戸數一、〇〇〇、〇〇戸中僅かに九一・八戸、又取附燈數は百三十一萬三千燈で、面積一平方軒當五・九燈で内地の一七三・八燈に比較すると一寸暗い感じがする。又供給區域は一四府五一邑二、三四三府中府、邑は全部、面積は五七三面總面積の三割二分に供給してゐる。

に生蠶生絲・石炭、五百萬圓臺に乾魚・鮮魚、四百萬圓臺に鉄・牛、三百萬圓臺に洋紙・乾海苔がある。此の中前年に比較して著しく増加したものは鐵の十一割二分三厘、錫の九割二分六厘、米及穀物の四割五分六厘、肥料の三割四分三厘、石炭の三割二分、乾魚の三割五厘、繰綿の二割五分四厘等で、減少したものでは柞蠶生絲の二割八分四厘、生絲の一割八分一厘等である。

移入品では綿織物の四千四百十六萬圓が最も多額で總額の一〇・〇%、銃砲船舶及機械類の四千一萬圓(九・一%)、鐵及鋼の二千六百八十一萬圓(六・一%)、絹織物の二千四百九十五萬圓(五・七%)、肥料の千四百二十四萬圓(三・二%)、肌衣(上下共)の千三百三十六萬圓(二・六%)は多い方である。

此の外九百萬圓臺に毛織物・繰綿・綿織絲、七百萬圓臺に木材・洋紙、六百萬圓臺に洋服・石炭、五百萬圓臺にセメント・小麦粉・砂糖、四百萬圓臺に揮發油・燈油・生ゴム・ゴム底綿靴(地下足袋共)がある。此の中前年に比較して著しく増加したものを掲げると燈油は十割三分九厘、生ゴムは十一割三分三厘、肥料は八割三分八厘、ゴム底綿靴(地下足袋共)は八割九分四厘、木材は七割一分二厘、セメントは六割三分四厘、綿織糸は五割八分一厘、揮發油は五割二分三厘、肌衣(上下共)は四割三分七厘、繰綿は四割二分四厘、綿織物、銃砲船車機械類、鐵及鋼、小麦粉は何れも三割臺の増加を示した。

昭和九年末の朝鮮に於ける國鐵及私鐵を合せて四、六五五軒、面積一千平方軒當り二一・〇軒であるが、内地に於ては既に昭和八年で五八・九軒に達して居る。

都會人の足と謂われる程大衆化した電車は現在京城、釜山、平壤の三箇所に敷設されてあるが昭和九年中に於ける一箇年間の乗車人員は京城が五千六百九十三萬人、釜山が七百四十八萬人、平壤が六百二十三萬人であるから、一箇月平均京城人は一二・四回、釜山人は三・八回平壤人は三・三回乗車した事になる。

昭和九年中釜山……下關間を往來した人員は内地行が四十萬八千人、朝鮮行が三十六萬一千人、合計七十六萬九千人に達し、一日平均二千百六人の往來があるわけだ。

朝鮮に於て昭和九年中に此の世智辛い世の荒波を乗切る事が出来ないで、生きる權利を抛棄した自殺者の数は男一、四六一人、女一、〇一七人、合計二、四七九人であるが、此の内「生活困難又は薄命を歎いて」自殺したものは五三〇人、「病苦に因るもの」は四五五人、「精神錯亂に因るもの」は三三九人、一家室又は親族の不和に因るものは三三四人など多い方である以上の内「生活困難又は薄命を歎いて」は一對

輸移出入品價額 (單位千圓)

年	輸 出		輸 入		比 較
	總額	△入超過	總額	△入超過	
大正十四年	29,750	1,050	28,700	50	△入超過
昭和一年	48,720	1,350	47,370	350	△入超過
二年	42,070	1,150	40,920	1,150	△入超過
三年	50,070	1,150	48,920	1,150	△入超過
四年	55,510	1,150	54,360	1,150	△入超過
五年	45,770	1,150	44,620	1,150	△入超過
六年	46,460	1,150	45,310	1,150	△入超過
七年	90,890	1,150	89,740	1,150	△入超過
八年	117,110	1,150	115,960	1,150	△入超過
九年	101,010	1,150	99,860	1,150	△入超過
同 州	9,500	1,150	8,350	1,150	△入超過
同 國	10,000	1,150	8,850	1,150	△入超過
同 民	11,000	1,150	9,850	1,150	△入超過
同 度	12,000	1,150	10,850	1,150	△入超過
同 領	13,000	1,150	11,850	1,150	△入超過
同 印	14,000	1,150	12,850	1,150	△入超過
同 諸	15,000	1,150	13,850	1,150	△入超過
同 島	16,000	1,150	14,850	1,150	△入超過
同 利	17,000	1,150	15,850	1,150	△入超過
同 國	18,000	1,150	16,850	1,150	△入超過
同 國	19,000	1,150	17,850	1,150	△入超過
同 國	20,000	1,150	18,850	1,150	△入超過
同 國	21,000	1,150	19,850	1,150	△入超過
同 國	22,000	1,150	20,850	1,150	△入超過
同 國	23,000	1,150	21,850	1,150	△入超過
同 國	24,000	1,150	22,850	1,150	△入超過
同 國	25,000	1,150	23,850	1,150	△入超過
同 國	26,000	1,150	24,850	1,150	△入超過
同 國	27,000	1,150	25,850	1,150	△入超過
同 國	28,000	1,150	26,850	1,150	△入超過
同 國	29,000	1,150	27,850	1,150	△入超過
同 國	30,000	1,150	28,850	1,150	△入超過
同 國	31,000	1,150	29,850	1,150	△入超過
同 國	32,000	1,150	30,850	1,150	△入超過
同 國	33,000	1,150	31,850	1,150	△入超過
同 國	34,000	1,150	32,850	1,150	△入超過
同 國	35,000	1,150	33,850	1,150	△入超過
同 國	36,000	1,150	34,850	1,150	△入超過
同 國	37,000	1,150	35,850	1,150	△入超過
同 國	38,000	1,150	36,850	1,150	△入超過
同 國	39,000	1,150	37,850	1,150	△入超過
同 國	40,000	1,150	38,850	1,150	△入超過
同 國	41,000	1,150	39,850	1,150	△入超過
同 國	42,000	1,150	40,850	1,150	△入超過
同 國	43,000	1,150	41,850	1,150	△入超過
同 國	44,000	1,150	42,850	1,150	△入超過
同 國	45,000	1,150	43,850	1,150	△入超過
同 國	46,000	1,150	44,850	1,150	△入超過
同 國	47,000	1,150	45,850	1,150	△入超過
同 國	48,000	1,150	46,850	1,150	△入超過
同 國	49,000	1,150	47,850	1,150	△入超過
同 國	50,000	1,150	48,850	1,150	△入超過
同 國	51,000	1,150	49,850	1,150	△入超過
同 國	52,000	1,150	50,850	1,150	△入超過
同 國	53,000	1,150	51,850	1,150	△入超過
同 國	54,000	1,150	52,850	1,150	△入超過
同 國	55,000	1,150	53,850	1,150	△入超過
同 國	56,000	1,150	54,850	1,150	△入超過
同 國	57,000	1,150	55,850	1,150	△入超過
同 國	58,000	1,150	56,850	1,150	△入超過
同 國	59,000	1,150	57,850	1,150	△入超過
同 國	60,000	1,150	58,850	1,150	△入超過
同 國	61,000	1,150	59,850	1,150	△入超過
同 國	62,000	1,150	60,850	1,150	△入超過
同 國	63,000	1,150	61,850	1,150	△入超過
同 國	64,000	1,150	62,850	1,150	△入超過
同 國	65,000	1,150	63,850	1,150	△入超過
同 國	66,000	1,150	64,850	1,150	△入超過
同 國	67,000	1,150	65,850	1,150	△入超過
同 國	68,000	1,150	66,850	1,150	△入超過
同 國	69,000	1,150	67,850	1,150	△入超過
同 國	70,000	1,150	68,850	1,150	△入超過
同 國	71,000	1,150	69,850	1,150	△入超過
同 國	72,000	1,150	70,850	1,150	△入超過
同 國	73,000	1,150	71,850	1,150	△入超過
同 國	74,000	1,150	72,850	1,150	△入超過
同 國	75,000	1,150	73,850	1,150	△入超過
同 國	76,000	1,150	74,850	1,150	△入超過
同 國	77,000	1,150	75,850	1,150	△入超過
同 國	78,000	1,150	76,850	1,150	△入超過
同 國	79,000	1,150	77,850	1,150	△入超過
同 國	80,000	1,150	78,850	1,150	△入超過
同 國	81,000	1,150	79,850	1,150	△入超過
同 國	82,000	1,150	80,850	1,150	△入超過
同 國	83,000	1,150	81,850	1,150	△入超過
同 國	84,000	1,150	82,850	1,150	△入超過
同 國	85,000	1,150	83,850	1,150	△入超過
同 國	86,000	1,150	84,850	1,150	△入超過
同 國	87,000	1,150	85,850	1,150	△入超過
同 國	88,000	1,150	86,850	1,150	△入超過
同 國	89,000	1,150	87,850	1,150	△入超過
同 國	90,000	1,150	88,850	1,150	△入超過
同 國	91,000	1,150	89,850	1,150	△入超過
同 國	92,000	1,150	90,850	1,150	△入超過
同 國	93,000	1,150	91,850	1,150	△入超過
同 國	94,000	1,150	92,850	1,150	△入超過
同 國	95,000	1,150	93,850	1,150	△入超過
同 國	96,000	1,150	94,850	1,150	△入超過
同 國	97,000	1,150	95,850	1,150	△入超過
同 國	98,000	1,150	96,850	1,150	△入超過
同 國	99,000	1,150	97,850	1,150	△入超過
同 國	100,000	1,150	98,850	1,150	△入超過

二の割で男に多く「家庭又は親族の不和に因る」ものは一對三の割で女に多い。之は朝鮮に於ける家族制度の習慣として、餘りに妻又は娘を解雇する事に因つて起る悲劇ではあるまいかとも思はれる。

所謂映畫は現今一般大衆の嗜好に投じて凡ゆる階級層を通じて觀賞され、娛樂機關中其の發達の程度は第一位に置かれてゐる。昭和九年に於ける朝鮮の映畫興行の入場者は實に六百五十萬人で、此の入場料は百五十四萬圓に達してゐる。又他の興行を合せた數の割合を出すと入場者は六割三分、入場料は六割二分を占めるの盛況である。同年中の本府フィルム檢閲延長は内地物二百五萬米、外國物九十萬一千米、朝鮮物十三萬六千米、總延長三百八十七千米であるから、これを引延すと釜山、新義州間の鐵道線路を一往復半してまだ餘る。尙内地に於ける昭和八年の映畫觀客人員は二億二千五百萬人に達したと云ふ。

昭和九年中朝鮮に於ける各審裁判所の有罪確定判決總人員は五萬二千五百人であるが、此の内刑法に觸れた者が一萬七千人、各種行政法規に觸れた者が三萬五千四百人で、一對二、一の割合で後者が多い。之を年齢の階級に分けて見ると、刑法違反者の中三十歳以下の者が四四・

二 輸移出入重要品數量及價額 (金額單位千圓)

品名	單位	昭和九年		昭和八年		差引増(△減)
		數量	價額	數量	價額	
木材	方碼	三,四一五,一三六	六,一八五	三,四一五,一三六	五,〇〇〇	一,一八五
鐵織物	斤	〇,八二七,〇〇〇	五,五四三,四〇〇	〇,八二七,〇〇〇	五,〇〇〇	一,一八五
精製糖	斤	〇,〇〇〇,〇〇〇	四,四八五,四九七	〇,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇	一,一八五
銃砲及糖	斤	〇,〇〇〇,〇〇〇	三,三三三,七四一	〇,〇〇〇,〇〇〇	三,三三三,七四一	一,一八五
米穀類	石	八,六〇〇	一,九八八	八,六〇〇	一,九八八	〇
綿糸類	斤	一,五七三,九三二	一,三二二	一,五七三,九三二	一,三二二	〇
鮮魚	斤	六,八〇三,三三六	一,二七二	六,八〇三,三三六	一,二七二	〇
紅蓼	斤	三,八〇〇	一,一四四	三,八〇〇	一,一四四	〇
護謨靴	足	二,八七八,八三三	一,〇三三	二,八七八,八三三	一,〇三三	〇
網織物	方碼	二,二七四,八八八	九八八	二,二七四,八八八	九八八	〇
護謨靴	足	一,六三三,二二〇	八八八	一,六三三,二二〇	八八八	〇
乾蝦	斤	五,三三三,二九九	七三三	五,三三三,二九九	七三三	〇
小麥粉	斤	九,八三三,二九九	六八八	九,八三三,二九九	六八八	〇
紙類	斤	四,三三三,九九三	六三三	四,三三三,九九三	六三三	〇
甜橋魚	斤	八,七九〇,三九九	六三三	八,七九〇,三九九	六三三	〇
鹹魚	斤	九,八三三,二九九	五三三	九,八三三,二九九	五三三	〇
粘瑯鐵器	打	二,二〇〇,七九九	三三三	二,二〇〇,七九九	三三三	〇
肌衣(上下共)	打	七九,五九九	三三三	七九,五九九	三三三	〇

二%、四十歳臺の者が二七・七%、五十歳以上の者が一八・七%、二十歳以下の者が九・四%の割合で血氣盛の者が多い。行政法規違反者は五十歳以上の者が五四・五%、四十歳臺の者が二五・四%、三十歳臺の者が一七・九%、二十歳以下の者が二・二%で、前者と反對に高年者が非常に多い。刑法違反者の罪名は窃盜の五千八百人が最も多く割合にして三二・二%に當り、次が傷害の四千八(二二・二%)。

以上の者ですでに總數の半數以上を占めてゐる。又特別法の違反者では諸稅令違反者が一萬二千六百人も多く總數の三五・一%に當り、專賣令違反者の一萬一千百人(三一・一%)、森林關係令違反者の七千三百人(二〇・五%)か之に次で多い。刑法犯の防遏は之を警察官の活動に任ずとして行政法規の違反に對しては少少し之を事前に防止する事は出来ないものだらうか。例へば各法規の罰則なりと世人に周知せしむる方法等に依つて。

× × ×

昭和九年に於ける朝鮮の煙草賣渡高は口付及紙卷を合せて四十六億一千萬本、刻が四百四十七萬五千貫。で一吋見當のつかない天文學的數字である又此の價額は三千九百三萬圓で老若男女を問はず頭割にすると、一人一年間に一圓八十五錢を屬にした事になる。

統計常識

◇耕地

内地 (昭和八年末)

自作地 小作地

總數 (陌) 二,一八九,五五四

田 (〃) 一,四九六,三九五

畑 (〃) 一,六三三,九八七

總數 (陌) 二,一八九,五五四

田 (〃) 一,四九六,三九五

畑 (〃) 一,六三三,九八七

總數 (陌) 二,一八九,五五四

田 (〃) 一,四九六,三九五

畑 (〃) 一,六三三,九八七

總數 (陌) 二,一八九,五五四

田 (〃) 一,四九六,三九五

畑 (〃) 一,六三三,九八七

總數 (陌) 二,一八九,五五四

田 (〃) 一,四九六,三九五

畑 (〃) 一,六三三,九八七

總數 (陌) 二,一八九,五五四

田 (〃) 一,四九六,三九五

畑 (〃) 一,六三三,九八七

總數 (陌) 二,一八九,五五四

田 (〃) 一,四九六,三九五

畑 (〃) 一,六三三,九八七

總數 (陌) 二,一八九,五五四

田 (〃) 一,四九六,三九五

畑 (〃) 一,六三三,九八七

總數 (陌) 二,一八九,五五四

田 (〃) 一,四九六,三九五

◇農業戶數

内地 (昭和八年末)

自作地 小作地

總數 (戸) 一,〇九三,五五五

田 (〃) 三三三,三六八

畑 (〃) 一,五四五,一八七

總數 (戸) 一,〇九三,五五五

田 (〃) 三三三,三六八

畑 (〃) 一,五四五,一八七

總數 (戸) 一,〇九三,五五五

田 (〃) 三三三,三六八

畑 (〃) 一,五四五,一八七

總數 (戸) 一,〇九三,五五五

田 (〃) 三三三,三六八

畑 (〃) 一,五四五,一八七

總數 (戸) 一,〇九三,五五五

田 (〃) 三三三,三六八

畑 (〃) 一,五四五,一八七

總數 (戸) 一,〇九三,五五五

田 (〃) 三三三,三六八

畑 (〃) 一,五四五,一八七

總數 (戸) 一,〇九三,五五五

田 (〃) 三三三,三六八

畑 (〃) 一,五四五,一八七

總數 (戸) 一,〇九三,五五五

田 (〃) 三三三,三六八

畑 (〃) 一,五四五,一八七

總數 (戸) 一,〇九三,五五五

田 (〃) 三三三,三六八

自作兼小作	二,七五七,八三五	四三・七
小作	一,四九九,八五五	三六・七
自作	一,二七五,八四七	三一・一
總數	五,六三三,五五五	一〇〇・〇

外ニ火田面積 四九一,三陌アリ

米	石	九,五〇〇,八八八	三三,三九〇,七〇〇	一五,三二九,〇〇〇	一五,〇六一,七〇〇	六九,五七七
及						
肥料	石	六,三六五,五五三	二五,一八九,〇〇〇	四,四六〇,六二二	一八,七五〇,〇〇〇	六,四四九
大豆	石	一,四四七,六五六	一八,一四三,〇〇〇	一,四三七,六五一	一九,三六二,〇〇〇	九,九九五
鐵	斤	三,七〇〇,九八七	三三,〇九三,八五五	三,〇九三,八五五	三,〇九三,八五五	六,五七七
生糸	斤	二,二〇〇,六八五	一一,四七三,〇〇〇	一一,四七三,〇〇〇	一一,四七三,〇〇〇	二,五三三
銅	斤	二,六四六,〇八九	一一,〇三三,〇〇〇	一一,〇三三,〇〇〇	一一,〇三三,〇〇〇	五,五三〇
線	斤	一四七,七四七	一四七,七四七	一四七,七四七	一四七,七四七	一,六四九
石炭	噸	三,四三三,五五五	一五,三七七,〇〇〇	三,三七七,〇〇〇	三,三七七,〇〇〇	三,九五五
生炭	噸	六,六六六,六六六	二,五三三,八三三	六,六六六,六六六	九,四二二,〇〇〇	一,七四三
生糸	斤	二,二七五,四三三	一一,〇〇〇,〇〇〇	二,二七五,四三三	二,二七五,四三三	二,七三三
肥料	石	八,八八八,三三三	五,〇〇〇,〇〇〇	八,八八八,三三三	一,〇一八,四三三	二,四四八
大豆	石	七,七四九,一七七	三,〇〇〇,〇〇〇	七,七四九,一七七	三,〇〇〇,〇〇〇	七,三三三
葉草	斤	二,五八八,五五五	三,一四七,九三三	二,五八八,五五五	二,五八八,五五五	二,七五九
統船車	斤	二,五八八,五五五	三,一四七,九三三	二,五八八,五五五	三,一四七,九三三	一,九三三
砲	斤	二,五八八,五五五	三,一四七,九三三	二,五八八,五五五	三,一四七,九三三	二,九〇〇
鐵	斤	二,五八八,五五五	三,一四七,九三三	二,五八八,五五五	三,一四七,九三三	二,九〇〇
原油	ガロン	六,三三三,三三三	二,五八八,五五五	六,三三三,三三三	二,五八八,五五五	四一七
揮發油	ガロン	六,三三三,三三三	二,五八八,五五五	六,三三三,三三三	二,五八八,五五五	四一七
漆	斤	六,三三三,三三三	二,五八八,五五五	六,三三三,三三三	二,五八八,五五五	四一七
木材	方碼	四,四三三,三三三	二,五八八,五五五	四,四三三,三三三	二,五八八,五五五	四一七
麻	斤	四,四三三,三三三	二,五八八,五五五	四,四三三,三三三	二,五八八,五五五	四一七
鐵	斤	四,四三三,三三三	二,五八八,五五五	四,四三三,三三三	二,五八八,五五五	四一七
燈	斤	四,四三三,三三三	二,五八八,五五五	四,四三三,三三三	二,五八八,五五五	四一七
砂	斤	四,四三三,三三三	二,五八八,五五五	四,四三三,三三三	二,五八八,五五五	四一七
小豆	斤	四,四三三,三三三	二,五八八,五五五	四,四三三,三三三	二,五八八,五五五	四一七

輸

入

石炭系	鮮魚	乾魚	洋紙	綿織物	統織物	絞織物	絹織物	肥衣(上下共)	肌衣(上下共)	毛織物	綠織物	綿織物	木織物	洋紙	洋紙	石炭	セメント	小麥	揮發油	生油	護底靴	(地下足袋共)	
斤	斤	斤	斤	方碼	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤									
二、〇五七、八七〇	六、〇〇三	六、〇〇三	二、〇五七、八七〇	二〇七、九六五、一一一																			

總數	工場數	生產額(千圓)	收獲高	價額
米	內地 (昭和九年)	九三、五一四、八五七	?	?
麥	朝鮮 (昭和九年)	四〇、四二一、一五四	?	?
粟	內地 (昭和八年)	三〇、〇五三、九六五	?	?
大豆	朝鮮 (昭和九年)	六、八七二、一八五	?	?
棉花	內地 (昭和八年)	一、五五〇、〇五五	?	?
家畜	馬	一、五〇一、一七七	?	?
	牛	三〇、五二六	?	?
	豬	一、四四八	?	?
	羊	一、〇〇三	?	?
	總數	七、九四〇	?	?

昭和九年の
鑛産額

鑛産總額七千萬圓

前年より四割三分増

昭和九年の半島鑛業界は近年稀に見る活況を見せ、其の鑛産額は六千九百七十萬三千圓に上つた。之を前年に比べると四割三分二厘、價額にして實に二千八百七萬一千圓の激増振りであつた。價額を鑛種別に觀ると金（金銀鑛、砂金を含む）は四千百五萬圓で最も多額を占めて總額の五九・三%、之に次いで鐵（鐵鑛、銑鐵、銅鐵を含む）の千二百七十八萬一千圓（一八・五%）、石炭の九百九十四萬一千圓（一四・四%）は多い方である。遙に降つて銀は百四十六萬八千圓（二・一%）、銅（銅鑛を含む）は九十三萬三千圓（一・三%）、タングステンは七十三萬四千圓（一・一%）、黒鉛は五十二萬五千圓（〇・八%）、鉛は三十萬六千圓、水鉛鑛は二十六萬三千圓、明礬石は二十六萬圓、硫化鐵鑛は二十四萬三千圓で主なるものである。之を前年と比較するとタングステンは五十二割六分二厘、硫化鐵鑛は二十二割一分六厘、鉛（鉛鑛を含む）は十五割一分二厘、銀は十割三分四厘、銅（銅鑛を含む）は十割三分一厘、鐵（鐵鑛、銑鐵鋼鐵を含む）は八割五分四厘、石炭は三割七分九厘、金（金銀鑛砂金を含む）は三割一分一厘に増加し、其の増加率は...

多くの如く鑛産額の激増した理由は勿論鑛物市價の昂騰にも因るが、近年重工業及化學工業の股盛に伴ひ鑛産物の増産を促した事も重大な理由となつてゐる。

業種	数量	價額
紡績工業	二六六	三、八九九
鐵工業	二五九	二、九三三
機械器具工業	二七三	四、八一六
窯業	三〇五	八、七七四
化學工業	八三〇	五、九九三
木工業	三〇一	一〇、〇一五
印刷製本工業	三五六	九、五六六
食料品工業	三、八八三	二、五、三〇七
五圻電氣業	三一	二〇、六八
總數	四、八三八	三、八四、八三三
朝鮮（昭和八年）		三、八、九〇九
瓦斯電氣業	五五六	一、四、五七八
其ノ他	六、五五四	二、七、七七〇
印刷製本工業	三、〇四九	一、八一、五八九
木工業	五、九七五	一、八九、五三二
化學工業	四、〇二二	一、二八八、〇八四
窯業	三、三三三	三、〇、七四三
機械器具工業	七、八五〇	八、八八、一九五
金鑛工業	四、四四	八、九、九九
幼細工業		六、〇、九九

（本表ノ工場トハ五人以上ノ職工ヲ使用シ又ハ五人以上ヲ使用スル設備ヲ有ス）

る。即ち之を數量から見ても金（硬貨を含む）は昭和九年に比し八分の増、金銀鑛は二萬七千九百六十八匁で二割八分九厘を、銀は三萬一千二百八十七匁で四割三分を、銅は百四十三萬四千三百六十八匁で八割二分七厘を、鉛は百八十萬五千七百九匁で十三割四厘を、銑鐵は十七萬五千五百二匁で七分を、硫化鐵鑛は四萬二千八百七匁で十七割六分、タンダステンは三十六萬八千三百四〇匁で十四割二分、黒鉛は三萬一千二百九十四匁で三割七分九厘を、石炭は百六十八萬八千六百四十七匁で二割九分二厘を増加し、其の他にも増加したものが多し。尙昭和八年の末より繰業を開始した鐵鋼は昭和九年に五萬九千六百九十八匁を生産し、又新鑛物であるマグネサイドも三千六百六十八匁の産額があつた。

鑛 産 額 (金額單位圓)

總數	昭和九年		昭和八年		差引増(△減)	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
金銀鑛	一、六九、一七三、八四〇	二、五二、四八一	一、四八、三〇一、四六八	六、二八五	一、二〇、八七一、三七三	六〇五、〇三六
金	二七、九六八	二、五二、四八一	二一、六八三	一、九〇六、四四五	六、二八五	六〇五、〇三六
銀	一、〇七、〇五〇、五四二	三、四九、九一四	一、〇三〇、三〇八、四八三	三六、〇六六、七八四	五〇七、一三三	七、一四八、一三〇
砂	一、七、七〇六、一	五、三三三、三三四	一、三〇四、七五七	三、三三七、六六三	四二二、三〇四	一、九九五、六八三
銅	三二、二八七、一八一	一、四六八、〇七九	二一、八六四、五七三	七二、六五一	九、四三三、六〇八	七四六、四二八
鉛	一、四三三、三六八	一、四三三、三六八	五、九一四	四一、九七五	五、九一四	四一、九七五
銑鐵	一、四三三、三六八	一、四三三、三六八	七、八四四、八三五	四一、七、三六八	六四九、五四三	五二五、六六四
硫化鐵鑛	一、四三三、三六八	一、四三三、三六八	一、三	一、一七、一七△	一、三	一、一七
タンダステン	一、四三三、三六八	一、四三三、三六八	一、三	一、一七、一七△	一、三	一、一七

◇死亡原因

内地 (昭和九年)	死亡人員	千分比
總數	一、二三四、六四四	一、〇〇〇・〇
肺炎	一、二四、一七	一〇〇・五
結核	一、二一、五三五	一〇六・五
老衰	八七、三三五	七〇・七
腦出血腦栓	一、四、四七七	九三・七
塞及腦血栓	六八、六〇四	五五・六
先天性弱質	四七、九七二	三八・九
(一歳未満)	三九、九二四	三二・五
癌及惡性腫瘍	七四、八一三	六〇・六
腦膜炎	五三、〇四一	四三・〇
下痢及腸炎	二七、〇二四	二一・九
(二歳未満)	五九、五五三	四八・二
下痢及腸潰瘍	二七、〇二四	二一・九
(二歳以上)	二七、〇二四	二一・九
腎臓炎	二七、〇二四	二一・九
氣管支炎	二七、〇二四	二一・九
其ノ他	八二八、三三三	三三九・一

◇離婚者ノ夫婦關係繼續期間

内地 (昭和九年)	離婚者數	(千分比)
總數	四八、六一〇	一、〇〇〇・〇
三年未満	一九、一〇〇	三九三・四
五年以上	七、八七三	一六三・〇

鉛	錫	鐵	錳	鋼	硫化鐵	タンダス	水	亞	安	黑	石	雲	石	高	矽	蠟	螢	マ	サ	明	重
鉛	錫	鐵	錳	鋼	鐵	鐵	鐵	酸	質	鉛	炭	母	總	土	砂	石	石	石	石	石	石
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
一、八〇、七〇〇	一、七〇、〇〇〇																				
五、〇〇〇、〇〇〇																					
一、〇〇〇、〇〇〇																					
一、〇〇〇、〇〇〇																					
一、〇〇〇、〇〇〇																					

十年未滿	10,854	3,310
十五年未滿	5,557	11,011
十五年以上	5,443	11,219
鐵道		
內地 (昭和八年)		
開業線	15,757	7,185
乘客 (千人)	8,413	4,353
貨物 (千噸)	7,971	2,480
朝鮮 (昭和九年)		
開業線	3,077	1,578
乘客 (千人)	2,625	6,774
貨物 (千噸)	7,663	2,583
私鐵中ニ滿鐵管轄鐵道ノ分ヲ含ム		
船		
汽船		
內地 (昭和八年末)		
總數	7,966	4,671
千噸未滿	6,840	4,671
千噸以上	5,544	
三千噸以上	5,544	
六千噸以上	1,333	
一萬噸以上	1,333	

昭和九年末の農家戸數

農家戸數三百萬

總戸數の七割五分強に當る

昭和九年末に於ける朝鮮の農家戸數は三百一萬三千百戸で、此の中内地人は八千七百戸、朝鮮人は三百萬一千八百戸、滿洲國人及中華民國人は二千六百戸である。此の總戸數の中小作農は百五十六萬四千戸で最も多く總戸數の五一・九%に當り、自作兼小作農は七十二萬二千戸で二四・〇%、自作農は五十四萬三千戸で一八・〇%被備者(耕地を所有しないものが農家に雇傭せられ専ら農業に従事し且つ獨立の生計を營む者)は十萬三千戸(三・四%)、純火田民は八萬一千戸(二・七%)の割合になつてゐる。此の百分率を道別に掲げると京畿は自作七・八%、自作兼小作二一・三%、小作六八・八%、純火田民〇・二%、被備者一・九%で、之に類似してゐる道は忠北忠南全北の各道、全南は自作一九・四%、自作兼小作二四・三%、小作五〇・三%、被備者六・〇%で、慶北、慶南黄海の各道は之に類似し、平南は自作農二三・九%、自作兼小作三三・二%、小作四八・六%、純火田民三・九%、被備者〇・四%で、平北、江原が之に類似してゐる。以上の各道は何れも自作が少く小作の多い事を示し、特に中部の各道及南部の各道はそれが甚しいのであるが、次に述べる咸南北は之と全然相反する現象を示してゐる。即ち咸南は自作三三・六%、自作兼小作二七・三%小作二五・〇%、純火田民一一・五%、被備者二・三%で。咸北は

朝鮮 (昭和九年末)	總數	
	噸數	噸數
汽船	10,497	1,510,111
帆船	701	20,218
貿易	9,796	1,530,329
内地 (昭和九年)	(輸出(千圓) 輸入(千圓))	
總額	2,171,935	2,231,331
滿洲國	107,151	1,541,109
中國	1,770,331	1,191,552
關東州	295,868	27,333
英領印度	236,331	29,672
蘭領印度	158,451	3,464
英吉利	109,270	7,077
北米合衆國	598,928	769,359
濠洲	24,423	17,756
海峽殖民地	23,310	23,310
エジプト	73,928	46,259
獨逸	19,677	10,584
カナダ	8,666	10,994
比律賓群島	5,421	18,821
其ノ他	21,592	29,100

自作五四、三%自作兼小作二三、七%、小作一七、三%、純火田民三、六%、被備者一、一%である。

次に現住戸數に對する農家戸數の割合を見ると總戸數に於ては五割七分一厘を占し前年に比べて一分一厘を減少してゐる。又道別では江原の九割が最も多く之に亞では忠北・全南・忠南・全北は八割臺、慶北・黄海・平北・慶南・咸南は七割臺、平南は六割臺、咸北・京畿は五割臺である。

道	總數	自作農	自作兼小作農	小作農	純火田民	被備者
總數	三,〇二一,四〇二	一,五四一,六三九	七三二,六六六	一,五六四,一九四	八二一,八七七	一〇三,三三三
京畿道	二,三九九,六〇九	一,一八七,七三〇	三〇,九〇〇	一,四四七,九〇〇	四九八	四,六一一
忠清北道	一,四三三,二五九	一,一七九,七五〇	二九,四八九	一,四九,四四七	一,七三三	五,三五六
忠清南道	二,三三三,八二八	一,七〇八,八六六	四七,〇〇〇	一,四〇,五二七	一一二	七,八五五
全羅北道	二,三三三,八二八	一,〇一八,三三三	一〇,一七五	一,二六,一〇七	九六七	一,七三四
全羅南道	三,八二一,四二六	一,七九〇,九〇〇	一,二七九,九〇〇	一,二一,一七七	三三三	三,三九九
慶尙北道	三,五〇六,〇六六	一,七〇七,七〇〇	一,〇四七,〇〇〇	一,六二,五九〇	一,九〇〇	一一,一一一
慶尙南道	二,一九一,五〇五	一,〇〇七,七七七	八七,六〇〇	一,四一,〇〇〇	一	一,三〇七
黄海道	二,三九九,九七三	一,一五五,三三三	一,〇〇〇,〇〇〇	一,三六,八二五	四,四七六	一,三三八
平安南道	二,一七九,九二五	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,一七,二六六	六,九五三	七,五九九
平安北道	二,二五五,八六一	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,二二,二六六	六,〇〇〇	一,一五三
江原道	一,四三三,二五九	一,〇〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	一,〇七,〇七〇	二,三五六	六,九九九
咸鏡南道	一,九六〇,〇五九	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇七,〇七〇	三,三〇三	四,九九七
咸鏡北道	一,一八七,四〇四	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇七,〇七〇	二,二七二	四,九九七
前年ニ比シ(△減)	△	△	△	△	△	△

◇生命保険

簡易保険 内地 (昭和八年末) 八〇,〇〇〇
民營保險 加入者 二,三〇〇

人員(千人) 六五六
保險金(千圓) 三,〇〇三

◇電話 交換局所 加入者 七九,三三八
内地 (昭和八年末) 四,七三九
朝鮮 (昭和九年末) 一九九

郵便貯金 金額(千圓) 二,九一九,四四五
内地 (昭和八年末) 四,一六三
朝鮮 (昭和九年末) 三,一五三

◇教育 學校數 學生及生徒數 一四,一七〇

小學校 内地 (昭和七年末) 二,五七二

昭和九年末の
會社

本店數 二、〇三二

拂込済資本金四億三千萬圓

朝鮮に於ける會社は大別して朝鮮に本店を有する會社と内地又は外國に本店を有し朝鮮に支店を設くる會社に別つ事が出来る。

先づ朝鮮に本店を有する會社に就て觀ると、昭和九年末に於ては合資會社一、〇九七、株式會社一、〇二一、合名會社一八一、株式合資會社三、合計三、〇二二で、前年に比較すると二二を増加してゐる。之を會社の業態別に分つと商業は七七、四で首位を占め、總數の三三、六%に當つて居り、工業は五八七(二五、五%)、運輸業は二三三(一〇、二%)、銀行及金融業は一四九、土木請負業は一三五、農林業は一七、瓦斯及電氣等は五七、鑛業は三六、水産業は二六、其の他一八八の順位である。

會社の公稱資本金は七億一千三百八十一萬圓、拂込資本金は四億三千五百五十一萬圓で前年に比べると前者は三千八百二十七萬圓(五分六厘)後者は三千百三十四萬圓(七分九厘)を何れも増加してゐる。公稱資本金に對する拂込資本金の割合は六割五厘で業態別では工業の七割三分八厘が最も多く土木請負業、水産業は七割臺、農林業・鑛業・商業は六割臺、銀行及金融業・運輸業は五割臺、瓦斯及電氣業は四割臺である。

拂込資本金を業態別に觀ると工業の一億一千五百五十六萬圓が總額の二六、

朝鮮 (昭和九年末)

中等學校	二、六四八	一、〇七五、七六六
專門學校	二〇六	一、五、一〇四
大學校	四	四〇、一七一
實業補習學校	一、五〇二	一、七〇、〇八四
專門學校ニハ高等師範四及高等學校三二ヲ合ム		

内地 (昭和七年)

初等學校	二、七〇一	七、八、四、八〇
中等學校	一、四三	五、四、三、三〇
專門學校	二五	一、七、四三
大學校	一	九、九〇
實業補習學校	三三	四、六、六一
生徒平均體格		

身長(種) 體重(種) 胸圍(種)

小學校 (男)			
七歳	一〇八・五	一八・〇	五四・五
八歳	一一三・五	一九・八	五六・五
九歳	一二八・三	三二・九	五八・四
十歳	一三三・〇	三三・〇	六〇・五
十一歳	一三七・四	三六・一	六二・三
十二歳	一三三・八	三六・六	六四・一
小學校 (女)			
七歳	一〇七・五	一七・四	五二・七

八%を占め銀行及金融業は六千九百四十一萬圓、(一六、一%)運輸業は五千四百萬圓(一二、五%)瓦斯及電氣業は四千二百五十四萬圓(九、九%)で多い方である。此の外商業、農林業、鑛業は各三千萬圓臺、土木請負業は千五百萬圓臺、其の他二千七百萬圓で、前年に比較すると鑛業の千六百九十九萬圓(四割八分三厘)、工業の七百三十七萬圓(六分八厘)商業の五百十七萬圓(一割六分二厘)、瓦斯及電氣業の七百五十萬圓(三割一分三厘)の増加が特に目立つてゐる。之等は等しく軍需工業、化學工業等の勃興に基因して居る事は勿論疑ひない處であらう。

尙會社の純益金は二千六百九十萬圓に上り、前年に比べると八百五十萬圓(二割六分一厘)の激増を示した。業態別に觀て缺損であつたのは農林業・水産業土木請負業のみで、他は何れも純益を擧げてゐる。而して拂込資本金千圓に對する純益金は總平均六十二圓三十錢で、業態別に觀ると銀行及金融業は百八十圓十錢、鑛業は百一圓四十錢、瓦斯及電氣業は九十七圓、運輸業は九十四圓九十錢、商業は五十四圓七十錢、工業は四十三圓七十錢で多い方である。しかし資本金は拂込資本金のみでなく他に殖産債券借入金等もある事を考慮に入らるべきであらう。

次に内地又は外國に本店を有し朝鮮に支店を設くる會社數は一六九社、公稱資本金は二十四億八千六百三十萬圓、拂込資本金は十九億五千七百七十二萬圓に達してゐる。しかし乍ら之等は本店勘定であつて、鮮内支店に於て幾何の投資があつたかは不明であるが、兎も角も朝鮮の産業に經濟に大きな貢獻をしてゐる事實は明かである。

八歳	一三・七	一九・一	五〇・六
九歳	一七・五	二二・一	五八・四
十歳	二二・八	二五・三	五八・一
十一歳	二六・五	二五・六	六〇・二
十二歳	二五・九	二六・八	六三・八
中學校			
十三歳	一九・四	三三・一	六六・八
十四歳	一四・五	三七・八	七〇・五
十五歳	一五・一	四三・二	七四・〇
十六歳	一五・三	四七・九	七七・六
十七歳	一六・四	五一・四	八〇・一
女學校			
十三歳	一四〇・五	三三・七	六六・七
十四歳	一四三・一	三九・一	七〇・四
十五歳	一四八・一	四二・七	七三・一
十六歳	一四九・九	四三・四	七五・一
十七歳	一五〇・九	四七・〇	七六・二
◇青年團及青年訓練所			
内地 (昭和八年末)			
團體數			
及所數			
團員及生徒數(千人)			
青年團	男	一五、四〇〇	二、四八八
	女	一三、四六八	一、四一四
青年訓練所		一、五七一	〇・二

業種	組數	公稱		積立金	純益	公同資本金	拂込資本金	拂込資本金	純益
		資本金	拂込						
總數	二,五〇三	七三三,八二四	四三三,〇五七	五二,六九七	三六,〇九三	〇・六〇五	一一九・八	六・三	
合名會社	一八一	三,一〇六	二,〇二六	五七・〇	二	〇・九五七	二五・三	五・九	
合資會社	一,〇七七	三,七三三	三,九三三	一,一一一	五九	〇・九六五	五五・三	一〇・七	
株式會社	一,三〇,一一〇	六五八,九一七	四〇〇,〇〇〇	三七,〇七三	二,〇五五	〇・五七三	一三三・一	七・一	
株式會社	三	一,〇〇一	七五五	—	—	〇・七五三	—	—	
農林業	二,五〇三	七三三,八二四	四三三,〇五七	五二,六九七	三六,〇九三	〇・六〇五	一一九・八	六・三	
商業	一,二七	四八,四〇三	三,六七八	一,六四七	二七三	〇・六七三	五〇・四	八・四	
工業	七七四	五九,九四六	五九,九六三	二,九九八	三,一〇〇	〇・六二七	八一・一	四・七	
礦業	五八七	一五六,五五〇	一一五,五五七	八,三六四	五,〇四四	〇・七三六	七二・五	四・七	
水產業	五	五三,五六五	三三,八八三	一,一〇六	三,六三四	〇・六六九	五〇・九	一〇・四	
銀行業	二	五,六七三	〇〇〇,〇〇〇	—	—	—	四六・五	—	
運輸業	一〇	一三,一三三	六,六四七	—	—	—	三三・〇	—	
新氣業	二	一〇,六九四	五,九一九	—	—	—	九六・九	—	
電氣業	七	七,五八〇	—	—	—	—	一三一・〇	—	

◇國及地方自治團體決算

項目	金額	道府縣
總額(千圓)	三,三五四,四二四	五九八,八八八
諸稅(〃)	八八,七四二	三三,九九九
起債(〃)	七二,六一一	七,二二〇
其他(〃)	六五,〇三二	一八,七〇九
內地(昭和九年度)	—	—
市	—	—
町	—	—
村	—	—
總額(千圓)	八四〇,五七三	四〇〇,五七六
諸稅(〃)	一四四,五一一	三〇,〇九七
起債(〃)	三六五,六五九	三三,〇二二
其他(〃)	三四〇,三〇三	三六,四五七
一般會計	—	—
道	—	—
總額(千圓)	三,〇〇,三九七	五九,三九四
諸稅(〃)	五三,五六六	一九,八四七
起債(〃)	三四,〇〇〇	一四,七三三
其他(〃)	二二,九三一	二四,八二四
朝鮮(昭和十年度)	—	—
府	—	—
面	—	—
總額(千圓)	二,四四,一三三	一〇,七七一
諸稅(〃)	三〇,一八四	〇,〇〇〇
起債(〃)	五,九〇〇	—
其他(〃)	一,六八六	—

土木諸負業	一五五	三、〇七〇	一五五、三三三	二〇、四〇〇	一三、二〇〇	四三、六〇〇
其ノ他	一八八	五、〇〇〇	二六、五五五	一、四八八	〇、五〇〇	三六、一〇〇
増年ニ比シ (△減)	三三	三、三六六	三二、三三六	五、九六四	八、〇〇〇	三、三三六

二、内地及外國ニ本店ヲ有シ朝鮮ニ支店ヲ設クル會社(金額單位千圓)

業種	總數		株式會社		合名會社		合資會社	
	社數	資本金	社數	資本金	社數	資本金	社數	資本金
總數	一六九	三、四八〇、〇〇〇	一四四	三、〇〇〇、〇〇〇	一	七〇〇	一三	一、五〇〇、〇〇〇
農林業	三三	一、〇〇〇、〇〇〇	三〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一	〇	二	〇
商業	一三六	二、四八〇、〇〇〇	一一四	二、四〇〇、〇〇〇	〇	七〇〇	一一	一、五〇〇、〇〇〇
礦業	一	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
水産業	一	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
銀行業	一	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
金融業	一	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
運輸業	一	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
瓦斯業	一	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
電氣業	一	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
土木諸負業	一	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
其他	一	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇

六四一

學校組合 學校費

朝鮮 (昭和十年度)

總額(千圓) 三、八二五

諸稅(〃) 九二

起債(〃) 二五

其他(〃) 二、六六七

電燈及瓦斯普及

需用戶數(千戶) 取付箇數(千箇)

内地 (昭和八年末)

電燈 二、八八五

瓦斯 四、四四

朝鮮 (昭和九年末)

電燈 一、二二

瓦斯 一、一

水道

水道數 給水栓水(千箇)

内地 (昭和八年末)

水道數 三、五三

朝鮮 (昭和九年末) 四、七

會社

社數 拂込(千圓) 資本金(千圓)

内地 (昭和八年末) 七、二九六

朝鮮 (昭和九年末) 二、〇三二

總額 七、二九六

雑筆

いい酒が飲みたい

文書 江上 正士

「真理は三本足で徘徊する」とニイツ
エが言つた。あらゆる宣傳が行はれ、
逆説が行はれる世の中では、真理は三
本足でも五本足でも歩き廻るのであ
る。此の煩雜晦冥な世相の中で比較的
直正にして信頼が置けるのは「数字」で
ある。一つの議論を聞き、言説を讀む
場合、その構成に正確な数字が伴ふと
きに吾等は權威を感じる。政治や行政
が、正確な統計数字に立脚して萬全を
期せられることは謂ふまでも無から
う。文明の高度な國家になるほど之が

異常と正確とが期せられるのである。
こゝに統計協會が出来て統計思想の普
及が企てられる趣旨に共鳴し、私は眞
つ先に加した次第だ。

×

或る主人節のお祝ひに、その貧乏な
弟子達十人ばかりが話し合つて、酒を
一升宛持ち寄つて樽に詰め、贈物する
ことゝなつた。甲は少し狡獪く考へて
酒の代りに水を持つて行き思へらく
「樽が一人水を詰めても酒が少々薄く
なる位でバレン心配は無からう」。所が
甲一人ならよかつたが誰も彼も、十人
持ち寄甲と同じ考へで胡麻化しをやつ
たから、酒樽の中は全部水となり、隨
つてお祝ひの宴會は白け返り、皆の顔
色だけが眞つ赤になつた——といふの
は落語にでもある様な話だが、教訓的
な寓意をもつ。

大勢の中で自分一人だけが狡獪いこ

雑筆を募る

感想・希望のたくひ、體驗談・實話のた
ぐひ、隨筆・漫文のたくひ、詩歌句・趣
味のたくひ、さては吾國自慢・自己紹介
のたくひ、凡そ自由なれど、短きを以て
よろしとす。

とを少々やつても大局には影響は無か
らうと考へる無誠意な人が幾人もある
場合に、その共同の仕事の結果は悉く
駄目となる。統計の仕事のごとく立派
にやつても目立ちもせず、狡獪くやつ
ても直ちにバレン心配もない事柄に關
しては、この種の狡獪い方の考に支配
され勝になることを免れまい。

統計は廣汎な範圍に互る人々の誠意
ある努力の集積によつて、始めて正確

なものが出来る。正確ならざる統計は水を割つた酒の如く、我が朝鮮の各種統計は果して舌鼓の打てる芳醇とし

自勝が出来るか、何うか。邑面には非常に澤山な事務があり、些末なことは一々顧みて居れぬさうである。然らば統計事務の如きもその「此末」な部類に入れられ、顧みられない様なことは無いだらうか。

人口統計の如きは大掛りでやる國勢調査に基幹となるから比較的立派なものだが、生産統計だの、資産状態の統計だのは、どうだ、と譯知りの人は説明する。「作物は見渡した所昨年よりいゝ様だから、これ位に殖やして置け」と、その實、田が番になつたり、作物の種類が變つたりして居る事實に頓著なく、面事務所の机の上で立てられた悪意なき「見込み」が堂々たる統計の基礎となつて郡廳に集る様なことはない

か。自力更生三目標の成績なども一昨年よりは昨年、昨年よりは今年と、少

無いのだ。唯だヨリ忙がしい仕事に誰にもあるから「統計の様な小面倒な仕事は、これ位にやつて置け」となり易い傾きに陥るものと想像する。

だが、こんな協會ができて、統計事務の第一線にある邑面吏員諸氏が自分達の苦心して調べた數字が集まつて一部、一道、全鮮の權威ある統計に纏まり、それが總督政治の方針を支配し決定する重要な働きをするものであることを呑み込まれるにつれて、此の事務は次第に重んぜられて来る様になるだらう。私共は偽りのない正直な數字に心から頭を下げたい。水の混らない生一本のいゝ酒のみたい。

鼠のこと

多量に...

一 鼠算

今年はその歳に當るんで、鼠に驚嘆して一、二隣れて見よう。物の數が急激に増加する場合の算法に鼠算といふのがある。

正月にねずみちうはいいでて、子を十二ひきうむ。おや共に十四ひきになる。此ねずみ二月には、子も又子を十二匹づうむゆへに、おや共に九十八ひきになる。かくのごとくに月に一度づう、おやも子も又まごひとも、月々に十二匹づうむ時に、十二月にはなにほどになるぞといふ。年中之分、合二百七十六億八千二百五十七萬四千四百二匹也(新編

塵劫記)

即ち鼠が上記の状態で繁殖するとき、 1×10^5 の式が成り立ち、二匹の鼠が一年間には忽ち 27,682,571,402 匹といふ莫大な數に達するのである。これが鼠算である。尤もこれは今いつたやうな状態で繁殖することを假定して算へるのであるが、實際に於いては、鼠は生後三箇月位から繁殖を始め、その産仔回數と仔の頭數は種類・年齢・食物・溫度・氣候等によつて異なるが、普通には年ほぼ六回で、各回數頭の仔を産む。そしてその繁殖に就いては幾多の學者によつて研究されてゐるが、何れにしてもその率は極めて高い。

二 鼠は神の使ひ

鼠は神の使ひであるといふ傳へが廣まつてゐる。大黒様を福神として祭つてゐるが、この大黒様の使ひとして鼠があるといふのである。我が國に於け

る大黒様の信仰が廣まつたのは平安時代の末期頃からのことであらうとされてゐる。この大黒様は、古くから印度にあつた神で、それが後ち佛教に混じて我が國に傳へられたのである。元來印度の大黒様は、忿怒の形相をした戰鬪神であるが、我が國に入つて後の大黒様は、左の肩に袋を負ひ、右手に槌を握り、二俵を踏んで居られる。これは印度の大黒様を我が國の大國主神に附會して福神とし、和意を加へて槌と俵とを加へ、頭巾をつけたものであらう。そしてこの神に鼠がお附きしてゐるのも、矢張り大國主神が鼠の守護を受けられたといふ古事記の説が傳はつてゐるためで、鼠に關係があるところから、甲子の日が大黒様の縁日とされてゐるといふことである。

山岳遭難の數字

文書課 やまみ生

最近、殊に此四、五年の間に夏の山冬の山に登る人が多く成つて來た。従つてそれに伴ふ山の犠牲、山の悲劇も年々その數を増加して行く様である。不正確乍ら過去十二年間の山岳遭難の數を掲げ二、三の角度よりこれを觀察して見る事にする。

先づ年別に見れば次の通りである。

年次	遭難件數	遭難者數
大正十二年	二	二
同 十三年	一	一
同 十四年	二	二
同 十五年	八	一二
昭和 二年	六	一〇
同 三年	九	一〇
同 四年	八	九
同 五年	一九	三〇

<p>以上は正確な數字とは云へないが、増加の路を辿つてゐる事は明かである。本表中昭和五年の多いのはその年の悪天候に依るものである。又昭和十年は十月以降の未發表の數字などを含んでゐないから實際はもっと多いと思はれる。こゝに表示は省略するが、この數を月別に分ければ最も多いのは七、八月で十二、一月が之に次いでゐる。即ち七、八月にして十二、一月の數の減じて居る事は、我國に於ては積雪期には雪や氷に對する技術を要する事と、雪崩の脅威とに依る爲であらう。又八月に比し七月が多く、殊に七月中旬から下旬にかけて多いが、これは暑中休暇</p>	<p>に入つた爲と、此頃が概して山の天候が不良な爲とに依るものである。次に身分、職業別に分けて見ると</p> <p>身分、職業別 遭難者數</p> <p>大學、專門學校學生 六六</p> <p>實業山岳會員 二八</p> <p>中等學校生徒 一二</p> <p>女子 四</p> <p>案内人 一二</p> <p>その他 七二</p> <p>本表中の「その他」は官吏、銀行會社員、中等教員、身分職業不明者等である。又大學專門學校の學生が特に多いのは比較的時日に束縛されぬ關係から、これ等の山岳部が我登山界の前途を行く事を示して居るものであらうが、將來ある學生がその若き生命を山の犠牲としてゐる事は一考に價するものであらう。</p> <p>これ等の遭難を原因上より見るに、</p>	<p>原因不明のもの、遭難報告の未發表のものもあるが、最も多いのは濃霧、降雨、吹雪等の荒天に逢ひ、地理不案内のため道を失ひ、山上を彷徨ひ、迫り來る夜の寒氣のため遂に疲労し睡るが如く死の路を辿る者で、これに次いで岩場、氷上にて墜落慘死又は負傷して遂に逝くもの、(山に於ける負傷は輕微と思はれるものでも疲労と寒氣のために致命的なものに成る場合が多い)、次は冬の山に起る暴悍なる雪崩に逢ふものである。その他橋を渡る際墜落溺死するもの、ガス窒息したもの等がある。</p> <p>以上は内地に於ける山岳遭難の數字に就いて極く簡単に述べた。これに依りて我登山界の動きを論ずる事などは到底出來得ぬものであらうが、何かの參考になれば仕合である。</p> <p>(一一・二・一六)</p>
---	---	---

話の籠

大義生

統計とは凡そ縁の遠いものをとの調査を示して引張り出したのが話の厨籠、飄飄より駒が出たのは昔、近頃では紙厨籠から百圓紙幣が出たり、ドブ浚へ人夫がダイヤの指環を拾つたと云ふ話も珍らしくない。そこで此厨籠の中からも成るべく珍談の種を探し出したものである。

●「何のその岩をも徹す桑の弓」、北漢山中の岩盤地帯に刻苦精勵、十年かゝつて遂に四反歩の辛番を開拓したのは金鐘鉦と云ふ辛抱強い人、又十六歳の時から思ひ立つて實に四十年間、毎多峠の除雪作業に奉仕してゐる篤志家は京畿道高陽郡神道面支川里の閔聖鏞さんでいづれも勤勞美談中の人である。之は又どうかと思ふ變り型、近頃京城で名高い奇人「赤ネクター」氏のゴ託宣に依ると、京城で今日の名聲を博する迄には四ヶ年かゝつたと云ふ。その間雨の降る日も風の夜も、彼氏獨特の姿態で時刻をきめて本ブラ、百貨店廻り、ラッソニアワの光化門通りと人混みの中を

闊歩する精勵振り、城大あたりでも近代都市の生める變質者として折紙をつけてゐると云ふから相當なもの。

●先日の京電のガススタンの火事で燃えたガスの原價六百圓、之が市中へ配給されると一萬二千圓となる。藥九層倍どころの話でないと云ふが、之も一流の料理屋で美妓を侍らして湯豆腐をついておいて、豆腐の値段から割出して勘定が高いと云ふのと同様野暮の骨頂、それよりも本町終點のうどんの屋臺店が毎晩十圓から十五圓の賣上で、五、六圓の利益と聞いては一寸商賣換へを考へる人もあらうと云ふもの。

●客體押迫つて京城三越の一情景、多くの婦人連が狐の襟巻の前でしきりに品さだめ、いづれも二十五圓から三十圓位の頃合をねらつてゐるらしいが仲々買ひそうもない。そこへ現はれた支那人らしい洋装の夫妻、銀狐の飛び切り上等三百五十圓と云ふ奴を手の切れそうな百圓札で拂つてサツサとエレベーターに乗つて了つた。此の冬の女と云ふ女は老若美醜を問はず狐一匹背負はねば本町歩くに肩身が狭いと云つた大流行しかし若い婦人が軍そうに……實際は輕いのですぞ……深々と毛皮に埋もれてゐる姿はあまり嬉しいものでない。

そこへいくと流石に粹を貫つとぶ花柳界では此の流行に超然として相變らずグツと抜いた襟足の美しさを見せてゐる。

●元は京城中で屈指の建築物であつた京畿道廳も、此の頃では主なる官廳銀行會社中で一番見すばらしくなり、氣の利いた應接室一つないのは兎も角、職員は赤サビのダルマストロブを頼りに震へてゐるとか、何でも毎日食堂とWCとは程近い總督府で用を達してゐる要領のいゝ人もあると云ふ噂さ、そこへ行くと鮮銀は古い事にかけては道廳と同じながら、あのドツシリとした礙い構へは附近に郵便局、三越があり、殊に最近貯銀の近代式大建築が加はつても却て益々壯重味を見せてゐるのは流石にお札の出来るところだけはある。

●全鮮の國勢調査申告書はザット五百萬枚、之が折目一つ附かずに集つたとはえらいもの此の調査員用具を考案して奉仕的値段で配給したのは行政學會朝鮮本部だが、その代金回収は今日尙未完結とはお氣の毒に堪えぬ。但し京畿道、咸鏡北道等は既に完結済、由來朝鮮の官公署幹旋の共同購入代金の回収は困難だとは京城商人の嘆聲で、爲に自然高値に取引されるとは遺憾千萬である。

雜錄

統計日誌

昭和十年年中

◇昭和五年國勢調査結果報告書の刊行

昭和五年朝鮮國勢調査結果報告書の内各道編並に全鮮編第一卷結果表は既に刊行を見たが、最後の第二卷記述報文は三月三十一日刊行公布せられた。

◇地方統計課長會議

内閣統計局に於ける同會議は四月二十四、五の兩日、昭和十年國勢調査施行ニ關スル件を會議事項として開かれ、總督府よりは眞鍋統計官、文書課村辻、國勢調査課岡野の三名出席した。

◇外地總動員計畫會議

同會議は五月二十二日より三日間内閣資源局に於て開催せられ、總督府よりは燃料研究所素木技師、土木課林土木事務官、文書課加藤の三名出席した。

◇國勢調査事務打合せ

五月二十七日より三日間各道統計主任を國勢調査課に召集し、昭和十年國勢調査事務打

合會を開催した。總督の訓示、課長の挨拶後、指示事項、法令の説明、注意事項、協議事項等豫定通り議了、二十九日閉會した。

◇「朝鮮の人口統計」の刊行

始めての試みとして文書課調査に係る昭和八年の人口關係諸統計（現住戸口、婚姻、離婚、出生、死産、死亡）を四六倍版七十頁の一冊子に纏め、三百部印刷して六月中旬各方面に配付した。今後も事情の許す限り隨時改版して行く方針である。

◇道府郡國勢調査事務打合せ

各道に於いては六月中旬内府郡島主務者を召集して國勢調査に關する事務打合會を開催したが、本府國勢調査課よりも夫々係官を臨席せしめ指導の任に當らしめた。又七月より九月中旬に至る間に於いて開催の府郡に於ける府邑面従事員の打合會に對しても、事情の許す限り本府より係官を派遣して指導の任に當り、或は講演會を催して調査員其の他一般民衆に本調査の趣旨様式方法を説明し、調

會報

朝鮮統計協會役職員

本會の會長には會則第七條に依り垣田總督官房文書課長を推戴、主事以下は會則第八條及第九條に依り會長より夫々委嘱された。

會長 垣田正洪

主事 (十月十五日附) 眞鍋半八

幹事 (十月十五日附) 野口庄作

村辻元

岡章政

和田喜三

鈴木虎次郎

加藤一

日笠研太

水城寅雄

佐藤隆一

林直續

原正

査の正確徹底を期することに努めた。

◇内閣統計講習會

第十七回内閣統計講習會は七月二十二日より八月十日迄東京帝國大學に於て開催せられたが、朝鮮よりの出席者は左の九名である。

- 總督府 殖産局 小林 正義
- 同 農林局 植木 生榮
- 選 信 局 金 漢 珪
- 同 山本 保夫
- 專 賣 局 杉本新太郎
- 全道專賣支局 藤三 三太郎
- 大邱專賣支局 瀧田 樹雄
- 京畿道知事官房 崔 慶 國
- 戊寅稅務監督局 朴 用 壽

◇第三回朝鮮資源調査委員會

同會議は九月十一日より三日間總督府に於て開催せられたが、内地よりは川久保資源局長官を始め陸海軍、拓務各省の關係官出席、會議終了後夫々現地視察に向つた。

◇國勢調査の實施

調査期日たる十月一日前後は、朝鮮神宮御鎮座十年祭、總督府始政二十五周年記念祝典及び各地祝賀會、南鮮地方に於ける師團對抗演習等の催しがあつて、全鮮的に相當の人口異動あり、調査上困難を豫想せられたが、本

府並に地方廳は緊密なる連繫を保つて之が萬全の對策を講じ、他面調査員は獻身的努力を拂つて調査執行に當り、加ふるに當日は幸にも鮮内各地共晴朗なる天候に恵まれた結果、何等の蹉跌もなく豫期以上の好成績を以て、十月一日の臺北を最初とし十月七日の全南を最後として、各道より申告書蒐集完了の報告を受けし得たことは邦家の爲慶祝に堪へなかつた。

◇統計繪圖の製

二十五年紀念として統計繪案書一組三枚(人口、産業、貿易)一萬組を調製し、記念式參列者及び各方面に配付した。

◇東京事務廳及臺灣博に統計圖出品

十月一日開廳した新裝の總督府東京事務所に於て朝鮮事情紹介の爲各種參考資料を展示することとなつたので、文書課よりも統計圖三點(人口、交通、貿易)を出品した。

又十月十日より十一月二十日迄開催せられた臺灣博覽會に總督府は朝鮮館を設けたので文書課よりは之に統計圖三點(人口、産業、貿易)を出品した。

◇統計職員養成所入所者

内閣統計局に於ける統計職員養成所は十月七日より十二月十四日迄開所せられたが、朝

囑 託 (十一月三十日附)

大宅 義一

書 記 (十月十五日附)

松江 正 信

村山 義 人

徳田 吉 藏

地方委員 (十月二十一日附)

各道府 郡島統計主任

尚道府郡島統計主任交代の場合には後任統計主任に於て當然前任統計主任に代り本會地方委員として就職せらるゝこととなつた(一月一日現在の地方委員氏名は別掲名簿參照)。

朝鮮統計協會 設立趣意書

統計は各般施設計畫の基礎たり指針たるべき重大なる意義を有し、凡そ國家社會の健全なる發達ある所、統計の隠然たる功績を忘れはならない。

始政以來、産業に文化に顯著なる伸展を爲し來つた朝鮮は、今秋始政二十五周年の歡びを迎ふると共に、更に一新紀元を劃し、政策

鮮よりは左の三名が入所した。

京城通信分掌局 武田 文男

成鏡北道知事官房 福原 九代

會寧 稅務署 全 鳳 標

◇地方統計主任官會議

同會議は農林、商工兩省、内閣統計局及び資源局に於て夫々左の日程と會議事項に依り開催せられたが、總督府よりは文書課和田島が農林商工兩省及び統計局の三會議に、國勢調査課岡野が統計局の會議に出席傍聴した。

一 農林省(十月二十一、二日)

地方農林統計事務整備刷新ニ關スル件
米生産統計ノ實績並ニ將來ニ於ケル改善事項ニ關スル件

二 商工省(二十三日、二十四日午前)

産業統計事務打合せニ關スル件

三 統計局(二十四日午後)

昭和十年國勢調査並ニ國富及國民所得調査事務打合せニ關スル件

四 資源局(二十五日午前)

事務打合せニ關スル件

◇國勢調査書類の提出

道府郡島及び特別地域に於ける要計表と申告書は大體十一月十五日迄に本府に提出あり而して邑面要計表や照査表や一般の申告書は十二月十日迄に全部本府に到達を見た。

◇昭和十年國勢調査世帯及人口概數の公表

十月一日施行朝鮮國勢調査の結果に依る府郡島別世帯及人口概數は、各道提出の府郡島要計表と、李王職、陸海軍部隊、刑務所等より同付の特別地域要計表に依り、速かに集計算出の上十一月二十日公表されるに至つた。

◇昭和十年國勢調査速報の刊行

曩に公表せられた朝鮮昭和十年國勢調査に依る世帯及人口の概數を更に府邑面別に編成の上之に圖表、經過概要及結果の概要を附し十二月二十五日速報として刊行の運びに至つた。

祝創刊

合資 日 韓 書 房

京城本町二丁目

施設の企畫せられ、更張を要するもの愈々多きを加へるであらう。將又焦眉の急務として資源の統制運用に關する計畫の設定あり、自力更生運動の根幹を爲す農家更生計畫の擴充あり、之等は其の基礎資料を最新精確なる統計に求むること切實であつて、統計の整備こそ刻下最大の關心事であらう。

而もかかる情勢に當面し、朝鮮の統計が舊態依然として、不備不整の點あるを否み得ないのは未だ一般民衆の間に統計思想普及せざし其の根本的な原因を見出すべきであらう。蓋し統計の事たるは、獨り官府當局に委ねて萬全を期待すべきではなく、全國民の理解と協力を俟つて始めて其の理想に到達し得るものである。

されば統計の整備と謂ひ統計事務の刷新と謂ひ、要は統計思想の普及向上を圖り、統計の民衆化を強調するに在つて、我が朝鮮統計協會の使用も亦茲に存し、即ちこの記念すべき始政二十五年の秋を期して本會を結成するもの、極めて有意義なるを確信する所以である。

冀くは大方諸賢は本會の意の存する所に賛同せられ、本會の使命遂行に協力せられんことを。 昭和十年十月

朝鮮昭和十年

國勢調査關係法規

朝鮮昭和十年國勢調査施行に關し之が關係法令規程及手續等新に制定公布せられたものを掲ぐれば左の通りである。

- 一 昭和十年國勢調査施行令
(四月十二日 勅令第八十二號)
- 一 朝鮮昭和十年國勢調査施行規則
(五月二十五日 府令第七十五號)
- 一 同 特別地域調査規則
(五月二十七日 府令第七十六號)
- 一 同 地方事務取扱規程
(五月二十七日 訓令第十九號)
- 一 國勢調査員心得
(五月二十七日 訓令第二十號)
- 一 國勢調査申告書用紙様式
(五月二十七日 告示第三百二十二號)
- 一 國勢調査員徽章圖式
(五月二十七日 告示第三百二十三號)
- 一 國勢調査申告書記入心得
(五月二十七日 官報彙報)
- 一 國勢調査書類検査手續
(五月二十七日 官報彙報)

報告例整理の概況

(昭和十年十月官通課三七)

最近各官署の事務膨張は著しいものがあるが、之を緩和する爲本府に於ては客年十月報告例の整理を行ひ事務簡捷を圖る所があつた。整理の概況は次の通りである。

別冊甲號	整理報告同表數ノ減		別冊乙號	
	報告同表數	減	報告同表數	減
即報	一	一	一	一
月報	一	一	三	三
季報	一	一	一	一
半年報	一	一	一	一
年報	一	一	一	一
年報ニ改メタルモノ	一	一	一	一
簡略ニシタルモノ	一	一	一	一
合計	二九	五	八	六

(備考) 表數ハ表號數、報告同數ハ一箇年ノ報告同數トス

朝鮮統計協會會則

- 第一條 本會ハ朝鮮統計協會ト稱ス
- 第二條 本會ハ事務所ヲ朝鮮總督官房文書課内ニ置ク
- 第三條 本會ハ統計事務ノ刷新改善及統計知識ノ普及向上ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第四條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ
 - 一 統計ニ關スル研究
 - 二 機關雜誌ノ刊行
 - 三 功績者及優良邑面ノ表彰
 - 四 其ノ他本會ノ目的ヲ達成スル爲必要ナル事項
- 第五條 本會ハ朝鮮總督府及道府郡島邑面統計事務關係者並ニ其ノ他本會ノ趣旨ニ賛同スル有志ヲ以テ組織ス
- 第六條 會員ヲ分チテ左ノ二種トス
 - 一 贊助會員 一時二十圓以上ヲ寄附シタル者
 - 二 正會員 會費年額六十錢ヲ齎出スル者
- 第七條 本會ハ會長ニ朝鮮總督官房文書課長ヲ推戴ス

地方通信

木浦府に於ける
人口調査準備打合せ

木浦府に於ける

木浦府に於いては昭和十年十二月末日現在に於ける現住人口調査を行ふべく、先づ府内を三十五の調査區に分劃し、豫て調査員詮衡中であつたが、夫々人選を終り陣容全くとのつたので、十二月十日より同十六日迄七日間一齊に準備調査を行ひ、翌十一年一月六日より同八日迄三日間に亘り、本調査即ち十二月末日迄の異動を調査することとなつたが、本調査の重要性に鑑み、之が調査の正鵠を期する爲、十二月七日午前十時より公會堂に於て人口調査準備打合せが開催された。府尹の訓示、閔統計主任の調査要項説明、質疑應答試験調査等があつて、午後六時閉會された。因に當打合せに於ける増田府尹の訓示要旨は次の通である。

府尹訓示要旨

本日茲に諸君の御參集を煩はし、本年十二月末日現住人口調査準備打合せを爲すに當り、一言所懐を述べざるを得ませんとは私の寔に欣幸とする所であります。轉近時勢の進運に伴ひ、國家社會の財政、

木浦府尹 閔 丙 宗

經濟、其の他諸般制度の實策は其の基礎を統計に置くこととなり、之が調査審議の基礎資料として最近の事實に關する統計に對する要求が甚だ切實を加へて來たのであります。斯くの如く國家、社會の振興に關する諸般の審議資料を、悉く實證的統計に據ることを考へますとき、統計の使命は感々重且大なるものあるを覺ゆるのであります。

當府に於ては毎年少なからざる費用を投じ人口調査を行ふ所以のものは、即ち其の年末現住人口の實狀を明かにし、更に是れを前年末調査と比較検討して、如何にすれば府民の文化的發展を期することが出来るか、其の基本を知らんとするに外ならないのであります。

本調査の時期が恰も年末年始に當りますので調査上相當困難を感ずることと思惟せらるるものであります。諸君は如上の懸念を克く了得せられ、眞摯なる態度を以て別途調査要項の討究を遂げ、調査上些の遺漏なきを期せられんことを切に希望して止まない次第であります。

會長ハ會務ヲ總理ス
第八條 本會ニ左ノ職員ヲ置キ會長之ヲ屬託ス

一 主 事 一名

二 幹 事 若干名

三 地方委員 道府郡島各一名

主事、幹事及地方委員ハ會長ノ命ヲ受ケ會務ヲ處理ス

會長事故アルトキハ主事其ノ職務ヲ代理ス

第九條 會長必要アリト認ムルトキハ囑託及書記ヲ置クコトヲ得

第十條 本會ノ役員ハ名譽職トス

第十一條 本會ノ經費ハ會費、寄附金、財産ヨリ生ズル收入、事業ニ伴フ收入及其ノ他

本會ニ屬スル收入ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 會長ハ毎年度一回前年度ノ收支決算ヲ機關雜誌ニ依リ報告スベシ

第十三條 本會ノ會計年度ハ曆年ニ依ル

朝鮮統計協會諸規程

會員ニ關スル規程

第一條 本會ニ入會セントスル者ハ左ノ手續ニ依リ其ノ旨申出ヅルモノトシ退會セントスル者又ハ勤務先若ハ住所ヲ變更シタル者亦同ジ

鑿岩郡	海東郡	長津郡	和順郡	寶城郡	高興郡	順天郡	麗水郡	光陽郡	求禮郡	谷城郡	潭陽郡	光山郡	光州府	本浦府	道	益山郡	沃溝郡	金契郡	扶安郡	高敞郡	井邑郡	淳昌郡	南原郡	任實郡	長水郡		
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同		
鄭相烈	趙河清	梁志訓	張承律	高光學	近藤新次郎	呂忠鉉	林下春海	竹準植	後藤忠	金周稷	鎭後直市	權承一	李揆甲	閔丙宗	李心和	般致黃	沖良人	古川眞	林春成	浦川汎	太田猛夫	山縣守次	殿桂完	宮岡時彌	任成根		
海山郡	金谷郡	漆谷郡	星州郡	高靈郡	清道郡	慶山郡	慶州郡	迎日郡	盈德郡	英陽郡	青松郡	安東郡	義城郡	軍威郡	達城郡	大邱府	道	慶尙北道	濟州島	珍島郡	莞島郡	長城郡	靈光郡	咸平郡	羅州郡	務安郡	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
朴英植	上田一	松下任	寺石任	安瓊煥	許健三	寺井健三	李鎮夏	張鎮權	今井弘平	李承魯	正岡景孝	池田重一	中平敦之	山元敦之	林元根	藤原萬助	道	慶尙南道	金鳳洙	三宅理一	雨宮幸男	梁在鎬	金夢阿	吉浦金之丞	曹玉煥	喪長命	
咸陽郡	山清郡	河東郡	南海郡	固城郡	統營郡	昌原郡	金海郡	東萊郡	蔚山郡	梁山郡	密陽郡	昌寧郡	咸安郡	宜寧郡	晉州郡	馬山府	釜山府	道	慶尙南道	道	道	道	道	道	道	道	道
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
本間太郎	有吉虎之助	長治勝雄	柳在源	河性守	車性守	鄭京俊	垣田岩雄	宋永	曲田政助	柳熙東	崔貞海	山本十一郎	峰藤好夫	孫永壽	西村文雄	松川源哲	李信東	永瀨治次	坂本官藏	小山光遐	柳志昌	伊藤貞藏	金相圭	崔仁煥	前川正之	和智謙三	

表彰規程

- 第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ本會ニ於テ之ヲ表彰ス
- 一 統計事務ニ關シ功績顯著ナル者
- 二 統計ニ關シ特殊ノ施設又ハ考案ヲ爲シ裨益アリト認ムル者
- 三 邑面ニシテ統計資料ノ蒐集、整理及報告等他ノ模範ト爲スニ足ルベキモノ
- 第二條 前條ニ依リ表彰セラレタル者ニ對シテハ表彰狀又ハ金品ヲ授與シ其ノ功績ハ機關雜誌ニ依リ公表ス
- 第五條 「朝鮮統計時報」ニ掲載シタル寄稿ニ對シテハ謝禮ヲ贈呈スルコトアルベシ
- 第六條 「朝鮮統計時報」ニ掲載シタル廣告ニ對シテハ別ニ定ムル標準ニ依リ料金ヲ徵收ス

編輯後記

◇十月に協會が生れて新春には本誌創刊號を出さうと云ふ。與へられた年末の二ヶ月は係の決算報告書とも云ふべき

統計年報の編纂期で——いそ多忙を以て發行遅延の辨とするのは止さう。國勢調査や年末戸口調査の忙中に寸暇を割いて會員募集に奔走せられた地方委員諸君はもつとひどかつたし、又通信費などに少からぬ犠牲を拂はれた。何にしても約東の一月に本誌をお送りすることの出来なかつたのは我々の落度である。

◇いづこも同じ年末年始のお忙かしい中を、總督閣下の御題字も、内鮮滿の高官權威の方々のお祝ひの詞と、高田統計局人口課長の玉稿を頂くことが出来たのは我々の成功である。只政務總監閣下からも一文を頂く豫定であつたが、偶々閣下御上京の爲遂に果し得なかつたのは残念であつた。次

號に期待せられた。又會員諸氏の寄稿がもつと欲しい。次號には期待してゐる。

◇もつと高級な研究と資料の雜誌を期待してゐられた方があつたかも知れぬ。しかしそれらの目的の爲には別に本府の「調査月報」がある。本會の狙ふ所は統計の民衆化であり、本誌の目標とするものは大衆である。若し卑俗の點があつたとしても、それは寧ろ本誌の意圖する所であることを御諒解願ひたい。

◇本誌にも一文を寄せられた山雅男氏は誰も知る朝鮮統計界の開闢者、昨年滿洲國統計協會發會に際し寄せられたお詞の中にも、朝鮮の統計の進歩に言及し「惜しむらくは朝鮮に統計協會のなき一事なり」と言つてゐられる。恐らく氏は本誌を手にして最も喜んで下さるお一人であらう。

◇例へば形態に於て貧弱な一小冊子に過ぎないにしても、協會がその存在をはつきり世に示す最初の

仕事である。我々は之に全力を傾けた。が何といつてもずぶの素人が寄集つて本務の片手間にした仕事、扱てどんなものが刷り上るか。只限られた紙面になるべく多くを感らうとした我々の努力だけは認められてもよいと思ふ。

◇あとすればよかつた。かうもしたかつた。御多聞に洩れず下司の思案は後で出る。しかしそこに進歩もある。次號には相當の腹案と、それに何よりも多少の時間的餘裕がある。尙大方の叱正と注文を聴かせて下さい。かうして本誌も一號一號よいものになつて行くであらう。

◇雜誌の編輯といふこと、その苦心、之を終へた歡び——恐らく我々の誰にとつても最初の経験であらう。とにかく編輯は終つた。さあ何十日ぶりに足腰伸ばして——と云ひたいが、さうはいかない。係の決算報告書たる統計年報の校正は今を耐に進行してゐるのである。

廣告案内

本誌廣告掲載御希望の向は本會事務所(朝鮮總督官房文書課内)又は本會地方委員(各道府郡島廳内)統計主任)へ御照會ありたし。

昭和十一年二月廿五日印刷
昭和十一年三月一日發行

定價(送料共)拾五錢

京城西小門町官舎十三號

編輯兼 村 辻 元

發行人 藤 本 外 次

印刷所 京城南米倉町一五九番地

印刷所 行政學會印刷所

朝鮮總督官房文書課内

發行所 朝鮮統計協會

振替京城二四、四八八番

大小を問はず

御宴會は明石へ

割烹明石

大邱府村上町

電話五五〇七番

(和洋折衷)

公大電

會

堂

邱話

五

驛

三

ホ前九番

大邱驛前で

テ

とても感じ

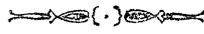
のよい

ル

京畿道漁業組合聯合會

(仁川府花房町)

業 務



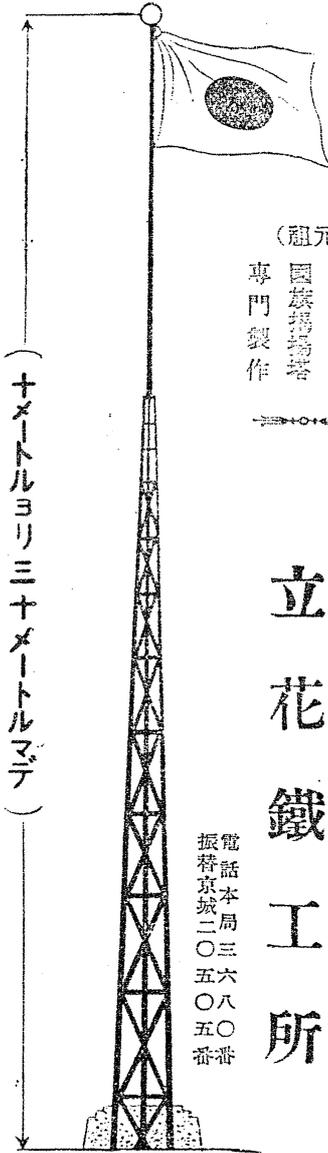
- 一 所屬漁業組合業務ノ指導
- 二 所屬漁業組合ノ金融
- 三 漁獲物販賣統制
- 四 所屬組合員ノ所要品購買
- 五 一般漁業ノ指導並指導統制

京城府光熙町壹丁目一四五

立花鐵工所

(租元)

立花式鐵骨
國旗揚塔
專門製作



電話本局三六八〇番
振替京城二〇五〇五番

朝鮮總督府專賣度量衡器委託販賣所
東京測機舍測量器械朝鮮總代理店
東京精工舍測量器械朝鮮總代理店
三菱造船所鍛鐵製事務用家具朝鮮總代理店

營業目錄

最新事務用品
測量製圖器械
歐米文房具
和洋紙諸帳簿
高級印刷
最新式謄寫版

京城本町一丁目入口角

篠崎半助商店

電話本局一八六八番
振替日座京城一五四八番
京城局私書函一五四八番

各種財産の信託及
年賦・定期・手形貸付

有利迅速

(營業案内贈呈)

京城府南大門通一丁目十九番地



朝鮮信託株式會社

社長 谷多喜磨

支店所在地

群山・釜山・木浦・平壤・大邱

農場所在地

仙掌・利川・群山・大田・江景・井邑・南原・寶城

信用
隨一
の
日本
毛布

省府廳
務總督
朝鮮東
拓關大

御 聲 援

商工省認可

日本毛布工業組合

日本毛布の天_印地_印人_印

巨額 勿論優良です
感 勿論善良です
價 勿論確實です

優秀品の特徴を完全に具備して
堂々市場を壓する三大毛布

天 印 二枚綴 ¥ 22.00
地 印 二枚綴 ¥ 16.60
人 印 二枚綴 ¥ 12.00

—御申込次第にカタログ進呈致します—

京城配給所(本町二丁目)

小 賣 部
納 入 部
合理月賦部

丸三毛布店

電話本局三〇八三番
振替京城九六四番

配 給 所 所 在 地

京 木 大 釜
城 浦 邱 山

滿蒙毛織が服地の切賣り

生産者から.....御家庭へ

高級 春の脊廣地

一著分.....¥ 13.50.....¥ 20.00

脊廣三ツ揃

附屬品 一揃

¥ 7,00.....¥ 8,00

- I 仕立御希望の向へは實費にて御引受致します
- II 官廳、銀行、會社等へ御勤めの方には月賦の御申込み
に應じます
- III 御電話下されば見本持參社員を御伺ひ致します

京城南大門通り三丁目一〇三

滿蒙毛織株式會社 京城出張所

電本四三七三番

スピーサーと味

んでお八十

